

平成 22 年度 大阪湾広域廃棄物処理場整備事業

海生生物育成調査

報 告 書

平成 2 2 年 1 1 月

(財) ひょうご環境創造協会

目 次

第1章 調査概要	
1. 調査目的	1
2. 調査実施日	1
3. 調査場所	1
4. 調査内容	3
5. 調査方法	4
第2章 調査結果	
1. 水質調査	
(1) 一般観測	7
(2) 機器測定	9
2. 生物調査	
(1) 目視観察	14
(2) 粹取り採取および分析	35
資料編	
・ 粹取り分析結果	
・ 写真集	

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、神戸沖、大阪沖、泉大津沖の各処分場において、潜水による生物の目視観察および採取を実施し、海生生物の生息状況、神戸沖処分場および大阪沖処分場に導入した緩傾斜式石積み護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を検討することを目的とする。

2. 調査実施日

神戸沖処分場 : 平成 22 年 5 月 30 日

大阪沖処分場 : 平成 22 年 5 月 29 日

泉大津沖処分場 : 平成 22 年 5 月 21 日

3. 調査場所

(1) 神戸沖処分場

調査地点は、緩傾斜護岸である1地点(A-2)、傾斜護岸である1地点(A-4)、直立護岸である2地点(A-5、7)の計4点に設定した。(図1-3-1)

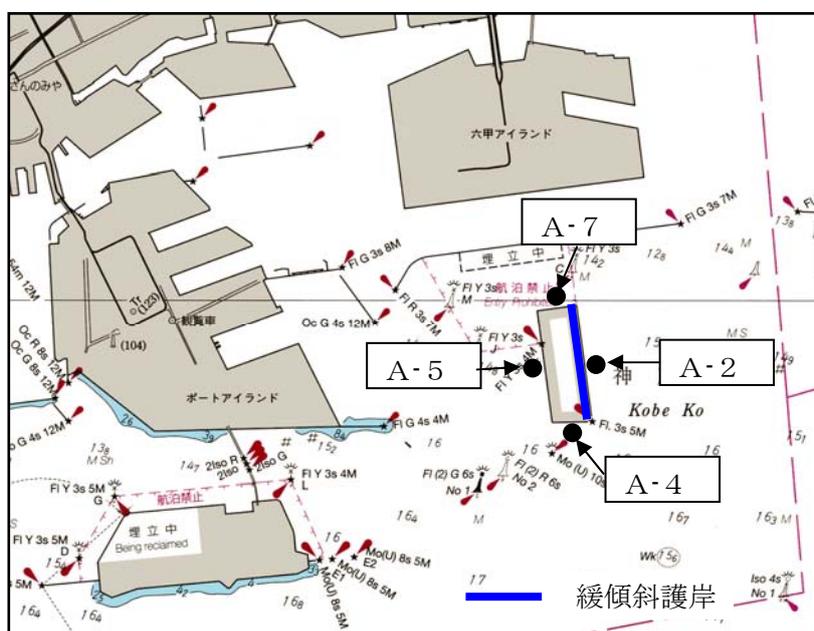


図1-3-1 神戸沖処分場調査地点

(2) 大阪沖処分場

調査地点は、直立護岸である3地点（C-1、5、6）、傾斜護岸である1地点（C-2）、緩傾斜護岸である2地点（C-3、4）の計6点に設定した。（図1-3-2）

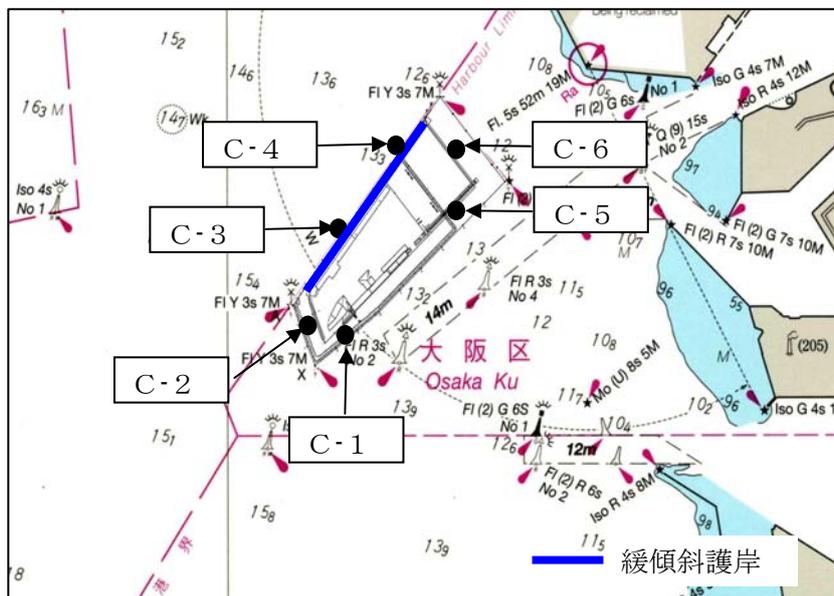


図1-3-2 大阪沖処分場調査地点

(3) 泉大津沖処分場

調査地点は、直立護岸である1地点（D-3）、傾斜護岸である1地点（D-2）、エコ岸壁2地点（D-5、6）の計4点に設定した。（図1-3-3）

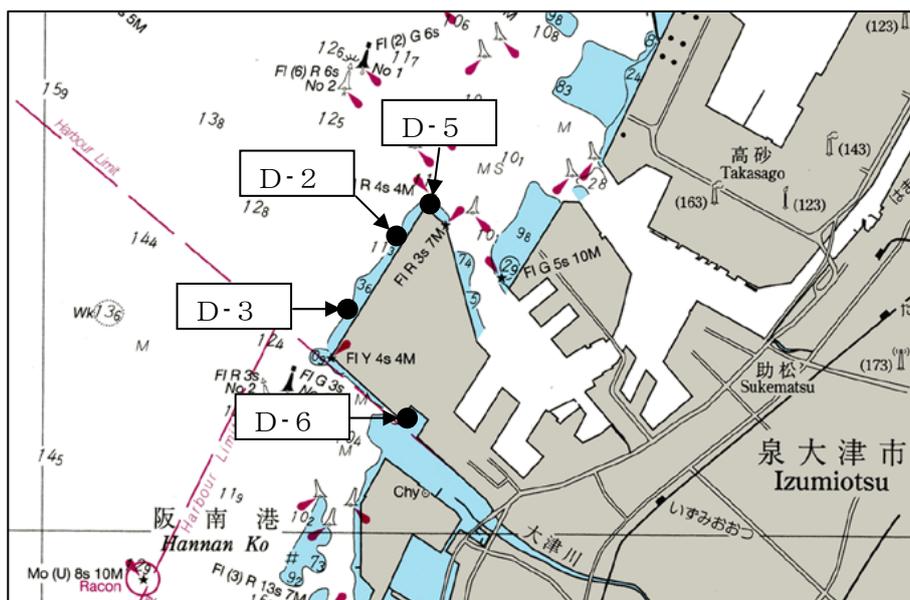


図1-3-3 泉大津沖処分場調査地点

4. 調査内容

調査内容は、各調査地点の水質環境を把握するための水質調査（一般観測・機器測定）、生物の分布状況を把握するための生物調査（目視観察・枠取り試料の分析）とした。

調査内容および調査項目を表 1-4-1 に示した。

表 1-4-1 調査内容および調査項目

調査内容		調査項目	調査地点
水質調査	一般観測	天候・雲量・気温 風向・風速・風浪階級 水色・透明度	10 地点 (A-2、4、5、7) (C-1、2、3) (D-2、5、6)
	機器測定	水温・塩分・DO・光量	
生物調査	目視観察	植物（種類・被度） 動物（種類・個体数・被度） 魚類（種類・個体数）	14 地点 (A-2、4、5、7) (C-1、2、3、4、5、6) (D-2、3、5、6)
	枠取り試料の分析	植物（種類・湿重量） 動物（種類・個体数・湿重量）	

5. 調査方法

(1) 水質調査

水質調査は神戸沖処分場の4地点、大阪沖処分場の3地点および泉大津沖処分場の3地点で実施した。(表1-4-1参照)

① 一般観測

天候および雲量、風向および風浪階級は船上からの目視観測によって記録した。このほかに、気温はアスマン乾湿計、風速はビラム通風計、水色は標準色カード、透明度は透明度板を使用し船上から測定した。

② 機器測定

水温、塩分、DO(溶存酸素)および光量(光量子束密度)の4項目について、船上から海中に水質測定機器のセンサーを投下し、海面下0.5m層、海面下1m以深については1m間隔の各層で測定を行った。(図1-5-1)

光量では、海面上の光量子束密度を100%として海面下各層の相対光量(%)の値を算出した。

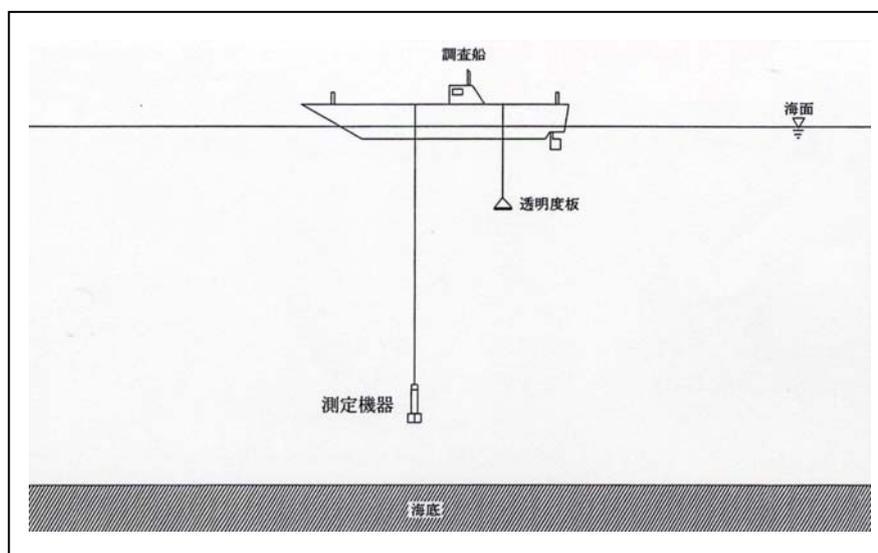


図1-5-1 機器測定状況

(2) 生物調査

生物調査は神戸沖処分場(目視観察調査4地点、枠取り試料の分析1地点)、大阪沖処分場(目視観察調査6地点、枠取り試料の分析1地点)および泉大津沖処分場(目視観察調査4地点、枠取り試料の分析2地点)で実施した。(表1-4-1参照)

① 目視観察

目視観察では、潜水により、平均海面+1 mから海底面まで水深1 mごとに50×50cmの方形枠を設置し、枠内の植物（種類、被度）、動物（種類、個体数、被度）を観察し、写真撮影を行った。護岸周辺の魚類の目視観察では、±0 mから海底面まで水深2 mごとに、確認した種類と大きさを記録し、個体数をCR法（表1-5-1参照）によって概略的に把握した。（図1-5-3）

D-5、6（エコ岸壁）では、図1-5-2に示すとおり、水深+1 mから海底面まで幅50cm×高さ100cmの範囲で連続的に植物および動物を観察し、写真撮影を行った（図内↑↓部）。また、6つの遊水室のうち、中央部上下の2箇所をそれぞれ上室と下室として、可能な限り、植物および動物を目視観察し、写真撮影を行った（図内■部）。魚類については、エコ岸壁の遊水室内、周辺、並びに貫通孔の3区分に分けて観察を行った。

これらの目視観察と同時に、原則として表1-5-2の類型区分に従って、底質の性状の観察を行った。

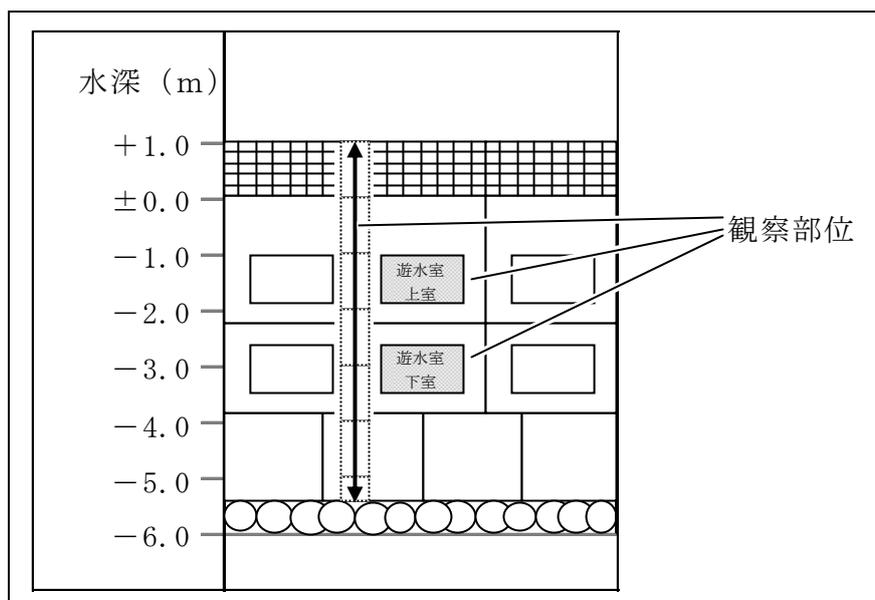


図1-5-2 D-5・6（エコ岸壁）における観察部位

表1-5-1 CR法による個体数区分

記号	個体数区分
rr	1～2個体
r	3～10個体
c	11～50個体
cc	51個体以上

表 1-5-2 底質の類型区分

記号	区分の基準
B (ブロック)	—
R (岩盤)	—
S (転石)	等身大以上
Pl (巨礫)	等身大～大人の頭
Pm (大礫)	大人の頭～こぶし大
Ps (小礫)	こぶし大～米粒大
Sd (砂)	米粒大以下～粒子が認められる程度
Md (砂)	粒子が認められない

② 枠取り試料の分析

枠取り試料の分析では、潜士によって調査地点の上層（平均海面±0 m）、中層（平均海面-2 m）、下層（平均海面-4 m）の3層から、50×50cm 枠内の付着生物試料を採取した。採取した試料は10%ホルマリン溶液で固定して持ち帰り、室内で1 mm ふるいを使用してふるいがけし、ふるい上に残った生物の種類、個体数（動物のみ）、湿重量の分析を行った。

③ 目視観察および枠取り試料の分析結果の表記

結果の表記について、植物の分類は、吉田・吉永・中嶋編「日本産海藻目録（2000年改訂版）」に従った。動物の分類は、門については「新日本動物図鑑（上・中・下）（1982）」に従い、綱以下について、軟体動物門は奥谷編「日本近海産貝類図鑑（2000）」、節足動物門と棘皮動物門は西村編「原色検索日本海岸動物図鑑（Ⅱ）（1995）」、魚類は中坊編「日本産魚類検索（Ⅰ・Ⅱ）（2000）」、その他は原則として「新日本動物図鑑（上・中・下）」に従った。

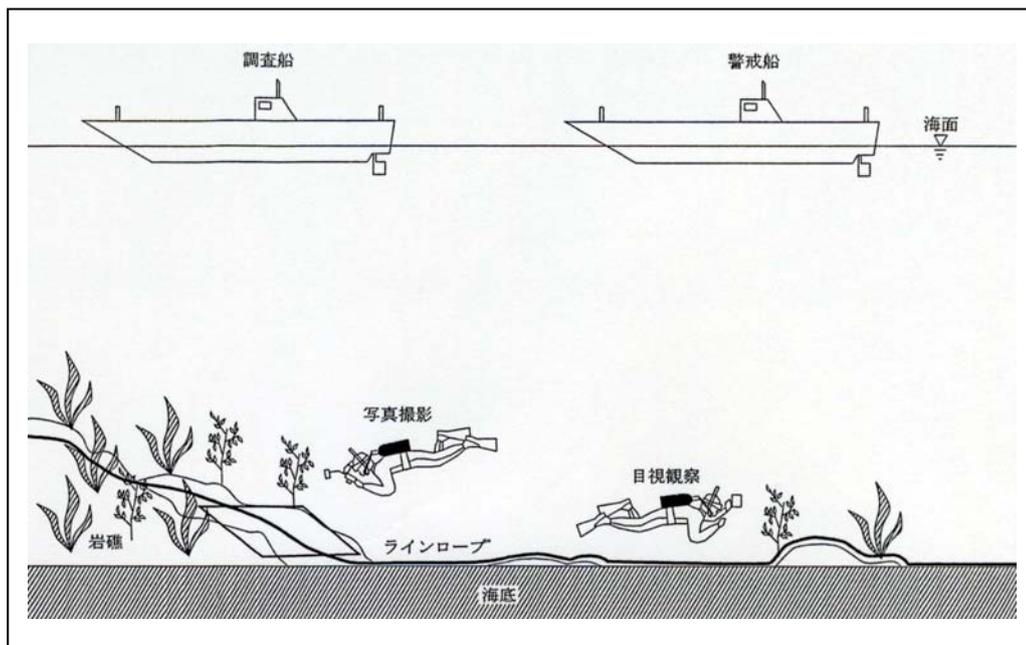


図 1-5-3 潜水作業状況

第2章 調査結果

1. 水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表2-1-1に示した。

① 神戸沖処分場

神戸沖処分場（平成22年5月30日）の天気は晴、雲量は2～5、気温は18.5～24.5℃、風浪階級は1、風速は1.9～4.5m/sで、風向は東南東のち南であった。透明度は2.3～3.0m、水色はA-2、4、5でメドウグリーン、A-7でときわ色であった。

② 大阪沖処分場

大阪沖処分場（平成22年5月29日）の天気は晴、雲量は2～7、気温は20.0～22.0℃、風浪階級は1、風速は1.1～3.1m/sのちcalmで、風向は東南東のち無風であった。透明度は3.3～5.3m、水色はすべての調査地点でボトルグリーンであった。

③ 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場（平成22年5月21日）の天気はくもり、雲量は10、気温は20.5～23.0℃、風浪階級は1、風速は1.0～3.1m/sで、風向は西南西のち西であった。透明度は5.3～7.5m、水色はすべての調査地点でボトルグリーンであった。

表 2 - 1 - 1 一般観測結果

神戸沖 (5月30日)	調査地点	A - 2	A - 4	A - 5	A - 7
	調査時間	12:00~12:25	10:36~11:10	9:30~10:00	8:35~8:55
	天気・雲量	晴・2	晴・2	晴・4	晴・5
	気温	23.5℃	24.5℃	22.5℃	18.5℃
	風浪階級	1	1	1	1
	風速・風向	2.0m/s・南	1.9m/s・南	3.2m/s・東	4.5m/s・東南東
	透明度	3.0m	2.8m	2.3m	2.4m
	水色	メトウケグリーン 3GY 5.0/9.5	メトウケグリーン 3GY 5.0/9.5	メトウケグリーン 3GY 5.0/9.5	ときわ色 8GY 4.5/9.0
	水深	16.4m	16.5m	16.5m	14.0m
	大阪沖 (5月29日)	調査地点	C - 1	C - 2	C - 3
調査時間		9:55~10:25	10:31~11:00	12:35~13:00	
天気・雲量		晴・7	晴・7	晴・2	
気温		20.0℃	20.5℃	22.0℃	
風浪階級		1	1	1	
風速・風向		3.1m/s・東南東	1.1m/s・北東	calm	
透明度		3.6m	3.3m	5.3m	
水色		ホトケグリーン 3G 3.0/4.5	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5	
水深		13.4m	15.7m	13.6m	
泉大津沖 (5月21日)		調査地点	D - 2	D - 5	D - 6
	調査時間	10:25~10:45	9:52~10:10	13:30~14:00	
	天気・雲量	くもり・10	くもり・10	くもり・10	
	気温	22.0℃	20.5℃	23.0℃	
	風浪階級	1	1	1	
	風速・風向	1.6m/s・西南西	3.1m/s・西南西	1.0m/s・西	
	透明度	7.5m	5.3m	7.3m	
	水色	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5	ホトケグリーン 3G 3.0/4.5	
	水深	12.5m	13.0m	12.5m	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表2-1-2に、鉛直分布図を図2-1-2(1)～(3)に示した。

① 神戸沖処分場

神戸沖処分場の水温は15.7～17.6℃、塩分は27.1～32.1、DOは4.5～11.2mg/L、相対光量は0.1%未満～73.3%(光量子束密度0.2～1,902 μ E/m²/sec)の範囲であった。

鉛直分布をみると、水温は4地点とも深くなるにつれて徐々に低くなったが、A-2では水深1～2mで顕著に低下した。塩分は4地点とも深くなるにつれて高くなったが、A-2、4では表層の塩分が低く、A-2では水深1～5mで、A-4では水深6～9mで顕著に上昇した。DOはA-5、7では深くなるにつれて徐々に減少する傾向がみられたが、A-2では水深3mまで、A-4では水深5mまで徐々に増加し、A-2では水深3～6mで、A-4では水深5～9mで顕著に低下した。相対光量は4地点とも深くなるにつれて減少したが、A-5では水深0～2mでの光量の減衰が著しかった。A-5では水深6m以深で、A-4、7では水深7m以深で、A-2では水深8m以深で相対光量が1%未満となった。

② 大阪沖処分場

大阪沖処分場の水温は15.8～19.0℃、塩分は22.4～32.1、DOは4.8～8.6mg/L、相対光量は0.1～72.1%(光量子束密度3.1～1,803 μ E/m²/sec)の範囲であった。

鉛直分布をみると、水温はC-1、2では表層から底層にかけてほぼ一様であったが、C-3では表層で高く、水深0～2mで顕著に低下した。塩分は3地点とも深くなるにつれて高くなり、C-1では水深1～3m、C-2では水深2～5m、C-3では水深0～4mで顕著に上昇した。特に、C-3では表層の塩分が低く、上昇が著しかった。DOは3地点とも深くなるにつれて徐々に減少する傾向がみられた。相対光量の減衰傾向は3地点ともほぼ同じで、C-1、3では水深11m以深で、C-2では水深12m以深で1%未満となった。

③ 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の水温は14.6～22.0℃、塩分は24.4～32.0、DOは2.8～11.1mg/L、相対光量は1.4～66.9%(光量子束密度22.7～1,518 μ E/m²/sec)の範囲であった。

鉛直分布をみると、水温は3地点とも深くなるにつれて低くなったが、D-2では水深3～4mで、D-5では4～6mで、D-6では0～6mで顕著に低下した。特に、D-6では表層の水温が高く、変化が著しかった。塩分は3地点とも深くなるにつれて高くなったが、D-2、5では水深2～4mで顕著に高くなり、表層の塩分が著しく低かったD-6では水深0～1mで顕著に上昇した。特に、D-6では表層の塩分が低く、変化が著しかった。DOは3地点とも深くなるにつれて減少する傾向がみられたが、D-2では水深2～3mと8～9mで、D-5では水深3～8mで、D-6では水深2～8mで顕著に低下した。相対光量の減衰傾向はほぼ同じで、いずれの調査地点の底層でも相対光量は1%以上であった。

表 2-1-2 水質測定結果概要表

項目(単位)		水温 (°C)	塩分 (-)	DO (mg/L)	相对光量 (%)	光量子束密度 ($\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{sec}$)
調査地点						
神戸沖	A-2	15.7 ~ 17.6	27.1 ~ 32.1	4.6 ~ 10.6	0.1 ~ 62.5	2.8 ~ 1,691
	A-4	15.8 ~ 17.3	27.6 ~ 32.1	4.7 ~ 11.2	<0.1 ~ 73.3	0.2 ~ 1,902
	A-5	16.1 ~ 16.8	29.1 ~ 31.8	5.5 ~ 10.3	<0.1 ~ 59.8	0.4 ~ 1,507
	A-7	15.7 ~ 16.4	29.5 ~ 32.0	4.5 ~ 8.7	0.1 ~ 71.5	2.5 ~ 1,733
大阪沖	C-1	15.8 ~ 16.5	27.2 ~ 32.1	4.8 ~ 7.2	0.3 ~ 72.1	7.9 ~ 1,803
	C-2	16.2 ~ 16.6	28.5 ~ 32.0	5.6 ~ 8.0	0.4 ~ 66.5	8.1 ~ 1,505
	C-3	16.0 ~ 19.0	22.4 ~ 32.1	5.3 ~ 8.6	0.1 ~ 59.9	3.1 ~ 1,475
泉大津沖	D-2	14.7 ~ 19.6	29.4 ~ 32.0	3.8 ~ 9.9	1.5 ~ 62.4	37.0 ~ 1,518
	D-5	14.8 ~ 19.3	29.6 ~ 32.0	4.6 ~ 11.1	1.4 ~ 66.9	22.7 ~ 1,078
	D-6	14.6 ~ 22.0	24.4 ~ 32.0	2.8 ~ 10.3	1.4 ~ 56.9	29.3 ~ 1,225

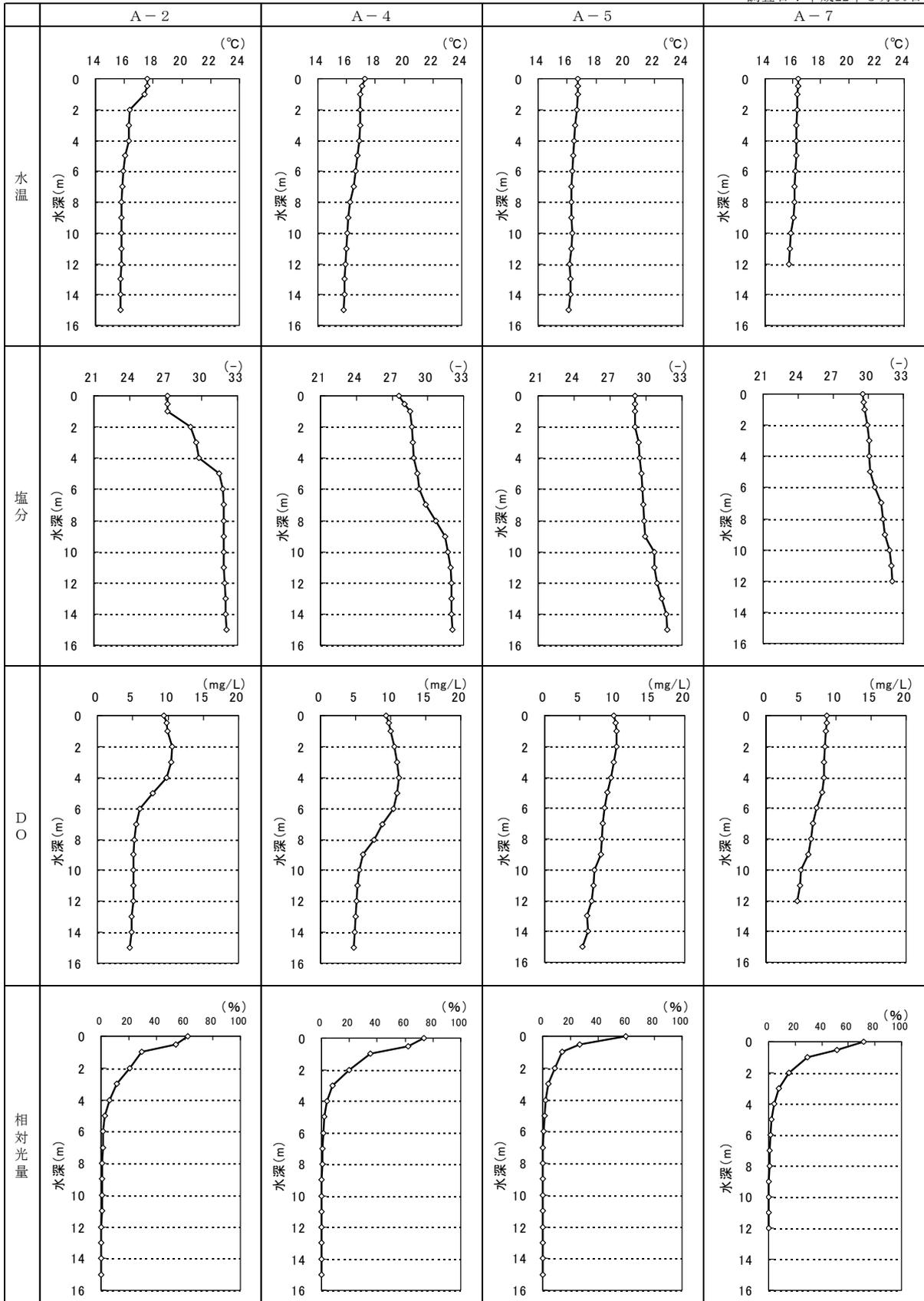


図2-1-2 (1) 水質の鉛直分布

調査場所：大阪沖処分場
調査日：平成22年5月29日

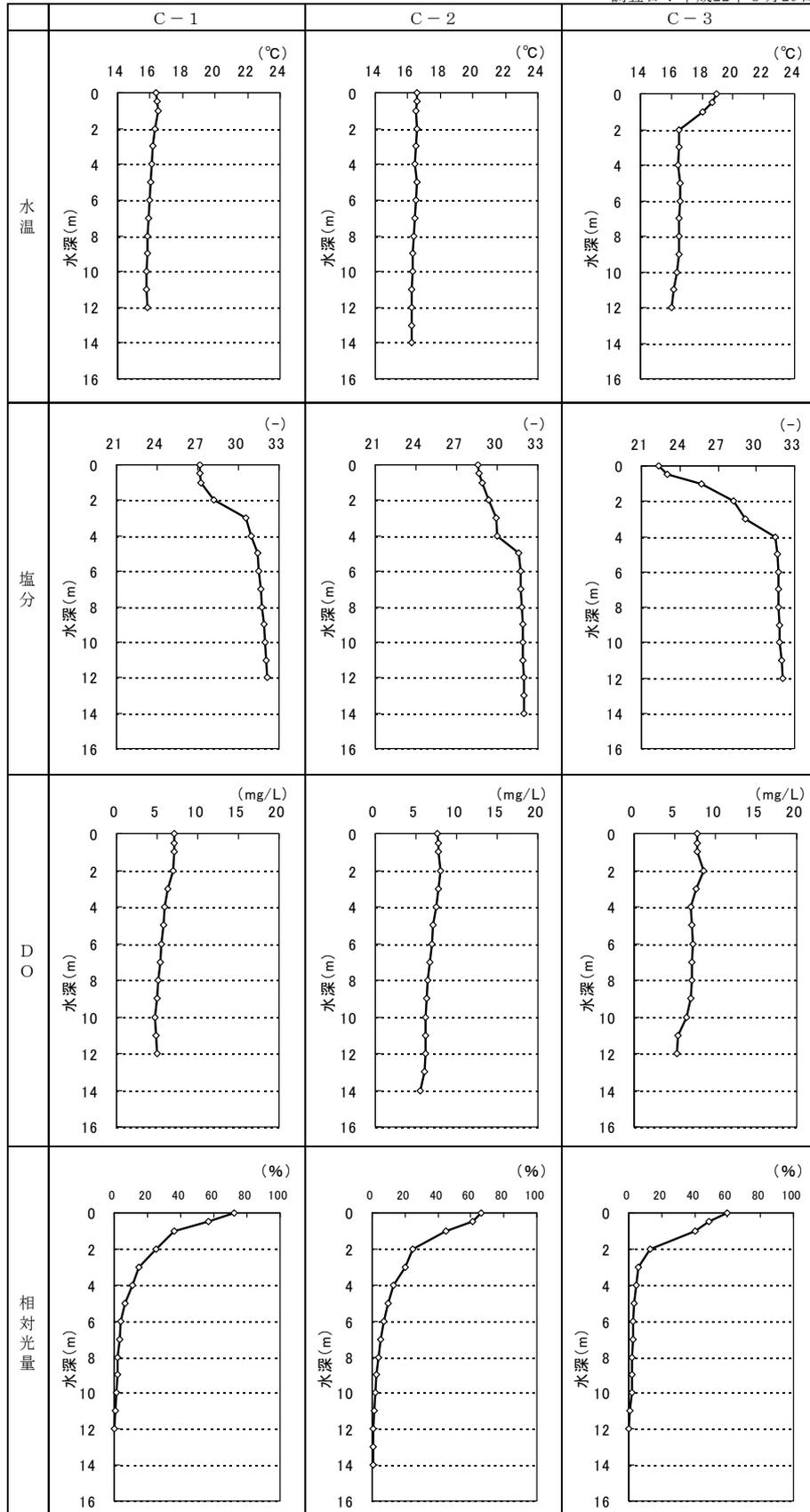


図2-1-2 (2) 水質の鉛直分布

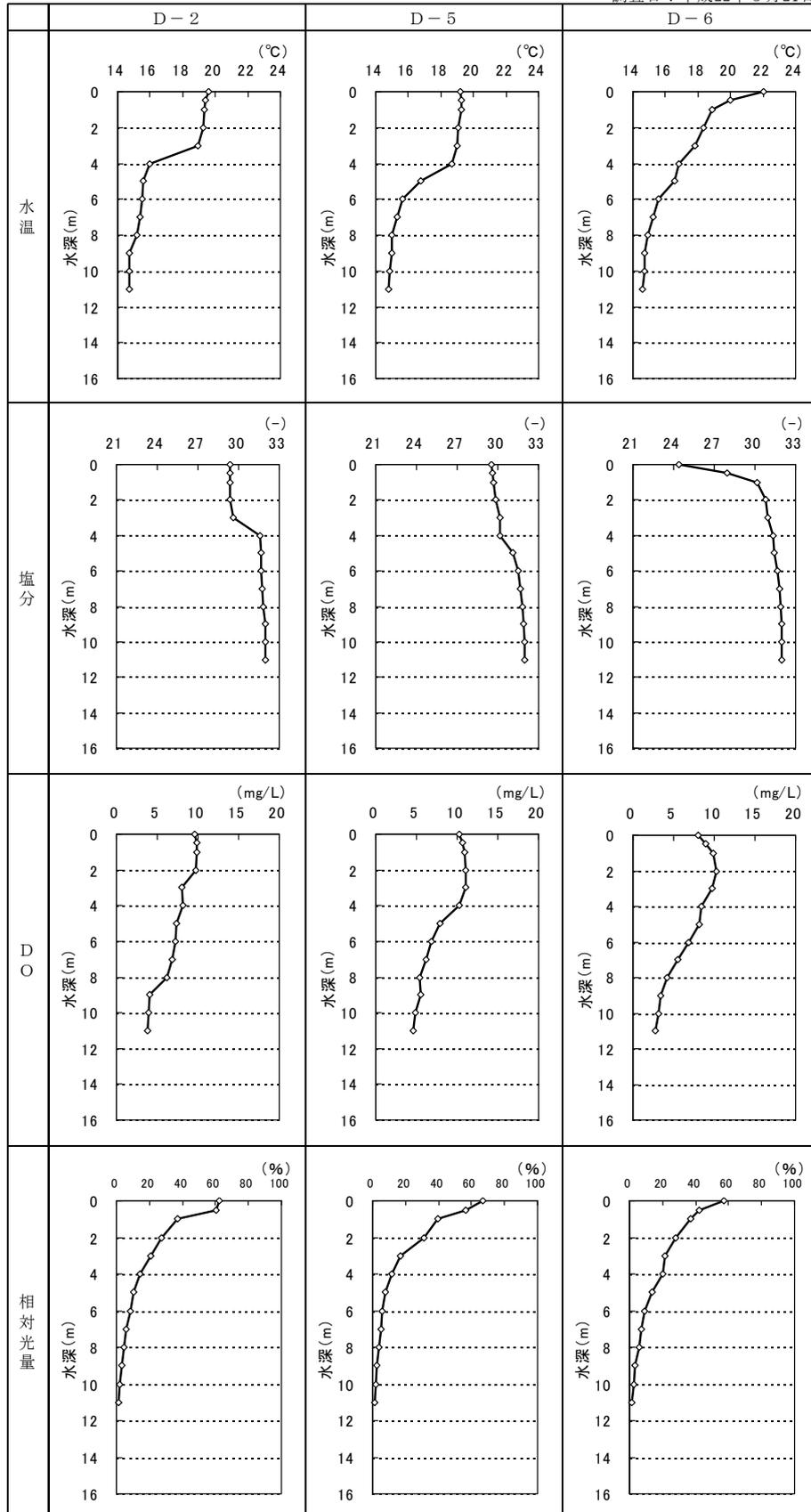


図2-1-2 (3) 水質の鉛直分布

2. 生物調査

(1) 目視観察

① 植物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の植物の目視観察結果を表2-2-1(1)～(4)に示す。

A-2では、植物は平均海面+1～-9mに分布し、23種類が確認された。種類数が多かったのは-1～2mと-4mで8種類であった。被度30%以上の種類は、±0mで緑藻綱のアオサ属が60%、-1mで紅藻綱のツルツルが70%、-3mで藻場構成種である褐藻綱のシダモクが30%、-3～4mで紅藻綱のマクサが30～60%、-5mで紅藻綱のカバノリが30%であった。藻場構成種はシダモクのほかに、褐藻綱のタマハハキモクが-1mで10%であった。

A-4では、植物は±0～-8mに分布し、18種類が確認された。種類数が多かったのは-2～-3mで11種類であった。被度30%以上の種類は、-1～-2mで紅藻綱のフダラクが30～50%、-5mで紅藻綱のベニスナゴが60%であった。藻場構成種はタマハハキモクが-2～3mで5%未満～20%であった。

A-5では、植物は±0～-9mに分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは-1mで7種類であった。被度30%以上の種類は、-1mで珪藻綱が70%、-4～5mで紅藻綱のサンゴモ目が30%であった。A-5では藻場構成種は確認されなかった。

A-7では、植物は±0mと-2～6mに分布し、8種類が確認された。種類数が多かったのは-2mと-4mで5種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高かった種類でも、-4mでベニスナゴが20%であった。A-7では藻場構成種は確認されなかった。

表2-2-1(1) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂小礫
緑藻綱	アオノリ属	+											
	アオサ属		60	+	+								
	シオグサ属		+										
褐藻綱	タマハハキモク			10									
	フクロノリ				+								
	シダモク					30							
紅藻綱	アマノリ属		+										
	ツノマタ属		+										
	ホスジフシツナギ		+										
	ツルツル			70	+								
	サンゴモ目			+			+						
	イワノカワ科			+			+	+	+				
	オキツノリ			+									
	フダラク			10	+								
	ムカデノリ属			+	10	+							
	イギス科				10	10	+	10	20	10	+	+	
	マクサ				10	30	60	20	+				
	ベニスナゴ				20	10	10	+					
	カバノリ					+	20	30	+				
タオヤギソウ							+	20	+				
ススカケベニ						+	+	20	10	10	+		
藍藻	藍藻綱	20											
珪藻	珪藻綱		10										
出現種類数(23)		2	6	8	8	7	8	7	6	3	2	1	-

注：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (2) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-4)

平成22年 5月30日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名		基質											
		ブロック	砂 小礫										
緑藻綱	シオグサ属		10	10	+								
	アオサ属		+	+	10	10							
褐藻綱	タマハハキモク				20	+							
	フクロノリ					+							
	コモンクサ						+						
紅藻綱	ツノマタ属		10	+	+								
	フダラク		10	50	30	20							
	イトグサ属		+	+	+								
	コスジフシツナギ			+									
	ツルツル			+	+								
	ベニスナゴ				+	10	10	60	+				
	イギス科				+	10	10						
	サンゴモ目				+	+	+	10	10	+	+		
	カバノリ				+	10	+	+	+				
	マクサ					+		+					
	ムカデノリ					+							
	ススカケベニ					+	+	10	20	10	+		
	イワノカワ科										+		
出現種類数 (18)		-	5	7	11	11	6	6	5	2	2	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (3) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成22年 5月30日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名		基質											
		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂 大礫
緑藻綱	アオサ属		+	20	10		+						
	アオノリ属		10	+									
	シオグサ属			+	10								
紅藻綱	フダラク			+									
	イトグサ属			+									
	ベニスナゴ			+									
	サンゴモ目				+	+	30	30	20	20	10	+	
	イワノカワ科				+	+	10	+	+	+	+		
ススカケベニ						+	+		+				
珪藻綱	珪藻綱		20	70	+								
出現種類数 (10)		-	3	7	5	2	4	3	2	3	2	1	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (4) 植物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成22年 5月30日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	
種類名		基質										
		ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	
緑藻綱	アオサ属		+		+							
	シオグサ属				+							
紅藻綱	ベニスナゴ				+	+	20					
	タオヤギソウ				+		+					
	イギス科				+	+	+					
	サンゴモ目						+	+				
	カバノリ						+					
	ススカケベニ							+	+			
出現種類数 (8)		-	1	-	5	2	5	2	1	-	-	

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の植物の目視観察結果を表2-2-1(5)～(10)に示す。

C-1では、植物は平均海面±0～-10mに分布し、11種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで8種類であった。被度30%以上の種類は、-1～2mと-4mで紅藻綱のフダラクが30～65%、-4mで藻場構成種である褐藻綱のシダモクが35%、紅藻綱のベニスナゴが30%、-5～7mで紅藻綱のススカケベニが30～70%であった。藻場構成種のシダモクはこのほかに-4mで15%確認された。

C-2では、植物は±0～-9mに分布し、16種類が確認された。種類数が多かったのは-1mと-4mで7種類であった。被度30%以上の種類は、-2mで紅藻綱のツノマタ属が30%、-2mと-4～5mでベニスナゴが30～80%、-5～6mで紅藻綱のイワノカワ科が55～60%、-6～7mでススカケベニが40～50%であった。藻場構成種はタマハハキモクが-1mで5%未満で確認された。

C-3では、植物は±0～-10mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで6種類であった。被度30%以上の種類は、-1mで緑藻綱のシオグサ属が30%、-2mと-4～5mでベニスナゴが50～65%、-8～9mでススカケベニが40～45%であった。藻場構成種はシダモクが-3～4mで10～25%であった。

C-4では、植物は±0～-10mに分布し、12種類が確認された。種類数が多かったのは-1mと-3～7mで5種類であった。被度30%以上の種類は、-1mでシオグサ属が30%、-3～5mで紅藻綱のカバノリが45～65%、-6mでススカケベニが50%であった。C-4では藻場構成種は確認されなかった。

C-5では、植物は±0m～-9mに分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは-1～3mで6種類であった。被度30%以上の種類は、±0mで緑藻綱のアオサ属が35%、-2mで紅藻綱のイギス科が40%、-3mで藻場構成種であるシダモクが30～40%、-4mでベニスナゴが45%、-5mでススカケベニが60%であった。シダモクのほかには藻場構成種は確認されなかった。

C-6では、植物は±0mにアオサ属が5%で出現したのみであった。

表2-2-1(5) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

平成22年5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫							
	緑藻綱	アオサ属		+	5	+			5					
アオノリ属				+										
褐藻綱	フクロノリ				+									
	シダモク						35	15						
紅藻綱	フダラク			65	35		5	30						
	イギス科			+	+	20	+	10	+	15	20	+	+	+
	ススカケベニ					25		10	70	60	30	+		
	ベニスナゴ						30	15	15					
	サンゴモ目						+		+					
	ムカデノリ							+						
	イワノカワ科							+	15	15	15			
	出現種類数 (11)	-	1	4	4	2	5	8	5	3	3	2	1	1

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表2-2-1(6) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

平成22年5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫						
	緑藻綱	アオサ属		10		+			+				
アオノリ属				5									
褐藻綱	タマハハキモク			+									
	フクロノリ			+									
紅藻綱	フダラク			15	25								
	ツノマタ属			25	30	+							
	ベニスナゴ			20	30		80	70	20				
	イワノカワ科			5	5		15	60	55	10	25	+	
	イトグサ属			+		+	+						
	ススカケベニ					20	5	5	40	50	20		
	ムカデノリ					+	+						
	イギス科					10							
	カバノリ						+						
	マクサ						+						
サンゴモ目							+	10	5	+			
タオヤギソウ								5	+				
出現種類数 (16)	-	1	7	6	5	7	5	5	4	3	1	-	

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表2-2-1(7) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場(C-3)

平成22年5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	緑藻綱	アオサ属		15	15		+						
シオグサ属				30									
ミル					+								
褐藻綱	シダモク					25	10						
紅藻綱	フダラク			20	10		+						
	イワノカワ科			+	+	+	10	15	10	+		+	
	ベニスナゴ					50	+	55	65	+			
	コスジフシツナギ					+							
	イギス科					+			+	+			
	カバノリ								+				
	ススカケベニ									20	45	40	+
	マサゴシバリ									+	+		
	サンゴモ目									5	+		
	タオヤギソウ										15		
出現種類数 (14)	-	1	4	6	4	4	2	4	5	4	3	1	

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (8) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	緑藻綱	アオサ属		25	5	10	+	+	+				
ミル				+									
シオグサ属				30									
紅藻綱	フダラク			25	10		+						
	コスジフシツナギ			5		+							
	カバノリ				15	45	60	65		5		+	
	ベニスナゴ				10	15			15	5			
	イワノカワ科					5	+	+	5	+	5	+	
	イギス科						+	5	+	5	5	+	5
	タオヤギソウ							5					
	ススカケベニ								50	15	25	15	+
	サンゴモ目								+		+		
出現種類数 (12)		-	1	5	4	5	5	5	5	5	4	4	2

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (9) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫							
	緑藻綱	アオサ属		35	+	+	5	5	+				
アオノリ属			+										
シオグサ属				+									
ハネモ属					+			+					
褐藻綱	シダモク					30	40						
紅藻綱	アマノリ属		+										
	フダラク			+		25	10						
	イギス科			5	40	+	+	5	10	10	+	+	
	コスジフシツナギ			5									
	イトグサ属				5								
	ベニスナゴ				5	10	10	45	15				
	イワノカワ科					+							
	ススカケベニ				5			25	60	15	5	5	+
珪藻綱	珪藻綱			5					15	10	5		
出現種類数 (14)		-	3	6	6	6	5	5	3	3	3	3	1

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (10) 植物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-6)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7
種類名	基質	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁
	緑藻綱	アオサ属		5						
出現種類数 (1)		-	1	-	-	-	-	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の植物の目視観察結果を表2-2-1 (11) ~ (14) に示す。

D-2では、植物は平均海面±0~-8mに分布し、17種類が確認された。種類数が多かったのは-1mと-3mで9種類であった。被度30%以上の種類は、-1~4mで藻場構成種である褐藻綱のワカメが40~90%、-4mで紅藻綱のオオバツノマタが40%、-5~6mで紅藻綱のタオヤギソウが30~50%であった。ワカメのほかには藻場構成種は確認されなかった。

D-3では、植物は±0~-3mと-7~10mに分布し、11種類が確認された。種類数が多かったのは-7mで5種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高かった種類でも、-7mで紅藻綱のイギス科とベニスナゴが20%であった。藻場構成種は、ワカメが-1~2mで5%未満~10%であった。

D-5では、植物は壁面の+1~-5mと遊水室の上室および下室に分布し、10種類が確認された。種類数が多かったのは、壁面の-2~3mで8種類であった。被度30%以上の種類は、+1~±0mで緑藻綱のアオサ属が30%、紅藻綱のフダラクが30%であったが、遊水室内で確認できた種類はいずれも被度5%未満であった。藻場構成種は、ワカメが壁面の-2~4mと遊水室内の下室の下面で5%未満であった。

D-6では、植物は壁面の+1~-5.5mと遊水室の上室および下室に分布し、9種類が確認された。種類数が多かったのは、壁面の-3~4mで6種類であった。被度30%以上の種類はなく、被度が最も高かった種類でも壁面の±0~-2mでアオサ属が20%、-1~2mでワカメが20%であった。遊水室内で確認できた種類はいずれも被度5%未満であった。藻場構成種は、ワカメが壁面の±0~-4mと遊水室内の下室の下面で5%未満~20%であった。

表2-2-1 (11) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平均海面 (m)		平成22年5月21日																														
		+1		±0		-1		-2		-3		-4		-5		-6		-7		-8		-9		-10		-11		-12		-13		
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥														
		緑藻綱	アオサ属		+	+	+	+	+																							
シオグサ属			+	+																												
アオリ属			+																													
褐藻綱	ワカメ			70	90	80	40						20																			
	ケウルシグサ												+	+																		
紅藻綱	フダラク		+	10	+	+																										
	ムカデノリ属			+	10	10	+																									
	オオバツノマタ			10	+	10	40	+																								
	イトグサ属			+																												
	ツルツル			+	10	+																										
	マクサ					+	+																									
	ベニスナゴ					+	+	10	+	10																						
	タオヤギソウ						+	20	50	30	20	20		20	+																	
	カバノリ								10	20	5	+																				
	ススカケベニ									+	+	10																				
	イギス科										+	+																				
出現種類数 (17)		-	4	9	7	9	8	6	7	4	3																					

注: 数値は被度 (%) を示し、+ は5%未満を示す。

表 2-2-1 (12) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成22年5月21日

種類名		平均海面 (m)														
		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+	+												
	アオノリ属		+													
	シオグサ属			+												
	ミル					+										
褐藻綱	ワカメ			10	+	+										
紅藻綱	イギス科									20	10	10	+			
	ベニスナゴ									20	+					
	ススカケベニ									+	10	+				
	タオヤギソウ									5						
	カバノリ									+	+	+				
出現種類数 (11)		-	2	3	1	2	-	-	-	5	4	3	1	-	-	-

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (13) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成22年5月21日

観察場所		エコ岸壁													
		壁面								遊水室					
平均海面 (m)		+1	+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室		
基質または部位		ケーソン	鋼金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑藻綱	アオサ属	10	30	10	+	+						+			+
	アオノリ属	+	20	+	20	+	+					+			+
	シオグサ属	+	+	+	+	+	+								
	ハネモ属				+	+	+	+							
褐藻綱	ワカメ					+	+								+
紅藻綱	フダラク		30	+	+										
	タオヤギソウ					+	20	10						+	+
	ベニスナゴ					+	+	+							
	ムカデノリ属											+			
珪藻綱	珪藻綱		10	20	10	+									
出現種類数 (10)		3	5	5	6	8	5	3	-	-	-	3	-	1	4

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

表 2-2-1 (14) 植物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成22年5月21日

観察場所		エコ岸壁													
		壁面								遊水室					
平均海面 (m)		+1	+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室		
基質または部位		ケーソン	鋼金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑藻綱	アオノリ属	10	10	+											
	アオサ属		+	20	20	+	+								+
	シオグサ属			+	+	+	+								
褐藻綱	ワカメ			+	20	10	+								+
紅藻綱	フダラク			+								+			
	カバノリ				+	+	+								
	タオヤギソウ					+	+	+							+
	イギス科						+	+	+						
藍藻綱	藍藻綱	+	+												
出現種類数 (9)		2	3	5	4	5	6	2	1	-	-	1	-	-	3

注：数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の動物の目視観察結果を表2-2-2(1)～(4)に示す。

A-2では、動物は平均海面+1～-9mに分布し、18種類が確認された。種類数が多かったのは±0mで7種類であった。被度30%以上の種類は、-2～4mで環形動物門のカンザシゴカイ科が30～50%であった。個体数が1枠(0.25㎡)あたり10個体以上みられた種類は、-7mで棘皮動物門のキヒトデで11個体であった。

A-4では、動物は+1～-7mと-10mに分布し、17種類が確認された。種類数が多かったのは±0mで8種類であった。被度30%以上の種類は、+1mで節足動物門のイワフジツボが40%、-1～2mでカンザシゴカイ科が30～50%であった。個体数が1枠あたり10個体以上みられた種類は、+1mで軟体動物門のアラレタマキビが36個体であった。

A-5では、動物は+1～-9mに分布し、20種類が確認された。種類数が多かったのは±0mと-3～5mで6種類であった。被度30%以上の種類はなく、最も被度が高かった種類でも、-2～3mで節足動物門のヨーロッパフジツボが10%であった。個体数が1枠あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが30個体、-1～2mで軟体動物門のレイシガイが24～160個体、-3mで棘皮動物門のイトマキヒトデが18個体であった。

A-7では、動物は+1～-8mに分布し、18種類が確認された。種類数が多かったのは±0mで8種類であった。被度30%以上の種類は、±0～-1mで軟体動物門のムラサキガイが70～95%、-2mでカンザシゴカイ科が95%であった。個体数が1枠あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが90個体、-1mでイトマキヒトデが11個体、キヒトデが19個体であった。

表2-2-2(1) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

		平成22年5月30日											
平均海面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂小礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+										
環形動物門	カンザシゴカイ科			20	50	50	30	10	+				
	ミズヒキゴカイ科					+							
	ケヤリムシ科						+						
触手動物門	コケムシ綱			+	+	+	+	+	+				
軟体動物門	アラレタマキビ	(6)											
	カラマツガイ		(1)										
	ヨメガカサ		(1)										
	キクノハナガイ		(1)										
	タマキビ		(2)										
	ムラサキガイ		+	+									
	レイシガイ			(3)	(2)								
	ロシダカガンガラ			(1)				(2)					
節足動物門	イワフジツボ	+	+										
	サンカクフジツボ								+				
棘皮動物門	キヒトデ					(2)			(3)	(11)	(4)	(2)	
	イトマキヒトデ						(2)		(4)	(3)		(1)	
原索動物門	ホヤ綱(群体性)							+					
出現種類数(18)		2	7	5	3	4	4	4	5	3	1	2	-

注1：数値は被度(%)を示し、+は5%未満を示す。
注2：()内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (2) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-4)

平成22年 5月30日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	砂 小礫										
種類名	海綿動物門		+	+									
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+										
	ヒドロ虫綱		+	+	+								
	チギレイソギンチャク			10	10	+							
環形動物門	カンザシゴカイ科		10	50	30	20	10						
触手動物門	コケムシ綱		10	10	+								
	フサコケムシ科			+									
軟体動物門	アラレタマキビ	(36)											
	イボニシ		(5)										
	ムラサキイガイ		+										
	レイシガイ			(1)									
節足動物門	イワフジツボ	40	+										
	サンカクフジツボ						+						
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(1)	(5)		(1)				(1)
	キヒトデ						(2)	(1)	(5)	(3)			
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)				+	+							
—	泥巢						+						
	出現種類数 (17)	2	8	7	5	3	5	1	2	1	-	-	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (3) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成22年 5月30日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂 大礫
種類名	タテジマイソギンチャク		+										
腔腸動物門	イソギンチャク目		+	+									
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	+	+	+							
軟体動物門	カモガイ	(1)											
	タマキビ	(3)											
	アラレタマキビ	(30)											
	ムラサキイガイ		+										
	イタボガキ科		+										
	レイシガイ			(24)	(160)								
	サザエ					(1)							
	シマメノウブネガイ						+	+					
	コシダカガンガラ						(2)	(1)		(1)			
節足動物門	イワフジツボ	+	+										
	ヨーロッパフジツボ			+	10	10							
	サンカクフジツボ						+	+	+				
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(4)		(18)	(5)	(2)	(2)	(1)			
	キヒトデ					(1)	(7)	(4)	(1)	(5)	(2)	(1)	
	マナマコ					(1)				(1)			
	サンショウウニ						(2)						
原索動物門	エボヤ							+	+	+	+		
—	泥巢												
	出現種類数 (20)	4	6	5	3	6	6	6	4	5	2	1	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (4) 動物の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成22年 5月30日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8
基質		ケーソン	矢板	矢板	矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂	小礫 砂
種類名	タテジマイソギンチャク		+								
腔腸動物門	イソギンチャク目		+								
環形動物門	カンザシゴカイ科		10	95	20						
軟体動物門	アラレタマキビ	(90)									
	タマキビ	(4)									
	レイシガイ		(1)								
	ムラサキイガイ		95	70	+						
節足動物門	イワフジツボ	20									
	シロスジフジツボ	+									
	ヨーロッパフジツボ		+								
	サンカクフジツボ		+	+							
棘皮動物門	イトマキヒトデ		(3)	(11)	(3)	(4)	(3)		(1)	(1)	(2)
	キヒトデ		(2)	(19)	(4)	(3)		(1)	(1)		
	サンショウウニ					(1)					
	マナマコ					(1)		(1)			
	モミジガイ										(1)
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	+	+					
—	エボヤ				+						
	泥巢					20					
	出現種類数 (18)	4	8	6	6	7	1	2	2	1	2

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。

注2: () 内の数値は個体数を示す。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の動物の調査結果を表 2-2-2 (5) ~ (10) に示す。

C-1 では、動物は平均海面 +1 ~ -10m に分布し、27 種類が確認された。種類数が多かったのは -1 m と -3 m で 8 種類であった。被度 30% 以上の種類は、± 0 m で軟体動物門のムラサキガイが 40%、-1 ~ 4 m で環形動物門のカンザシゴカイ科が 60~95% であった。個体数が 1 枠あたり 10 個体以上みられた種類は軟体動物門のアラレタマキビで、+1 m で 14 個体であった。

C-2 では、動物は +1 ~ -10m に分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは -2 m で 8 種類であった。被度 30% 以上の種類は、± 0 m でのムラサキガイが 35%、-2 ~ 3 m でカンザシゴカイ科が 55~100% であった。個体数が 1 枠あたり 10 個体以上みられた種類はアラレタマキビで、+1 m で 53 個体であった。

C-3 では、動物は +1 ~ -10m に分布し、16 種類が確認された。種類数が多かったのは -4 m と -6 m で 6 種類であった。被度 30% 以上の種類は、± 0 m でムラサキガイが 60%、-2 ~ 5 m でカンザシゴカイ科が 35~95% であった。個体数が 1 枠あたりに最も多かった種類は節足動物門のヤドカリ科で、-4 m で 5 個体であった。

C-4 では、動物は ± 0 ~ -10m に分布し、21 種類が確認された。種類数が多かったのは -5 m で 7 種類であった。被度 30% 以上の種類は、± 0 m でムラサキガイが 55%、-2 m と -4 ~ 5 m でカンザシゴカイ科が 30~95% であった。個体数が 1 枠あたりに最も多かった種類は軟体動物門のカラマツガイとコシダカガンガラで、それぞれ ± 0 m と -8 m で 3 個体であった。

C-5 では、動物は +1 ~ -9 m に分布し、22 種類が確認された。種類数が多かったのは -1 m で 9 種類であった。被度 30% 以上の種類は、± 0 m でムラサキガイが 50%、-1 ~ 3 m でカンザシゴカイ科が 85~100% であった。個体数が 1 枠あたり 10 個体以上みられた種類は軟体動物門のイボニシで、-1 m で 10 個体であった。

C-6 では、動物は ± 0 ~ -7 m に分布し、14 種類が確認された。種類数が多かったのは -4 m で 6 種類であった。被度 30% 以上の種類は、± 0 ~ -1 m でムラサキガイが 50~100%、-2 ~ 4 m でカンザシゴカイ科が 60~90% であった。個体数が 1 枠あたり 10 個体以上みられた種類は棘皮動物門のキヒトデで、-7 m で 23 個体であった。

表 2-2-2 (5) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-1)

平均海面 (m)		平成22年5月29日												
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門			5	5		5	+						
腔腸動物門	Anthopleura属			+										
	タテジマイソギンチャク			+										
	ヒドロ虫綱					+						+	+	+
環形動物門	カンザシゴカイ科			60	60	95	90	15						
	ケヤリムシ科					+								
	ミズヒキゴカイ科					+								
触手動物門	コケムシ綱			15	15					+	5	10	15	15
軟体動物門	アラレタマキビ	(14)												
	ムラサキイガイ		40											
	タマキビ		(2)											
	ムギガイ			(2)										
	レイシガイ			(3)										
	コンダカガンガラ						(1)		(1)					
	サザエ							(1)						
	シマメノウフネガイ									+				
節足動物門	イワフジツボ		10											
	ヤドカリ科						(1)	(1)	(1)		(1)			
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(1)									
	キヒトデ					(2)					(1)			
	サンショウウニ								(1)					
	イトマキヒトデ									(1)	(1)	(1)		
	マナマコ											(1)		
原索動物門	ホヤ綱 (群党性)			10	10	5	5	10						
	ユレイボヤ属					+								
	ホヤ綱 (単党性)					+								
—	泥星											+		
	出現種類数 (27)	1	3	8	5	8	5	6	3	3	4	6	2	2

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (6) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-2)

平均海面 (m)		平成22年5月29日												
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫							
海綿動物門	海綿動物門					5								
腔腸動物門	Anthopleura属				+	+								
	ヒドロ虫綱				+	+								
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	55	100	+				+			
	ケヤリムシ科					+								
触手動物門	コケムシ綱			+				+	+	+		+	5	
軟体動物門	アラレタマキビ	(59)												
	ムラサキイガイ		35											
	キクノハナガイ		(2)											
	コンダカガンガラ				(1)		(4)	(4)		(1)	(2)	(2)		
	イワガキ			5										
	レイシガイ				(1)									
	ムギガイ				(2)									
	サザエ				(1)									
	ナミマガシワ科							+				+		
節足動物門	サンカクフジツボ						+	10	+	+	+			
棘皮動物門	キヒトデ								(1)	(2)	(1)			
	イトマキヒトデ						(4)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(1)	
	マナマコ							(1)	(1)		(2)	(2)		
原索動物門	ホヤ綱 (群党性)				+	10								
	エボヤ											+		
	出現種類数 (21)	1	2	3	8	5	4	6	4	5	6	5	2	

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (7) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-3)

平均海面 (m)		平成22年5月29日												
基質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+											
	シオガマサンゴ												+	
環形動物門	カンザシゴカイ科				35	95	75	40	+	+	+			
触手動物門	コケムシ綱						+	+	10	5	10	15	+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(2)												
	ムラサキイガイ		60											
	イボニシ		(2)											
	レイシガイ		(1)		(1)	(1)	(1)							
	カラマツガイ		(1)											
	イタボガキ科			5										
	コンダカガンガラ				(2)	(1)	(2)	(3)		(1)	(2)	(2)		
節足動物門	ヤドカリ科					(2)	(5)		(1)					
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(1)	(2)		(1)			(1)	(1)	
	キヒトデ							(1)	(1)		(2)			
	マナマコ							(1)	(1)	(1)	(1)			
原索動物門	エボヤ									+				
	出現種類数 (16)	1	5	1	3	5	6	4	6	5	5	3	3	

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (8) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
種類名													
腔腸動物門	タテジマイトソギンチャク			+			+						
	Anthopleura属			+			+						
環形動物門	ミズヒキゴカイ科			+									
	カンザシゴカイ科			+	30	15	90	95	+				
触手動物門	コケムシ綱					+	+		20	25	15	15	+
軟体動物門	ムラサキイガイ		55										
	カラマツガイ		(3)										
	ケハダヒザラガイ科			(1)									
	コシダカガンガラ				(1)	(2)	(1)		(2)		(3)		
	ムギガイ				(1)								
	レイシガイ							(1)					
	カゴメガイ							(1)					
	サザエ								(1)				
節足動物門	ヤドカリ科				(1)			(1)					
棘皮動物門	キヒトデ					(1)	(1)		(1)	(2)		(1)	(2)
	サンショウウニ							(1)					
	マナマコ									(1)	(1)		
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)				+								
	ホヤ綱 (単体性)									+	+		
—	卵塊		+				+	+					
	泥巢							+					
	出現種類数 (21)	—	3	4	5	4	6	7	5	4	4	2	2

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (9) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫							
種類名													
海綿動物門	海綿動物門			5			+						
腔腸動物門	タテジマイトソギンチャク		+										
	Anthopleura属			+									
環形動物門	カンザシゴカイ科			100	90	25	85				+		
	ミズヒキゴカイ科					+							
触手動物門	コケムシ綱			+			+			10	+	5	+
軟体動物門	アラレタマキビ	(1)											
	ムラサキイガイ		50	+									
	カラマツガイ		(1)										
	イボニシ		(1)	(10)	(1)								
	レイシガイ			(4)	(1)	(1)	(1)	(1)					
	シマメノウフネガイ							+					
	ウミフクロウ								(1)				
節足動物門	イワフジツボ		+										
棘皮動物門	キヒトデ			(1)	(1)	(1)				(1)	(2)	(3)	(4)
	イトマキヒトデ							(2)					
	マナマコ									(1)			
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	+		+	+	+				
	エボヤ				+			+					
	ユウレイボヤ属				+			+				+	
	ホヤ綱 (単体性)							+					
—	泥巢						20	15	+	10	+	5	+
	出現種類数 (22)	1	5	9	7	4	6	6	5	4	4	4	3

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

表 2-2-2 (10) 動物の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-6)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7
基質		鋼管壁								
種類名										
海綿動物門	海綿動物門			5			5			
腔腸動物門	ヒドロ虫綱								+	
環形動物門	カンザシゴカイ科				75	90	60	20	15	5
触手動物門	コケムシ綱			+	+	5	15			
軟体動物門	ムラサキイガイ		50	100	25					
	マガキ		5							
	カラマツガイ		(3)							
節足動物門	アフフジツボ			+						
棘皮動物門	キヒトデ				(8)	(3)			(7)	(23)
	イトマキヒトデ									(3)
原索動物門	エボヤ					+	+	+		
	ユウレイボヤ属						+	+		
	ホヤ綱 (群体性)						+			
—	泥巢							+	5	10
	出現種類数 (14)	—	3	3	4	4	6	3	5	4

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の動物の調査結果を表2-2-2 (11) ~ (14) に示す。

D-2では、動物は平均海面+1~-13mに分布し、18種類が確認された。種類数が多かったのは-4mで6種類であった。被度30%以上の種類は、±0mで軟体動物門のムラサキイガイが70%、-1~2mで環形動物門のカンザシゴカイ科が30~60%であった。個体数が1枠あたり10個体以上みられた種類は、+1mで軟体動物門のアラレタマキビが80個体、±0mで軟体動物門のレイシガイが16個体であった。

D-3では、動物は+1~-12mに分布し、24種類が確認された。種類数が多かったのは-2mで11種類であった。被度30%以上の種類は、±0~-2mでムラサキイガイが30~100%、-2~4mでカンザシゴカイ科が40~60%、-6mで泥巣が30%であった。個体数が1枠あたり10個体以上みられた種類は、+1mでアラレタマキビが120個体、-2mと-6mで棘皮動物門のキヒトデが17個体と45個体であった。

D-5では、動物は壁面の+1~-5.5m、遊水室の上室および下室に分布し、27種類が確認された。種類数が多かったのは壁面の-1~2mで14種類であった。被度30%以上の種類は、壁面では+1~-2mでムラサキイガイが30~60%、±0~-2mでカンザシゴカイ科が30~40%、-3~4mで触手動物門のコケムシ綱が30%であった。遊水室内では上室の上面および側面でカンザシゴカイ科が40~70%、下室の上面および側面でコケムシ綱が30~40%、下室の上面でムラサキイガイが40%であった。観察範囲に個体数が10個体以上見られた種類は、壁面では+1~±0mで軟体動物門のイボニシが35~160個体、+1m~-1mでレイシガイが20~60個体、+1~-2mでキヒトデが16~75個体であった。遊水室内ではキヒトデが下室の下面で12個体であった。

D-6では、動物は壁面の+1~-5.5m、遊水室の上室および下室に分布し、14種類が確認された。種類数が多かったのは壁面の±0~-1mで11種類であった。被度30%以上の種類は、壁面では+1mで節足動物門のイワフジツボが40%、+1~±0mで軟体動物門のマガキが50%、±0~-1mでムラサキイガイが50%、±0~-3mでカンザシゴカイ科が30~50%であった。遊水室内では上室の上面および側面、下室の上面および側面でカンザシゴカイ科が30~80%、上室の上面でムラサキイガイとユウレイボヤ属がともに30%であった。観察範囲に個体数が10個体以上見られた種類は、壁面では+1~±0mでイボニシが40個体、+1~-1mでレイシガイが15~40個体、±0~-1mでキヒトデが35個体、-5~5.5mで棘皮動物門のイトマキヒトデが18個体であった。遊水室内ではキヒトデが上室の側面に30個体であった。

表2-2-2 (11) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	泥						
	環形動物門	カンザシゴカイ科			60	30	10	+	+							
触手動物門	コケムシ綱		+					10	10	+						
	アミコケムシ科										+	10	20	20	20	10
軟体動物門	アラレタマキヒ	(80)														
	ベッコウガサガイ	(2)														
	コガモガイ	(1)														
	カラマツガイ	(3)	(4)													
	イボニシ		(9)													
	レイシガイ		(16)													
	ムラサキイガイ		70													
	ムギガイ			(6)												
	コシダカガンガラ				(1)											
節足動物門	イワフジツボ	+	10													
棘皮動物門	イトマキヒトデ			(1)	(2)	(1)	(1)		(2)	(3)	(1)		(1)	(2)		
	キヒトデ					(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(2)	(2)	(3)	(2)	(1)	(1)
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)					+	10	+								
	エボヤ					+										
	泥巣								+	+	+	+	+	+		
—	出現種類数 (18)	5	5	3	3	3	6	3	4	4	4	3	4	3	2	1

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表2-2-2 (12) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平均海面 (m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+												
	ヒドロ虫綱		+	+												
	チギレイソギンチャク				+											
	シオガマサンゴ											+		+		
環形動物門	カンザシゴカイ科				50	60	40	10	+							
触手動物門	アミコケムシ科				20	+	+	+	+	+	10	20	20	20	+	
	コケムシ綱					10	20	10	10							
	フサコケムシ科							+								
軟体動物門	アラレタマキヒ	(120)														
	ムラサキイガイ		100	95	30											
	カラマツガイ	(2)														
	レイシガイ			(1)	(8)											
	ウミツクロウ								(1)							
節足動物門	イワフジツボ	20														
	ヤドカリ科				(1)											
棘皮動物門	キヒトデ				(17)	(4)	(1)	(1)	(45)	(1)	(3)	(1)	(2)	(1)		
	イトマキヒトデ				(3)	(2)			(9)							
	サンショウウニ								(1)							
	マナマコ								(1)							
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	10	+	+	+								
	シロボヤ					+										
	エボヤ					+	+	+								
	ユウレイボヤ属					+	+	+								
	エボヤ					+	+	+								
—	泥巣							+	20	30	+	+	+	+		
—	出現種類数 (24)	2	4	4	11	7	8	7	8	5	3	4	3	3	1	-

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表2-2-2 (13) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

観察場所		エコ岸壁													
平均海面 (m)		壁面								遊水室					
種類名	基質または部位	+1	+1±±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室			下室		
		ケーソン	網金網石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
海綿動物門	海綿動物門										+				
腔腸動物門	チギレイソギンチャク			+	+						+				
	ヒドロ虫綱			+	+										
環形動物門	カンザシゴカイ科	10	30	40	20	10	10	+	40	70		20	20		
触手動物門	コケムシ綱				+	20	30	20	+	+	20		30	40	
	フサコケムシ科						+	+						+	
	アミコケムシ科						+	+						+	
軟体動物門	ケガキ	10	+												
	ムラサキイガイ	50	60	60	30	+				20	+	+	40	+	
	マツバガイ	(2)													
	イボニシ	(35)	(160)												
	ヨメガカサ	(8)													
	カラマツガイ	(3)													
	ベッコウガサガイ	(4)													
	レイシガイ		(60)	(20)											
	ミドリイガイ			+	+										
	アカニシ				(1)		(1)								
	イタボガキ科									10					
節足動物門	イワフジツボ	+													
棘皮動物門	キヒトデ		(75)	(40)	(16)	(7)	(7)	(9)	(3)	(2)	(5)	(8)	(5)	(9)	(12)
	マナマコ			(8)	(1)	(4)	(7)	(6)	(2)		(1)			(3)	(6)
	イトマキヒトデ			(6)	(1)	(1)	(2)	(2)						(1)	
原索動物門	ホヤ綱 (群体性)			+	10	10	10	+		10	10		10	10	
	シロボヤ			+	+	+	+	+		+	+		10	+	
	ユウレイボヤ属			+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+
	エボヤ			+	+	+	+	+		+	+		+	+	
—	泥巣						20	10	+						
—	出現種類数 (27)	8	6	12	14	10	13	11	5	11	9	3	8	10	4

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
注2: () 内の数値は個体数を示す。

表2-2-2 (14) 動物の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成22年5月21日

観察場所		エコ岸壁													
		壁面							遊水室						
平均海面 (m)		+1	+1~±0	±0~-1	-1~-2	-2~-3	-3~-4	-4~-5	-5~-5.5	上室		下室			
種類名		ケーソン	鋼 金網 石	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
腔腸動物門	子ボレイソギンチャク		+	+											
環形動物門	カンザシゴカイ科		10	30	30	50	20	10	+	30	70		70	80	
触手動物門	コケムシ綱			10	+	10	30	10	+			+	10		
	フウコケムシ科				+	+	+							+	
軟体動物門	マガキ	+	50	+											
	ムラサキイガイ		10	50	+					30	+				
	イボエシ		(40)												
	レイシガイ		(15)	(40)											
節足動物門	イワフジツボ	40	+												
棘皮動物門	キヒトデ		(3)	(35)	(7)	(4)	(3)	(4)	(2)	(6)	(30)	(3)	(2)		(3)
	イトマキヒトデ			(4)	(2)	(3)	(2)	(1)	(18)	(2)		(1)	(6)	(1)	(1)
原索動物門	エボヤ			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	ホヤ綱 (群体性)			+	+	+	10	+	+	+	+	+	+	+	+
	ユウレイボヤ属			+	+	10	+	+	+	30	10	+	10		
	出現種類数 (14)	2	7	11	10	8	8	5	5	7	6	4	6	3	2

注1: 数値は被度 (%) を示し、+は5%未満を示す。
 注2: () 内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

A. 神戸沖処分場

神戸沖処分場の魚類の目視観察結果を表2-2-3(1)～(4)に示す。

A-2では平均海面-2～4mでアイナメとカサゴの2種類が1～2個体確認されたのみであった。

A-4では5種類が確認され、-2～4mで4種類と最も多かった。個体数が最も多かったのは-2～4mと-4～6mのスズメダイ、-2～4mのメバル、-4～6mのササノハベラで3～10個体であった。

A-5では-2～4mでキュウセンが1～2個体確認されたのみであった。

A-7では3種類が確認され、-4～6mで2種類と最も多かった。個体数が最も多かったのはキュウセンで、-4～6mで3～10個体であった。

表2-2-3(1) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場(A-2)

平成22年5月30日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 小礫 砂
	魚類					
	アイナメ(15)		rr			
	カサゴ(8～12)		rr			
	出現種類数(2)	-	2	-	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表2-2-3(2) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場(A-4)

平成22年5月30日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック 砂 小礫
	魚類					
	スズメダイ(7～12)		r	r		
	コモンフグ(12)		rr			
	ササノハベラ(10～18)		rr	r		
	メバル(5～10)		r			
	カサゴ(10)			rr		
	出現種類数(5)	-	4	3	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (3) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-5)

平成22年 5月30日

平均海面 (m)		±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8	-8~10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 砂 大礫
	魚類	キュウセン(5)	rr			
出現種類数(1)		-	1	-	-	-

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (4) 魚類の目視観察結果 神戸沖処分場 (A-7)

平成22年 5月30日

平均海面 (m)		±0~-2	-2~4	-4~6	-6~8
種類名	基質	矢板	矢板	小礫 砂	小礫 砂
	魚類	カサゴ(10)	rr		
	キュウセン(7~12)			r	
	カレイ科(5)			rr	
出現種類数(3)		-	1	2	-

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

C. 大阪沖処分場

大阪沖処分場の魚類の目視観察結果を表2-2-3(5)～(10)に示す。

C-1では平均海面-2～4mと-4～6mでメバルが3～10個体確認されたのみであった。

C-2では-2～4m、-4～6mおよび-6～8mでメバルが確認されたのみであった。個体数は-2～4mで11～50個体と最も多かった。

C-3では-4～6mでクロダイが1～2個体確認されたのみであった。

C-5では-2～4mと-4～6mでメバルが確認されたのみであった。個体数は-4～6mで11～50個体と最も多かった。

C-4とC-6では魚類は確認されなかった。

表2-2-3(5) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場(C-1)

平成22年5月29日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	魚類	メバル(4～6)	r	r		
出現種類数(1)		-	1	1	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表2-2-3(6) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場(C-2)

平成22年5月29日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	魚類	メバル(4～6)	c	r	r	
出現種類数(2)		-	1	1	1	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表2-2-3(7) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場(C-3)

平成22年5月29日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫
	魚類	クロダイ(30)		rr		
出現種類数(2)		-	-	1	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (8) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-4)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫
	出現種なし					

表 2-2-3 (9) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-5)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
	魚類	メバル (3～7)	rr	c		
出現種類数 (2)		-	1	1	-	-

注 1 : rr = 1～2 個体、r = 3～10 個体、c = 11～50 個体、cc = 51 個体以上を示す。

注 2 : 種類名の () 内の数値は全長 (cm) を、出現種類数の () 内の数値は総種類数を示す。

表 2-2-3 (10) 魚類の目視観察結果 大阪沖処分場 (C-6)

平成22年 5月29日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10
種類名	基質	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁	鋼管壁
	出現種なし					

D. 泉大津沖処分場

泉大津沖処分場の魚類の目視観察結果を表2-2-3 (11)～(14)に示す。

D-2では6種類が確認され、-6～8mで5種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類はメバルで、-6～8mで51個体以上であった。

D-3では3種類が確認され、-6～8mで2種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類はメバルで、-6～8mで11～50個体であった。

D-5では10種類が確認され、エコ岸壁の周辺で8種類と最も多かった。個体数が11個体以上みられた種類は、エコ岸壁周辺でクロダイとキュウセンが11～50個体、メバルとスズメダイが51個体以上であった。

D-6では5種類が確認され、エコ岸壁の周辺では全ての種類が確認された。個体数が11個体以上みられた種類は、エコ岸壁の周辺でクロダイが11～50個体、メバルが51個体以上であった。

表2-2-3 (11) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-2)

平成22年5月21日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10	-10～12	-12～14	14～
種類名	基質	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫	泥
	魚類	ウミタナゴ(10～15)		r	r				
クロダイ(25～35)				r	r				
キュウセン(5～15)					r				
メバル(3～5)					cc				
アイナメ(10)					rr				
アサヒアナハゼ(10)					rr				
出現種類数(6)		-	1	2	5	-	-	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。
 注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表2-2-3 (12) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-3)

平成22年5月21日

平均海面 (m)		±0～-2	-2～4	-4～6	-6～8	-8～10	-10～12	-12～14	14～
種類名	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
	魚類	アイナメ(10)			rr				
クロダイ(20～25)					r				
メバル(3～5)					c				
出現種類数(3)		-	-	1	2	-	-	-	-

注1: rr=1～2個体、r=3～10個体、c=11～50個体、cc=51個体以上を示す。
 注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表2-2-3 (13) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-5)

平成22年5月21日

観察部位		エコ岸壁		
		遊水室内	周辺	貫通孔
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン
種類名				
魚類	クロダイ (25~35)	r	c	
	アイナメ (10~12)	r	rr	
	ウミタナゴ (12~15)	r	r	
	メバル (3~12)	r	cc	
	カサゴ (10)	rr		
	クサフグ (10)	rr		
	アサヒアナハゼ (8~10)	rr	r	
	キュウセン (5~15)		c	
	スズメダイ (8~10)		cc	
	コモンフグ (12)		rr	
出現種類数(10)		7	8	-

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

表2-2-3 (14) 魚類の目視観察結果 泉大津沖処分場 (D-6)

平成22年5月21日

観察部位		エコ岸壁		
		遊水室内	周辺	貫通孔
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン
種類名				
魚類	クロダイ (20~30)	rr	c	
	アイナメ (10~15)		rr	
	アサヒアナハゼ (10)		rr	
	ウマヅラハギ (15)		rr	
	メバル (3~5)		cc	
出現種類数(5)		1	5	-

注1: rr=1~2個体、r=3~10個体、c=11~50個体、cc=51個体以上を示す。

注2: 種類名の()内の数値は全長(cm)を、出現種類数の()内の数値は総種類数を示す。

(2) 粹取り試料の分析

神戸沖処分場および大阪沖処分場において実施した植物の粹取り分析結果を表 2-2-4、動物の粹取り分析結果を表 2-2-5 に示した。

① 植物

A. 神戸沖処分場

A-2 では、上層から下層で 11~13 種類が出現し、総湿重量は 28.96~202.92 g/0.25m² であった。種類数は中層で最も多く、上層で最も少なかったが、各層ほぼ同じであった。湿重量は下層で最も多く、上層で最も少なかった。

優占種をみると、上層では緑藻綱のシオグサ属が全体の 43%、中層では藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが全体の 84%、下層では紅藻綱のマクサが全体の 51% を占め、それぞれ第 1 位であった。

C. 大阪沖処分場

C-2 では、上層から下層で 6~17 種類が出現し、総湿重量は 0.98~368.18 g/0.25m² であった。種類数は中層で最も多く、上層で最も少なかった。湿重量は下層で最も多く、上層で最も少なかった。

優占種をみると、上層では緑藻綱のアオサ属が全体の 89%、中層と下層では紅藻綱のスカケベニがそれぞれ全体の 51% と 93% を占め、それぞれ第 1 位であった。

D. 泉大津沖処分場

D-2 では、上層から下層で 7~13 種類が出現し、総湿重量は 7.77~4,662.46 g/0.25m² であった。種類数は下層で最も多く、上層と中層で最も少なかった。湿重量は中層で最も多く、上層で最も少なかった。

優占種をみると、上層では紅藻綱のベニスナゴが全体の 40%、中層では藻場構成種である褐藻綱のワカメが全体のほぼ 100%、下層では紅藻綱のタオヤギソウが全体の 65% を占め、それぞれ第 1 位であった。このほかに、下層において藻場構成種であるワカメが 25% を占め、第 2 位であった。

D-3 では、上層から下層で 3~8 種類が出現し、総湿重量は 0.13~1.82 g/0.25m² であった。種類数と湿重量はともに下層で最も多く、上層で最も少なかった。

優占種をみると、上層ではシオグサ属が全体の 100%、中層では緑藻綱のミルが全体の 70%、下層では藻場構成種のワカメが全体の 84% を占め、それぞれ最も多かった。

表 2-2-4 枠取り分析結果(植物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M. W. L ± 0.0m)	中 (M. W. L -2.0m)	下 (M. W. L -4.0m)	
神戸沖 A-2 (5月30日)	出現種類数	11	13	12	
	総湿重量 (g / 0.25㎡)	28.96	130.83	202.92	
	優占種	第1位	シオク ⁺ 属 12.41 (43)	アマハキモク 109.48 (84)	マクサ 103.47 (51)
		第2位	ツノマク属 10.57 (36)	イトク ⁺ 属 6.08 (5)	カハ ⁺ ノリ 45.23 (22)
第3位		アオサ属 5.34 (18)	フタ ⁺ ラク 5.42 (4)	ススカケハ ⁺ ニ 27.04 (13)	
大阪沖 C-2 (5月29日)	出現種類数	6	17	16	
	総湿重量 (g / 0.25㎡)	0.98	132.22	368.18	
	優占種	第1位	アオサ属 0.87 (89)	ススカケハ ⁺ ニ 68.06 (51)	ススカケハ ⁺ ニ 341.94 (93)
		第2位	アオリ属 0.08 (8)	ヘ ⁺ ニスナコ ⁺ 20.42 (15)	フタ ⁺ ラク 24.08 (7)
第3位		シオク ⁺ 属 0.03 (3)	フタ ⁺ ラク 19.06 (14)	ツノマク属 0.78 (-)	
泉大津沖 D-2 (5月21日)	出現種類数	7	7	13	
	総湿重量 (g / 0.25㎡)	7.77	4,662.46	960.24	
	優占種	第1位	ヘ ⁺ ニスナコ ⁺ 3.11 (40)	ワカメ 4,652.94 (100)	クオヤギ ⁺ ソク 628.94 (65)
		第2位	イトク ⁺ 属 2.04 (26)	ヘ ⁺ ニスナコ ⁺ 3.73 (-)	ワカメ 242.67 (25)
第3位		フタ ⁺ ラク 1.45 (19)	ツノマク属 3.54 (-)	ツノマク属 46.67 (5)	
泉大津沖 D-3 (5月21日)	出現種類数	3	4	8	
	総湿重量 (g / 0.25㎡)	0.13	0.40	1.82	
	優占種	第1位	シオク ⁺ 属 0.13 (100)	ミル 0.28 (70)	ワカメ 1.53 (84)
		第2位	アオリ属 + (-)	タ ⁺ シ ⁺ ア属 0.11 (28)	アオサ属 0.27 (15)
アオサ属					
第3位		イトク ⁺ 属 0.01 (3)	アオリ属 0.01 (1) クオヤギ ⁺ ソク		

注1) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

注2) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示し、「-」は1%未満または算出できなかったことを示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

A-2では、上層から下層で24~65種類が出現し、下層で最も多く、上層で最も少なかった。総個体数は246~13,662個体/0.25m²、総湿重量は2.38~237.47g/0.25m²で、ともに中層で最も多く、上層で最も少なかった。

優占種をみると、上層では個体数において軟体動物門のムラサキイガイが全体の33%、湿重量において軟体動物門のカラマツガイが全体の35%を占め最も多かった。中層では個体数において節足動物門のマルエラワレカラが全体の49%、湿重量において棘皮動物門のイトマキヒトデが全体の34%を占め最も多かった。下層でも中層と同様に、個体数においてマルエラワレカラが全体の38%、湿重量においてイトマキヒトデが全体の28%を占め最も多かった。

C. 大阪沖処分場

C-2では、上層から下層で18~60種類が出現し、中層で最も多く、上層で最も少なかった。総個体数は348~11,998個体/0.25m²、総湿重量は72.77~201.84g/0.25m²で、上層で最も多く、下層で最も少なかった。

優占種をみると、上層ではムラサキイガイが個体数で全体の99%、湿重量で全体のほぼ100%を占め最も多かった。中層では、個体数において軟体動物門のキヌマトイガイが全体の16%、湿重量において*Thelepus* sp.が全体の38%を占め最も多かった。下層では個体数において軟体動物門のムギガイが全体の14%、湿重量において軟体動物門のコシダカガンガラが全体の53%を占め最も多かった。

D. 泉大津沖処分場

D-2では、上層から下層で22~53種類が出現し、中層で最も多く、上層で最も少なかった。総個体数は1,131~18,592個体/0.25m²、総湿重量は21.44~807.48g/0.25m²で、上層で最も多く、下層で最も少なかった。

優占種をみると、上層ではムラサキイガイが個体数で全体の99%、湿重量で全体の97%を占め最も多かった。中層では、個体数において節足動物門のゼウクソ属が全体の23%、湿重量において原索動物門のネンエキボヤが全体の30%を占め最も多かった。下層では、個体数において環形動物門の*Polydora* sp.が全体の24%、湿重量においてコシダカガンガラが全体の60%を占め最も多かった。

D-3では、上層から下層で24~74種類が出現し、下層で最も多く、上層で最も少なかった。総個体数は3,401~38,331個体/0.25m²、総湿重量は216.93~1,7109.05g/0.25m²で、ともに上層で最も多く、下層で最も少なかった。

優占種をみると、上層ではムラサキイガイが個体数において全体の99%、湿重量において全体の98%を占め最も多かった。中層でも上層と同様に、ムラサキイガイが個体数において全体の71%、湿重量において全体の75%を占め最も多かった。下層では環形動物門のエゾカサネカンザシが個体数において全体の23%、湿重量において全体の16%を占め最も多かった。

表2-2-5 枠取り分析結果(動物)

調査地点 (調査日)	層	上 (M.W.L.±0.0m)	中 (M.W.L.-2.0m)	下 (M.W.L.-4.0m)	
神戸沖 A-2 (5月30日)	出現種類数(種類)	24	63	65	
	総個体数 (個体/0.25㎡)	246	13,662	3,296	
	総湿重量 (g/0.25㎡)	2.38	237.47	103.70	
	個体数 からみた 優占種	第1位	ムラサキガイ 80 (33)	マルエテリレカラ 6,665 (49)	マルエテリレカラ 1,265 (38)
		第2位	ヒクナガヨコエビ属 44 (18)	エゾガサネカンザシ 3,074 (23)	オサテリレカラ 528 (16)
		第3位	スズリカ科幼虫 31 (13)	キヌマトイガイ 1,536 (11)	ムキガイ 425 (13)
	湿重量 からみた 優占種	第1位	カラマツガイ 0.84 (35)	イトマキヒトデ 80.04 (34)	イトマキヒトデ 29.45 (28)
		第2位	ムラサキガイ 0.32 (13)	エゾガサネカンザシ 74.93 (32)	レイシガイ 24.16 (23)
第3位		チコケムシ 0.30 (13)	ムキガイ 21.38 (9)	ムキガイ 17.40 (17)	
大阪沖 C-2 (5月29日)	出現種類数(種類)	18	60	56	
	総個体数 (個体/0.25㎡)	11,998	5,541	348	
	総湿重量 (g/0.25㎡)	201.84	127.10	72.77	
	個体数 からみた 優占種	第1位	ムラサキガイ 11,904 (99)	キヌマトイガイ 880 (16)	ムキガイ 50 (14)
		第2位	クマトリコガイ 19 (+)	マルエテリレカラ 832 (15)	オサテリレカラ 49 (14)
		第3位	エシホソコエビ属		
	湿重量 からみた 優占種	第1位	ムラサキガイ 200.96 (100)	Thelepus sp. 784 (14)	Thelepus sp. 40 (11)
		第2位	クマトリコガイ 0.41 (+)	Thelepus sp. 48.56 (38)	コシタカガシラ 38.51 (53)
第3位		シロマツラシリス 0.17 (+)	エゾガサネカンザシ 21.12 (17)	コハルトフネガイ 9.69 (13)	
泉大津沖 D-2 (5月21日)	出現種類数(種類)	22	53	52	
	総個体数 (個体/0.25㎡)	18,592	1,929	1,131	
	総湿重量 (g/0.25㎡)	807.48	24.63	21.44	
	個体数 からみた 優占種	第1位	ムラサキガイ 18,432 (99)	セウクソ属 453 (23)	Polydora sp. 276 (24)
		第2位	マサコガイ 47 (+)	カマキリヨコエビ属 386 (20)	アリアクトロクタムシ 216 (19)
		第3位	シロマツラシリス 44 (+)	ムラサキガイ 288 (15)	マルエテリレカラ 112 (10)
	湿重量 からみた 優占種	第1位	ムラサキガイ 783.36 (97)	ネンキホキ 7.43 (30)	コシタカガシラ 12.93 (60)
		第2位	レイシガイ 19.69 (2)	コフコケムシ科 4.94 (20)	コフコケムシ科 1.36 (6)
第3位		マサコガイ 1.45 (+)	レイシガイ 3.89 (16)	ヒラコケムシ科 1.28 (6)	
泉大津沖 D-3 (5月21日)	出現種類数(種類)	24	60	74	
	総個体数 (個体/0.25㎡)	38,331	14,785	3,401	
	総湿重量 (g/0.25㎡)	1,719.05	972.33	216.93	
	個体数 からみた 優占種	第1位	ムラサキガイ 37,888 (99)	ムラサキガイ 10,496 (71)	エゾガサネカンザシ 768 (23)
		第2位	Typosyllis sp. 81 (+)	エゾガサネカンザシ 2,592 (18)	アリアクトロクタムシ 647 (19)
		第3位	タマキ 72 (+)	キヌマトイガイ 288 (2)	トロクタムシ属 277 (8)
	湿重量 からみた 優占種	第1位	ムラサキガイ 1,679.36 (98)	ムラサキガイ 732.16 (75)	エゾガサネカンザシ 34.32 (16)
		第2位	カラマツガイ 15.12 (1)	エゾガサネカンザシ 99.36 (10)	アミコケムシ科 32.63 (15)
第3位		マサキ 10.13 (1)	レイシガイ 30.76 (3)	キクサ属 29.54 (14)	

注) 表中の()内の数値は総量に対する占有率を示し、+は1%未満を示す。

資料編

粹取り分析結果

1. 粹取り分析結果 (植物)

(1) 神戸沖処分場 ; A-2 (平成 22 年 5 月 30 日)

単位 : g / 0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	A-2		
			層	上層	中層	下層
1	緑藻	アオサ属		5.34		
2		アオリ属		0.13		
3		シオクサ属		12.41	0.04	
4	褐藻	クロカシラ属		0.03		
5		セイヨウハハノリ		0.02		
6		カヤモリ属		0.03		
7		タマハハキモク			109.48	
8	紅藻	オーシユイネラ属		+	+	+
9		マクサ			3.49	103.47
10		ススカケハニ				27.04
11		ツノマタ属		10.57	0.42	0.51
12		ムカデノリ				23.26
13		フタラク			5.42	
14		ヘニスナコ			4.11	
15		カハノリ			1.72	45.23
16		コスシフツツナギ			0.02	
17		キヌイトフタツカサネ			0.04	0.08
18		フタツカサネ属				0.03
19		ケイキス			0.01	+
20		イキス科				0.04
21		イトクサ属		0.43	6.08	3.26
22	珪藻	<i>Grammatophora</i> sp.		+		+
23		<i>Nitzschia</i> sp.		+	+	
出現種類数				11	13	12
総湿重量				28.96	130.83	202.92

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

(2)大阪沖処分場；C-2（平成22年5月29日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	C-2			
			層	上層	中層	下層	
1	緑藻	アオサ属		0.87	1.14		
2		アオリ属		0.08		0.01	
3		シオクサ属		0.03	0.02	+	
4	褐藻	フクロリ			9.21		
5	紅藻	サンゴモ目				-	
6		マクサ				0.76	
7		ススカケヘニ			68.06	341.94	
8		ツノマタ属			12.18	0.78	
9		ムカデノリ			0.10		
10		イワノカリ科				-	
11		フタラク			19.06	24.08	
12		ツルツル			1.30		
13		ヘニスナコ			20.42		
14		コスシフシツナギ			0.22		
15		キヌイトフタツカサネ			0.16	+	
16		フタツカサネ			+	+	
17		イギス属			+	+	
18		ヨツカサネ属				+	
19		イギス科			+	+	
20		ダシア属				0.02	
21		イトクサ属			0.02	0.13	
22		ヒメコサネモ			0.33	0.46	
23		珪藻	<i>Melosira sp.</i>		+	+	
24			<i>Grammatophora sp.</i>		+		
25			珪藻綱		+		
出現種類数				6	17	16	
総湿重量				0.98	132.22	368.18	

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場；D-2（平成22年5月21日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	D-2		
			層	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		0.01	0.08	
2		アサ属		0.94		0.13
3		シオクサ属		0.22		+
4	褐藻	ワカメ		4,652.94		242.67
5	紅藻	マクサ				1.69
6		スサケヘニ				21.52
7		ツノマタ属			3.54	46.67
8		フダラク		1.45		
9		ヘニスナゴ		3.11	3.73	
10		カハノリ				4.31
11		タオヤキソウ				628.94
12		ムカデノリ			1.89	14.17
13		キヌイトフタツカサネ				0.03
14		ヨツカサネ属				+
15		イギス科			0.22	0.03
16	イトクサ属		2.04	0.06	0.08	
17	珪藻	珪藻綱		+		
出現種類数				7	7	13
総湿重量				7.77	4,662.46	960.24

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場；D-3（平成22年5月21日）

単位：g/0.25m²

No.	綱	種名	調査地点	D-3		
			層	上層	中層	下層
1	緑藻	アオリ属		+		0.01
2		アサ属		+		0.27
3		シオクサ属		0.13		
4		ミル			0.28	
5	褐藻	ワカメ				1.53
6	紅藻	タオヤキソウ				0.01
7		キヌイトフタツカサネ			+	+
8		フタツカサネ属				+
9		ヨツカサネ属				+
10		タシニア属			0.11	
11		イトクサ属			0.01	+
出現種類数				3	4	8
総湿重量				0.13	0.40	1.82

注) 表中の「+」は0.01g未満を示す。

2. 枠取り分析結果 (動物)

(1) 神戸沖処分場 ; A-2 (平成 22 年 5 月 30 日) - 1

単位 : 個体数 ; 個体/0.25㎡, 湿重量 ; g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点		A-2					
						層	項目	上層		中層		下層	
								個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱			-	0.04				
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.05				
3	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミシバ	ウミシバ科			-	+				
4		花虫	-	-	イソキョウ目			2	0.04	4	0.03		
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	1	0.01	8	0.08	16	0.19		
6	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	2	+	4	0.06	5	0.02		
7		有針	針紐虫	アソフィボールス	アソフィボールス属			4	0.21				
8				テトラステマ	メノヒモムシ			9	0.02	5	0.03		
9	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	Lepidonotus sp.	4	0.05	8	0.42				
10					マダラウロコムシ			34	0.17	72	0.26		
11					ミロクウロコムシ			19	0.54				
12				サシハコカイ	アケノサシハ			3	0.01	4	0.03		
13					サミドリサシハ			14	0.25				
14					Eulalia sp.					2	0.01		
15					マダラサシハ	1	+	2	0.11				
16				オトヒメコカイ	Ophiodromus sp.			11	0.04	1	+		
17				シリス	カキモシリス					1	+		
18					ムラサキシマシリス					3	0.01		
19					シロマダラシリス	19	0.10	3	+	16	0.02		
20					Typosyllis sp.	8	0.03	52	0.39	18	0.13		
21					Autolytus sp.			1	+				
22				コカイ	イツウルヒゲコカイ					1	0.01		
23					クマトリコカイ	7	0.10						
24					ヒメコカイ					1	0.01		
25					マサコカイ	1	0.02	1	0.01	2	0.01		
26				チロリ	Glycera sp.			1	0.01	3	0.01		
27				イツメ	Eunice sp.					1	0.09		
28			定在	スピオ	Polydora sp.			21	0.04	19	0.03		
29				ミスヒキコカイ	Dodecaceria sp.			112	0.32	1	+		
30					Tharyx sp.					3	0.01		
31					ミスヒキコカイ			72	5.52	19	0.68		
32				オフェリアコカイ	Armandia sp.					1	+		
33					カスリオフェリア			13	0.13	1	+		
34				フサコカイ	Thelepus sp.			60	6.36	11	1.56		
35					Nicolea sp.					4	0.66		
36				カンサシコカイ	エゾカサネカンザシ	4	0.03	3,074	74.93	102	3.36		
37					イハラカンザシ			1	0.01				
38	触手動物	筈虫	筈虫	ホウキムシ	Phoronis sp.			11	0.07	3	+		
39		苔虫	円口	クダコケムシ	クダコケムシ科					-	0.02		
40			唇口	フサコケムシ	フサコケムシ					-	0.05		
41				ヒラコケムシ	チコケムシ	-	0.30	-	1.04				
42				ウスコケムシ	ウスコケムシ科			-	0.03				
43				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科	-	0.08						
44	軟体動物	多板	新ヒサラガイ	ヒゲヒサラガイ	ヒゲヒサラガイ			1	0.25				
45				ケハダヒサラガイ	ケハダヒサラガイ属	4	0.15	1	0.02				
46		腹足	古腹足	ニシキウスガイ	コシダカウシガ					2	7.95		
47			盤足	リソツボ	タマツボ			3	0.01				
48				スズメハマツボ	スズメハマツボ					1	+		
49				カリハカサガイ	シマノウフネガイ			2	0.02	5	0.04		
50			新腹足	アツキガイ	レイシガイ			6	10.02	6	24.16		
51				フトコカイ	ムキガイ			478	21.38	425	17.40		
52					ノミナ					4	0.01		
53					ノミナモドキ					22	0.18		
54			異旋	トリカクガイ	クチキレモドキ属					1	0.01		
55					トカケクチキレ属			1	+	2	+		
56					Iolaea sp.					3	0.02		
57					トカケギリ属			4	+				
58		頭楯	フトウガイ	フトウガイ	フトウガイ			2	0.15	1	0.02		
59		基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	カラマツガイ	13	0.84						
60		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	80	0.32	2	+				
61					コウロエンカワヒバガイ	1	0.01						
62					タマエガイ			8	0.04	2	0.04		
63			ウケイスガイ	ミノガイ	ユキミノ属			2	0.06				
64			マルスタレガイ	マルスタレガイ	アザリ			1	+				
65				イワホリガイ	チミイワホリガイ					1	0.18		
66					ウスカサシコカイ	3	0.04						
67			オノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			1,536	15.68	120	1.88		

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(1)神戸沖処分場；A-2（平成22年5月30日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点								
						層		A-2		層				
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量		
68	節足動物	顎脚	完胸	フジツボ	サンカクフジツボ					56	5.36			
69					クナイス	クナイス	セウクツ属	1	+	120	0.08			
70					等脚	ウミナナフシ	ウミナナフシ属			5	0.01			
71						コツブムシ	シリケンウミセミ	3	0.01					
72					端脚	メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属			4	0.01			
73						モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属	3	+					
74						ユンボヨコエビ	ユンボヨコエビ属	3	+	288	0.24	18	0.02	
75						ヒケナガヨコエビ	ヒケナガヨコエビ属	44	0.23	301	0.79			
76						カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	8	+	116	0.12	4	+	
77						トノコクダムシ	ホソヨコエビ				36	0.08		
78							アリアケドロクダムシ				64	0.04	5	0.01
79							トノコクダムシ属				1	+	1	+
80						ワレカヲ	トケワレカヲ				458	0.70	354	0.65
81							オキテワレカヲ						528	0.32
82					マルエワレカヲ				5	+	6,665	14.73	1,265	2.56
83					十脚	ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ			1	+	21	0.05	
84						ヤトカリ	クフカヒメヨコハサミ					2	0.70	
85						ホンヤトカリ	アカシマホンヤトカリ						1	0.08
86							イクヒホンヤトカリ						3	0.03
87							ヤマトホンヤトカリ				2	0.07		
88						カニダマシ	フトウテネシレカニダマシ						1	0.59
89						カイカムリ	カイカムリ科						1	+
90						クモガニ	ヨツハモガニ				4	0.01	32	0.08
91						ワタリガニ	フタハベニツケガニ				4	0.60		
92	オウキガニ	サメハダオウキガニ							1	0.10				
93		ヒメケブカガニ						64	1.06					
94	昆虫	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	31	0.06								
95	棘皮動物	クモヒトデ	閉蛇尾	チビクモヒトデ	クサイロチビクモヒトデ				1	+				
96				キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ			2	1.37	18	3.40		
97				ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ			3	80.04	4	29.45		
98	ウニ	ホンウニ	サンショウウニ	コデマリウニ			1	0.02	1	0.03				
99	原索動物	尾索	腸性	キノナ	ユウレイボヤ				1	0.09				
100	-	-	-	-	卵塊				-	0.03				
出現種類数						24		63		65				
合計						246	2.38	13,662	237.47	3,296	103.70			

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(2)大阪沖処分場；C-2（平成22年5月29日）-1

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点						
						C-2						
						上層		中層		下層		
項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量						
1	海綿動物	石灰海綿	-	-	石灰海綿綱			-	0.08			
2		尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.06	-	1.02	
3	腔腸動物	ヒトロ虫	軟クレー	ウミサカツキガキ	ウミサカツキガキ科	-	+					
4	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	4	0.02					
5		有針	針紐虫	テトラステマ	メノヒモムシ			7	0.09			
6	星口動物	サメハダホシムシ	サメハダホシムシ	サメハダホシムシ	サメハダホシムシ					1	0.12	
7	環形動物	多毛	遊在	クロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.			13	0.35	1	+	
8					マダラコムシ			24	0.16	12	0.05	
9					ミロクコムシ			8	0.16	1	0.07	
10					サンハゴカイ	アケノサンハ		7	0.31			
11						サミドリサンハ		1	0.03			
12						マダラサンハ		1	0.04	1	0.02	
13					オトヒメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.		76	0.52	6	0.02	
14					シリス	カキモシリス	3	0.01				
15						シロタラシリス	15	0.17				
16						<i>Typosyllis</i> sp.	2	0.02	42	0.36	8	0.04
17						<i>Autolytus</i> sp.			1	+		
18					ゴカイ	ツルヒゲゴカイ				1	0.09	
19						イソツルヒゲゴカイ				3	0.04	
20						クマドリゴカイ	19	0.41	3	0.20	1	0.24
21						ヒメゴカイ			4	0.02	1	+
22						マサゴカイ	2	0.01	30	0.41	10	0.15
23					イソメ	<i>Eunice</i> sp.			1	0.14	1	0.02
24					セグロイソメ	<i>Arabella</i> sp.			3	0.28		
25				定在	スピオ	<i>Polydora</i> sp.				1	0.01	
26					ミスヒキゴカイ	ミスヒキゴカイ			16	0.96	12	0.29
27					オフェリアゴカイ	カスリオフェリア			23	0.15	1	+
28					フサゴカイ	<i>Thelepus</i> sp.			376	48.56	40	5.72
29						<i>Lanice</i> sp.			8	3.52		
30					ケヤリ	<i>Branchioma</i> sp.					2	0.16
31					カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシ			448	21.12	8	0.16
32	触手動物	簞虫	簞虫	ホリキムシ	<i>Phoronis</i> sp.					1	+	
33		苔虫	円口	クダコケムシ	クダコケムシ科					-	0.03	
34			唇口	ヒラコケムシ	チコケムシ			-	0.32			
35					ヒラコケムシ科					-	+	
36					ウスコケムシ	ウスコケムシ科			-	+	-	0.01
37					トゲイタコケムシ	トゲイタコケムシ科				-	-	0.01
38					アミコケムシ	アミコケムシ科			-	0.12		
39	軟体動物	多板	新ヒサラガイ	ウスヒサラガイ	ウスヒサラガイ					1	0.01	
40					ケハダヒサラガイ	ケハダヒサラガイ属	1	0.02				
41		腹足	古腹足	ニシキウスガイ	コシダカガシラ					9	38.51	
42			盤足	カリハカサガイ	シマメノウツネガイ					4	2.68	
19			翼舌	ミツクチキリオレ	キリオレ			5	0.10	2	0.02	
43		新腹足	アツキガイ	カコメガイ						1	0.03	
44					レイシガイ			4	1.60	1	0.86	
45					イホニシ			1	2.19			
46					フトロガイ	ムキガイ		83	8.34	50	4.77	
47						ノニナモトキ				1	0.01	
48		異旋	トリカダガイ		ヨコトカケキリ属					1	+	
50		側鰓	ウミフクロウ	ウミフクロウ						1	3.02	
51		基眼	カマツガイ	キタナガイ		2	0.17					
52		二枚貝	フネガイ	フネガイ	コベトフネガイ			1	0.74	8	9.69	
53			イガイ	イガイ	ムササキイガイ	11,904	200.96	64	0.16			
54					ヒバリガイ			1	0.02			
55					タマエガイ			48	1.60	1	+	
56			オオノガイ	キヌトイガイ	キヌトイガイ			880	10.56	8	0.08	

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(2)大阪沖処分場；C-2（平成22年5月29日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点							
						C-2							
						層	上層		中層		下層		
項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量							
57	節足動物	顎脚	完胸	フシツボ	ヨーロッパフシツボ					1	0.02		
58					オシカクフシツボ					3	0.09		
59				クナイス	ゼウクソ属	2	+						
60			等脚	ウミナナフシ	ウミナナフシ属			8	0.03	2	0.01		
61				ウミスズメシ	ウミスズメシ属			336	0.24	1	+		
62			端脚	メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属					1	+		
63					イソヨコエビ属			1	0.01				
64				モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属	9	0.01						
65				ユンボソコエビ	ユンボソコエビ属	19	0.01	272	0.32	5	0.01		
66				ヒケナガヨコエビ	ヒケナガヨコエビ属	1	0.01	64	0.32				
67				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	2	+	48	0.11				
68				トノボクダムシ	ホソヨコエビ			96	0.16	33	0.05		
69					アリアケトノボクダムシ			784	0.80				
70					ウエノトノボクダムシ			512	0.64				
71					トノボクダムシ属	1	+						
72				ワレカマ	トゲワレカマ			192	0.32	18	0.07		
73					オサテワレカマ			80	0.13	49	0.04		
74					クヒナガワレカマ			48	0.06				
75					マルエテワレカマ	11	0.02	832	1.50				
76				十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属			5	0.31	1	0.02	
77			ロウソクエビ		ハヤシロウソクエビ			1	0.01	11	0.03		
78			ホンヤトカリ		ケアシホンヤトカリ					1	0.92		
79					イタビホンヤトカリ			1	0.04	1	0.61		
80					ホンヤトカリ属			1	+	7	0.25		
81			カニタマシ		コブカニタマシ			15	0.89				
82			クモガニ		ヨツハモガニ			1	0.01				
83			オウギガニ		クブカアワツツガニ			1	0.03				
84					スヘスヘオウギガニ			5	0.77				
85					ヒメクブカガニ			55	2.44	11	0.40		
86			棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ	キヒトデ			2	0.23	3	0.27	
87			原索動物	尾索	腸性	ジゲムシ	ウスホヤ属				-	1.99	
88						ネンキホヤ			-	3.06			
89					壁性	スチエラ	エホヤ			2	10.44		
90			-	-	-	-	卵塊			-	0.96	-	0.04
出現種類数						18		60		56			
合計						11,998	201.84	5,541	127.10	348	72.77		

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場；D-2（平成22年5月21日）- 1

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点				D-2						
	門	綱	目	科	種名	上層		中層		下層	
						個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クワケ	ウミサカヅキカヤ	ウミサカヅキカヤ科			-	0.02		
2				ウミシハ	ウミシハ科					-	+
3		花虫	イソキンチャク	-	イソキンチャク目			12	0.07		
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目			14	0.18		
5	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	9	0.02	6	0.14	1	+
6		有針	針紐虫	テトラステマ	メノヒモムシ			21	0.08	5	0.02
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	<i>Lepidonotus</i> sp.	1	+				
8				マタウロコムシ				31	0.25	22	0.07
9				ミロクウロコムシ				2	0.01	1	0.01
10				カンザクコカイ	<i>Chrysopetalum</i> sp.					1	+
11				サシハゴカイ	サシハゴカイ科			1	+		
12				オトヒメゴカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.			11	0.03		
13				シリス	カキモトシリス					1	+
14					シロマダラシリス	44	0.64				
15					<i>Typosyllis</i> sp.	3	0.04	31	0.12	8	0.02
16					<i>Autolytus</i> sp.	1	0.01				
17				ゴカイ	イソツルヒケゴカイ					1	0.04
18					ツルヒケゴカイ			8	0.26	2	0.07
19					クマトリゴカイ	20	0.82	1	+		
20					アシナゴカイ	6	0.24				
21					マキゴカイ	47	1.45	54	0.47	2	0.01
22				セクロイソメ	<i>Arabella</i> sp.	1	0.01				
23			定在	スビオ	<i>Polydora</i> sp.			23	0.01	276	0.36
24				ミスヒキゴカイ	ミスヒキゴカイ					2	0.01
25				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア			1	+		
26				フサゴカイ	<i>Thelepus</i> sp.			1	0.03		
27					<i>Janice</i> sp.					1	0.02
28				カンザシゴカイ	エリカサネカンザシ			12	0.26	46	0.64
29	触手動物	箒虫	箒虫	ホリキムシ	<i>Phoronis</i> sp.					1	+
30		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ			-	0.43	-	0.07
31				ヒラコケムシ	ヒラコケムシ科			-	+	-	1.28
32				トケイコケムシ	トケイコケムシ科			-		-	0.24
33				モンクチコケムシ	モンクチコケムシ科			-	0.01		
34				イタコフコケムシ	イタコフコケムシ科	-	+	-	+	-	0.20
35				コブコケムシ	コブコケムシ科			-	0.15	-	1.36
36	軟体動物	多板	新ヒサラガイ	ヒケヒサラガイ	ヒケヒサラガイ					2	0.84
37				ケハダヒサラガイ	ケハダヒサラガイ属	8	0.59				
38		腹足	古腹足	ニシキウスガイ	コシタカガシラ			1	4.94	2	12.93
39					ニシキウスガイ科					1	0.01
40			盤足	カリハガサガイ	シマメノウサガイ			18	0.21		
41		新腹足	アツキガイ	カコメガイ				1	0.33		
42					レイシガイ	3	19.69	2	3.89		
43				フトコロガイ	ムキガイ			23	1.28	32	1.16
44					ノミナモトキ					4	0.02
45			異旋	トウカタガイ	イトカケチキレ属					2	+
46					クサスリクチキレ			1	+	2	0.01
47			裸鰓	-	裸鰓目			1	0.03		
48		基眼	カマツガイ	カマツガイ		1	0.54				
49		二枚貝	フネガイ	フネガイ	コベルトフネガイ					1	0.10
50			イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	18,432	783.36	288	0.72	4	0.03
51					ヒバリガイ	1	0.06				
52					タマエガイ			6	0.06		
53			マルスタレガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			53	0.40	48	0.30

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(3) 泉大津沖処分場；D-2（平成22年5月21日）-2

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量；g/0.25㎡

No.	調査地点				D-2						
					上層		中層		下層		
					個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
54	節足動物	顎脚	完胸	フシツホ	サンカクフシツホ					1	0.01
55		軟甲	タナイス	タナイス	ゼウクリ属			453	0.17	76	0.05
56			等脚	ウミスムシ	ウミスムシ	2	+	19	0.04	8	+
57			端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属	1	+	46	0.08		
58				テンクヨコエビ	オタフクヨコエビ属					4	0.01
59				モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属	2	+				
60				ユンボソコエビ	ユンボソコエビ属	1	+	31	0.09	16	0.03
61				ヒゲナカヨコエビ	ヒゲナカヨコエビ属	2	+	56	0.41	14	0.04
62				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	1	+	386	0.37	85	0.04
63				トノクダムシ	ホソヨコエビ			1	+	9	0.04
64					アリアクトノクダムシ			130	0.09	216	0.20
65				ワレカラ	トケワレカラ			5	0.02	68	0.24
66					オサテワレカラ					4	0.01
67					ケヒナカワレカラ			8	0.03	12	0.04
68					マルエワレカラ	6	0.01	143	0.19	112	0.20
69			十脚	ロウソクエビ	ハヤシロウソクエビ			6	0.01	3	0.01
70				ホンヤトカリ	ヤマトホンヤトカリ					8	0.02
71					ホンヤトカリ属			1	+	12	0.05
72				クモカニ	イッカククモカニ					1	0.05
73					ヨツハモカニ			2	0.01		
74				オウキガニ	ヒメケアガニ			2	0.25	1	0.02
75	棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ			12	0.80	9	0.24
76		ウニ	ホソウニ	サンショウウニ	サンショウウニ			3	0.05	4	0.13
77		ナマコ	樹手	スクロダクティラ	イシコ			1	0.02		
78	原索動物	尾索	腸性	シテムニ	ネエキホヤ			-	7.43		
79			壁性	スチエラ	フタスジホヤ			1	0.01		
80	-	-	-	-	卵塊			-	0.18	-	0.19
出現種類数						22		53		52	
合計						18,592	807.48	1,929	24.63	1,131	21.44

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場；D-3（平成22年5月21日）- 1

単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量：g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点						
						層		D-3		層		
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.61	-	4.01	
2	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミシバ	ウミシバ科			-	+			
3		花虫	イソキンチャク	-	イソキンチャク目	5	0.02	184	0.64	6	0.04	
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	1	+	44	2.16	16	0.25	
5	紐形動物	無針	古紐虫	ツブナス	ツブナス科					1	0.06	
6			異紐虫	リネウス	リネウス科	8	0.05	6	0.03	7	0.23	
7		有針	針紐虫	テトラステマ	メノヒモムシ	14	0.29	45	0.28	92	0.82	
8	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	ギンハチウロコムシ					1	0.96	
9					<i>Lepidonotus</i> sp.	8	0.06	20	0.34	4	0.20	
10					マダラウロコムシ			23	0.18			
11					ミロクウロコムシ			17	0.58	18	1.52	
12				サシハコカイ	サミドリサシハ			7	0.12	5	0.04	
13					マダラサシハ					1	+	
14				オトヒモカイ	<i>Ophiodromus</i> sp.			58	0.26	58	0.33	
15				シリス	カキモトシリス			1	+			
16					シロマダラシリス	55	1.52					
17					<i>Typosyllis</i> sp.	81	0.63	23	0.07	2	0.01	
18					<i>Autolytus</i> sp.			22	0.04	3	0.01	
19				コカイ	クマドリコカイ	31	0.75			1	0.09	
20					アシナガコカイ	6	0.74			8	0.01	
21					ヒメコカイ			8	0.09	14	0.10	
22					マサコカイ	49	1.72	237	10.71	168	7.32	
23					イツメ	<i>Eunice</i> sp.			2	0.02	26	3.98
24			定在	スビオ	<i>Polydora</i> sp.			163	0.32	41	0.11	
25				ミスヒキコカイ	チクサミスヒキ					1	0.01	
26					ミスヒキコカイ			41	0.59	39	1.66	
27				フサコカイ	<i>Thelepus</i> sp.			8	0.45	5	0.26	
28				カンザシコカイ	エゾカンザシ			2,592	99.36	768	34.32	
29					カンザシコカイ科					4	0.12	
30	触手動物	筍虫	筍虫	ホウキムシ	<i>Phoronis</i> sp.			88	0.48	194	0.48	
31		苔虫	櫛口	フクロコムシ	フクロコムシ科					-	0.02	
32			唇口	フサコムシ	フサコムシ			-	0.04	-	0.41	
33				ヒラコムシ	ヒラコムシ科			-	0.48	-	0.04	
34				モンクチコムシ	モンクチコムシ科			-	1.92	-	0.08	
35				イタコフコムシ	イタコフコムシ科			-		-	0.16	
36				コフコムシ	コフコムシ科			-	0.18	-	0.46	
37				アミコムシ	アミコムシ科					-	32.63	
38		腕足	頂殻	盤殻	<i>Discinisca</i> sp.					2	0.03	
39	軟体動物	多板	新ヒサヲガイ	ケハタヒサヲガイ	ケハタヒサヲガイ属	13	1.82					
40		腹足	カサガイ	ユキノカサガイ	コモレヒコガモガイ	16	1.45					
41				盤足	タマキヒ	1	+					
42					タマキヒ	72	1.44					
43				カリハカサガイ	シマノウツネガイ			11	7.84	13	3.68	
44				サクロガイ	サクロガイ			2	0.15			
45		新腹足	アツキガイ	レイシガイ	レイシガイ	27	2.94	55	30.76	18	7.05	
46					イホニシ			12	11.08	3	0.92	
47				フトロガイ	ムキガイ			35	2.96	118	9.91	
48				裸鰓	裸鰓目			1	0.36			
49				基眼	カラムツガイ	1	0.27					
50					カラムツガイ	41	15.12					
51		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	37,888	1,679.36	10,496	732.16	246	8.69	
52					ヒバリガイ					4	1.95	
53					タマエガイ			18	0.47	5	0.10	
54					イシマテ					1	0.02	
55			カキ	ナミカシワ	ナミカシワ			2	28.24			
56				イタホカキ	マカキ	1	10.13					
57			マルスタレガイ	キクザル	キクザル属					1	29.54	
58				イワホリガイ	チヂミイワホリガイ					2	0.23	
59					ウスカサシオガイ			77	8.93	7	1.22	
60				キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			288	4.08	267	5.88	

注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場；D-3（平成22年5月21日）-2

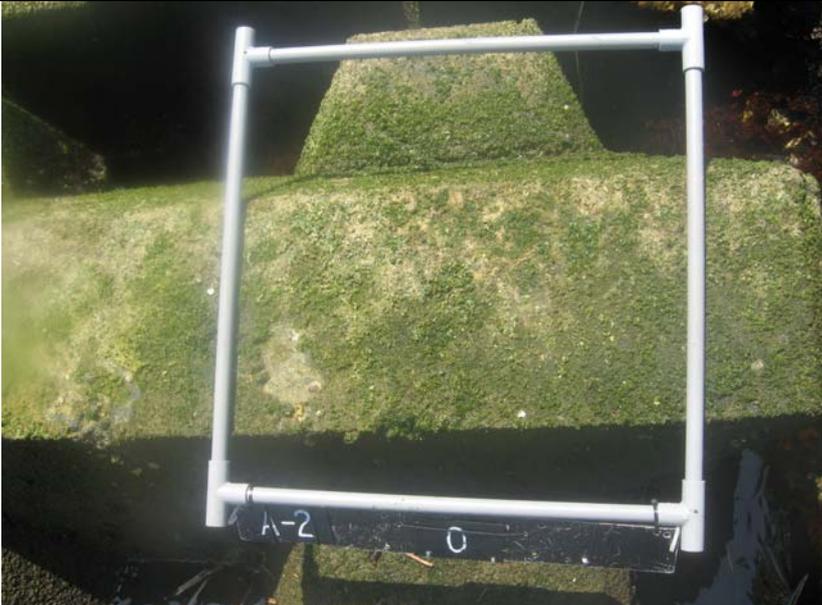
単位：個体数；個体/0.25㎡，湿重量：g/0.25㎡

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点									
						層		D-3		層					
						項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量			
61	節足動物	顎足	無柄	フジツボ	ミネフジツボ					3	1.73				
62					サンカクフジツボ			1	0.09	2	0.17				
63					軟甲	タナイス	タナイス	セウクソ属			22	0.01	20	0.02	
64							ウミミスムシ	ウミミスムシ			9	+	4	+	
65					端脚	コツブムシ	ツノウミミゼミ属			3	0.09	3	0.07		
66						タテソコエビ	タテソコエビ属						13	0.02	
67						メリタヨコエビ	イソヨコエビ属			11	0.07	8	0.05		
68						モクスヨコエビ	モクスヨコエビ属	8	0.05						
69						エンボソコエビ	エンボソコエビ属			37	0.03	9	0.01		
70						カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	2	+						
71						トノクダムシ	ホソヨコエビ						1	+	
72						ワレカラ	アリアケトノクダムシ					45	0.03	647	0.51
73							トノクダムシ属							277	0.22
74							トケワレカラ				1	+	17	0.06	
75							オサテワレカラ							2	0.01
76							クビナカワレカラ				6	0.01	7	0.10	
77							マルエワレカラ				2	+	19	0.02	79
78					十脚		テッポウエビ	テッポウエビ属						4	0.52
79							ロウソクエビ	ハギシロウソクエビ						3	0.01
80							ホンヤトカリ	ヤマトホンヤトカリ						11	0.26
81							ホンヤトカリ属				1	+			
82						カニダマシ	コフカニダマシ						30	0.60	
83						フトウテネジレカニダマシ				1	0.15	2	0.14		
84						クモカニ	イッカククモカニ			2	0.16	2	0.06		
85						ヨツハマカニ				7	0.02	1	2.51		
86						オウキカニ	スハスハオウキカニ			15	2.06	36	18.07		
87						ヒメケブカカニ						28	0.90		
88						イワカニ	ヒメベンケイカニ			12	0.49				
89					昆虫	ハエ	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	1	0.01	1	+			
90	棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ	キヒトデ			2	0.97							
91			ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ	2	3.24								
92	原索動物	尾索	腸性	ジテムニ	ネンエキホヤ			-	12.13	-	7.26				
93				壁性	スチエラ	コハンイタホヤ				-	2.10				
94						フタスジホヤ			1	0.06	7	3.16			
95						エホヤ			1	3.62	12	18.52			
96						ウロコホヤ						3	1.76		
97	-	-	-	-	卵塊			-	0.68						
出現種類数						24		60		74					
合計						38,331	1,719.05	14,785	972.33	3,401	216.93				

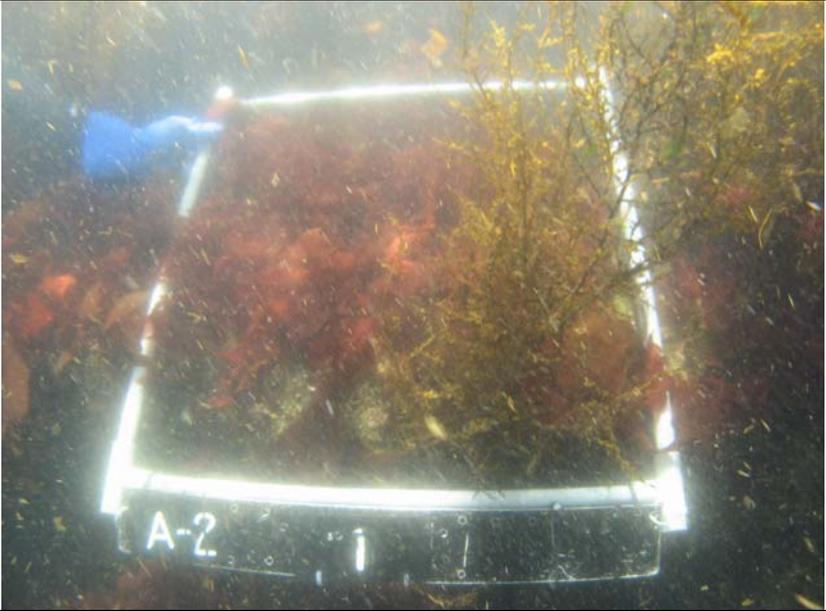
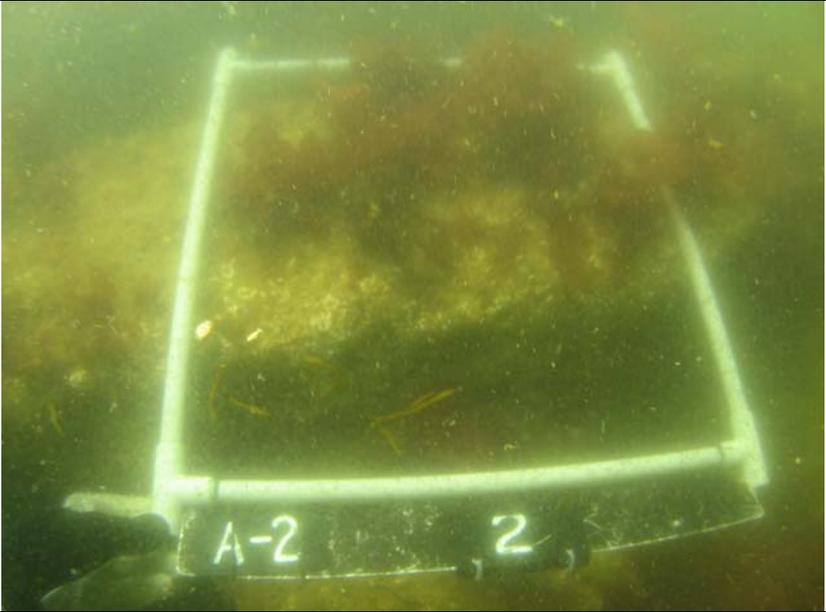
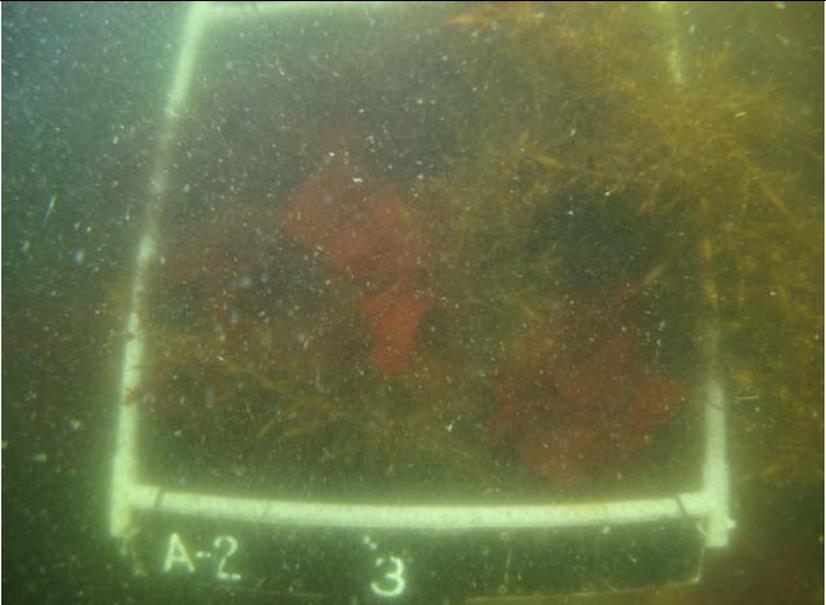
注) 個体数の「-」は計測不能を、湿重量の「+」は0.01g未満を示す。

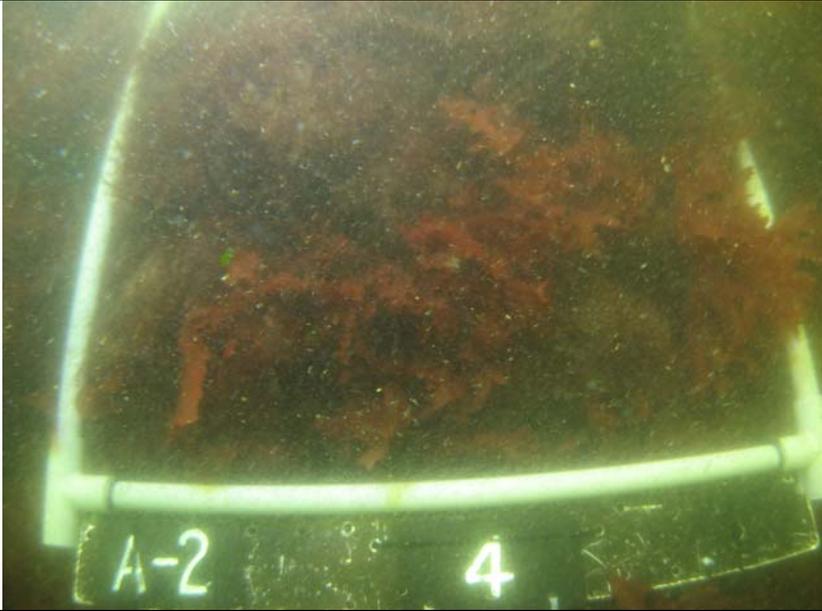
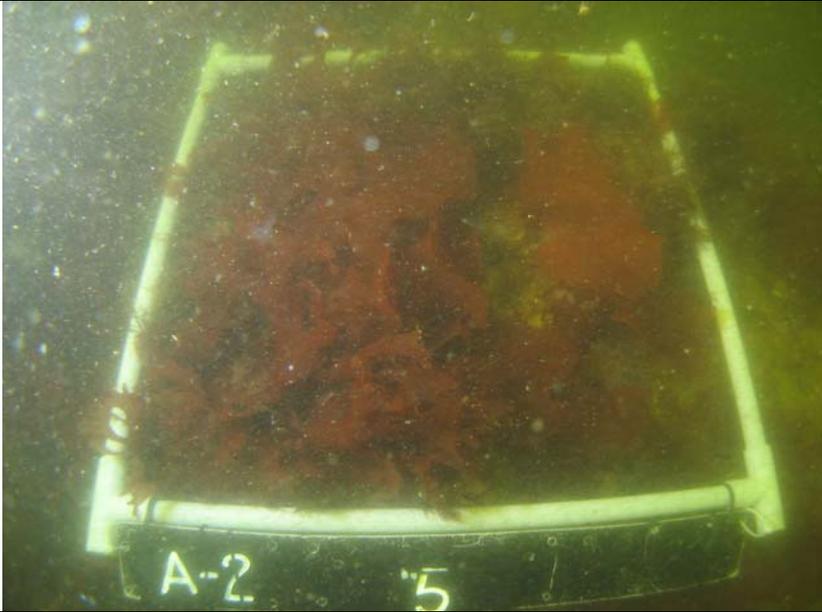
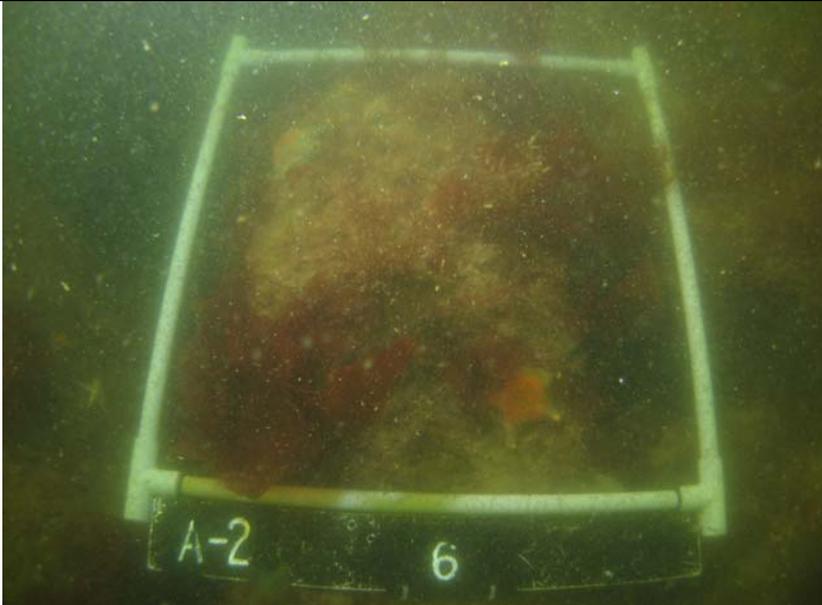
写 真 集

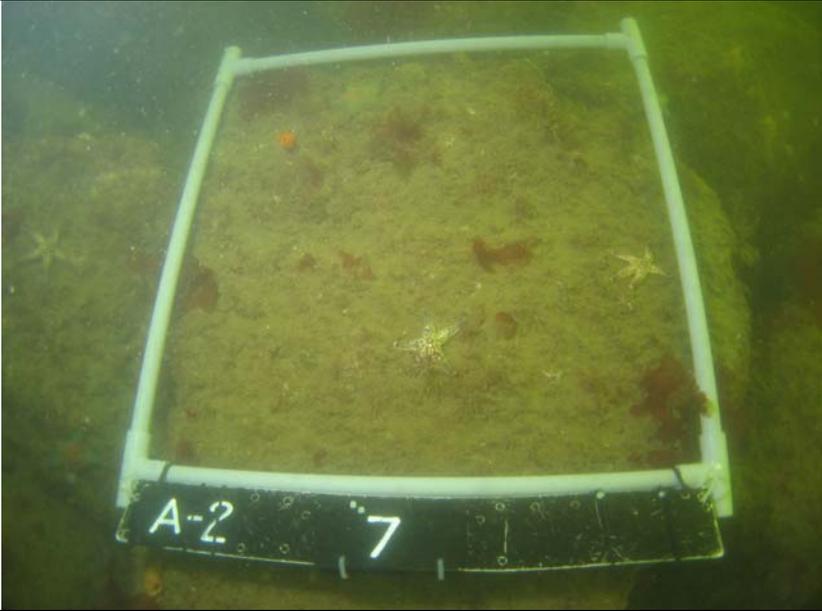
A. 神戸沖処分場

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>測線全景</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L ±0.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -10.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -1.0m 付近</p> <p>ツルツル</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>

調査日：平成 22 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -3.0m 付近</p> <p>シダモク</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -4.0m 付近</p> <p>カバノリ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -4.0m 付近</p> <p>マクサ</p>

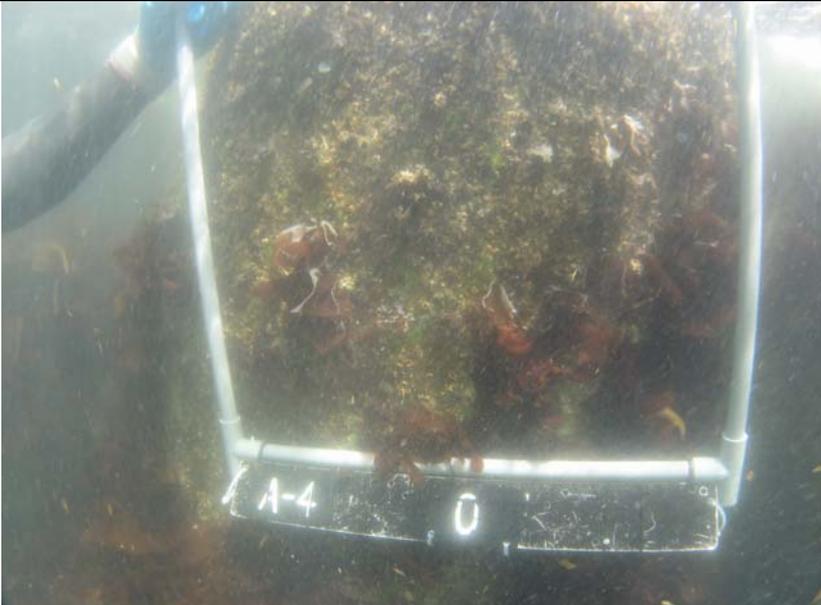
調査日：平成 22 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -6.0m 付近</p> <p>マナマコ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -0.0m 刈り取り前</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-2</p> <p>M. W. L. -0.0m 刈り取り後</p>

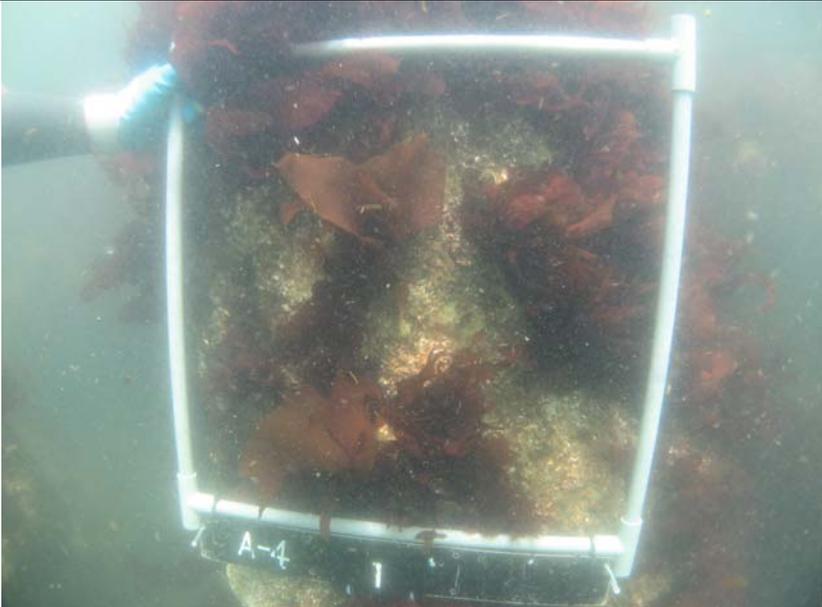
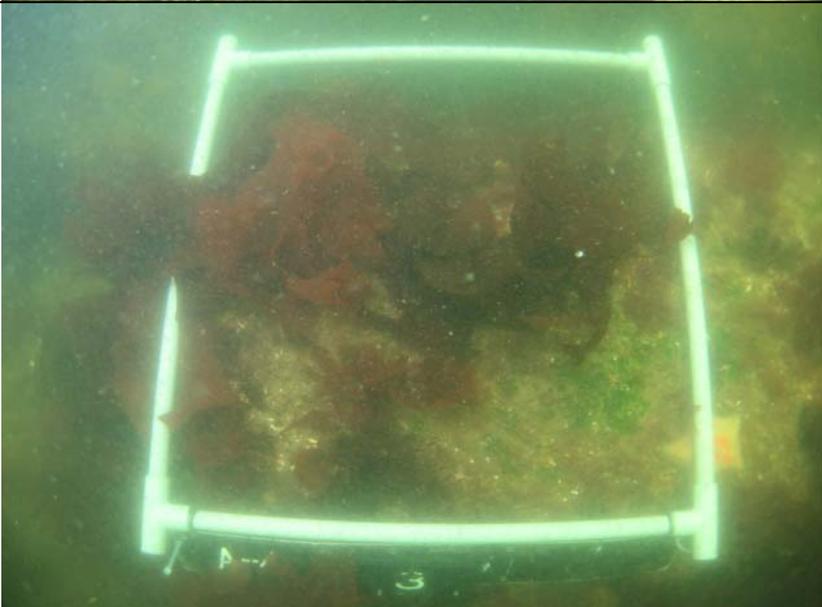
調査日：平成 22 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -2.0m 刈り取り前</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -2.0m 刈り取り後</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -4.0m 刈り取り前</p>

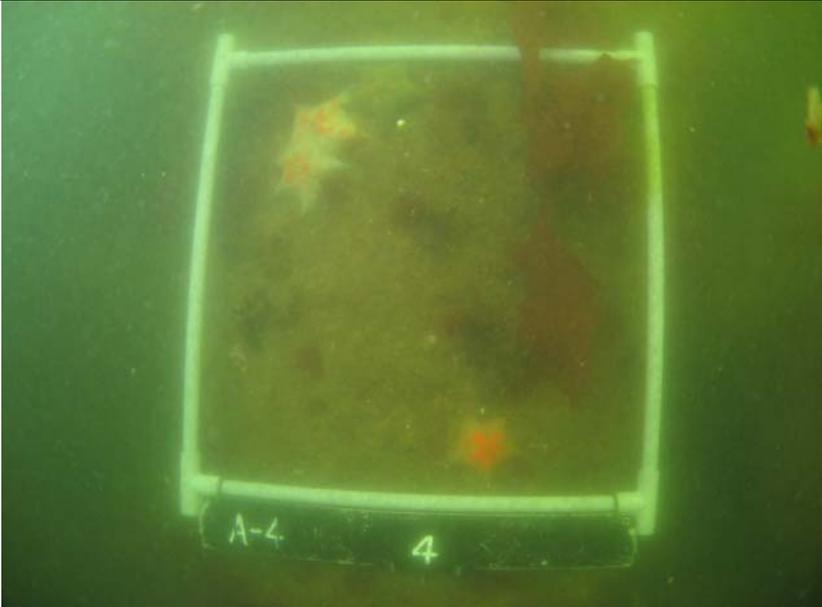
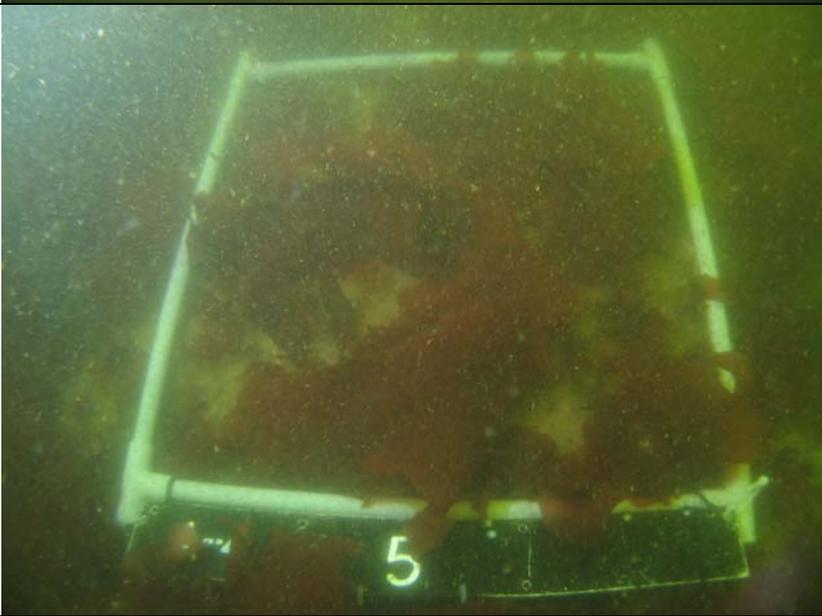
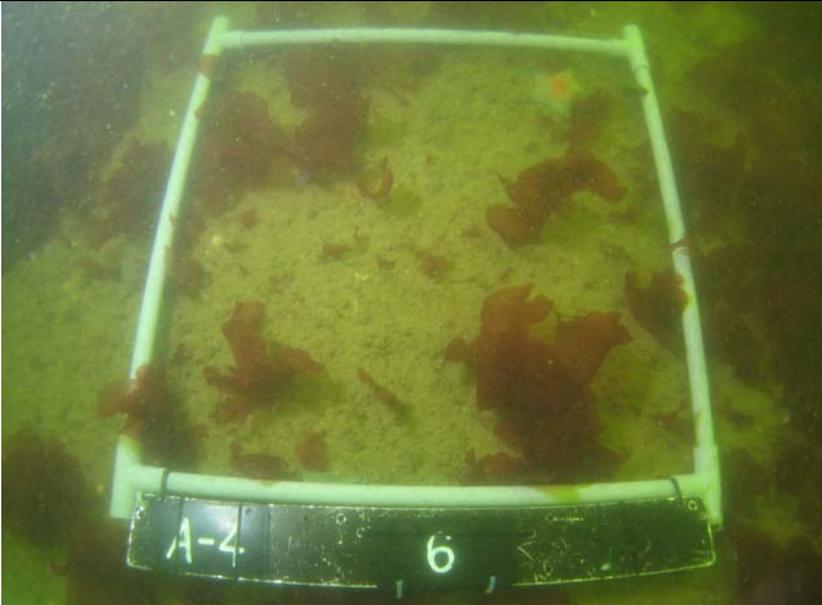
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>M. W. L. -4.0m 刈り取り後</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>作業状況 枠取り採取</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 2</p> <p>作業状況 目視観察</p>

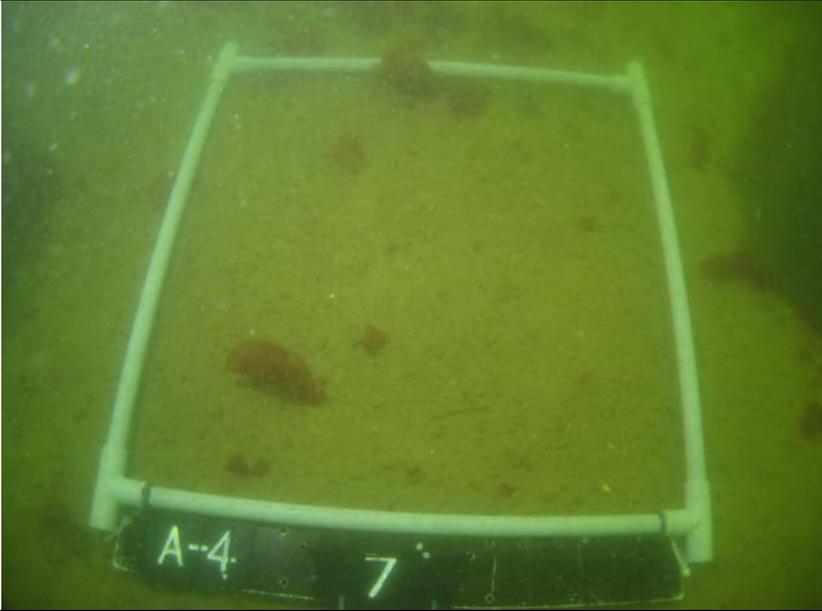
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

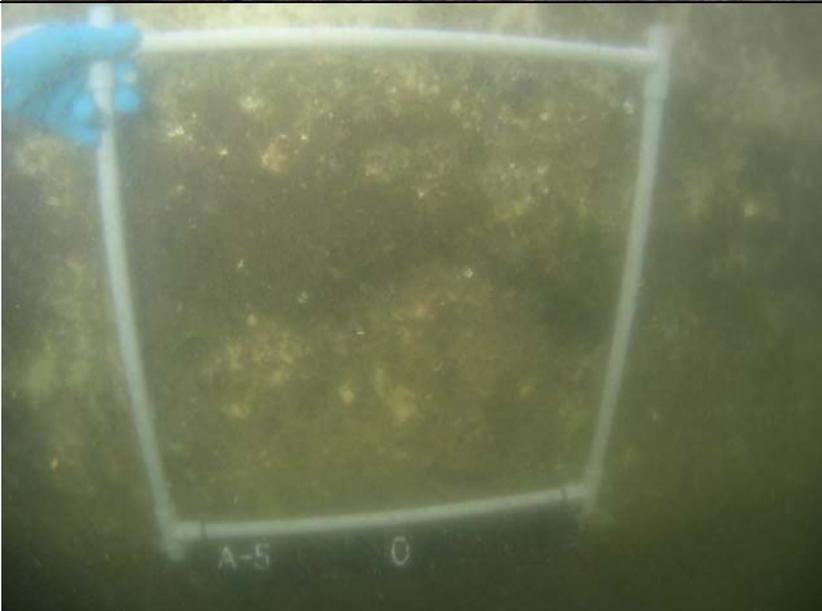
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -10.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>タマハハキモク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 4</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>ヨレモクモドキ</p>

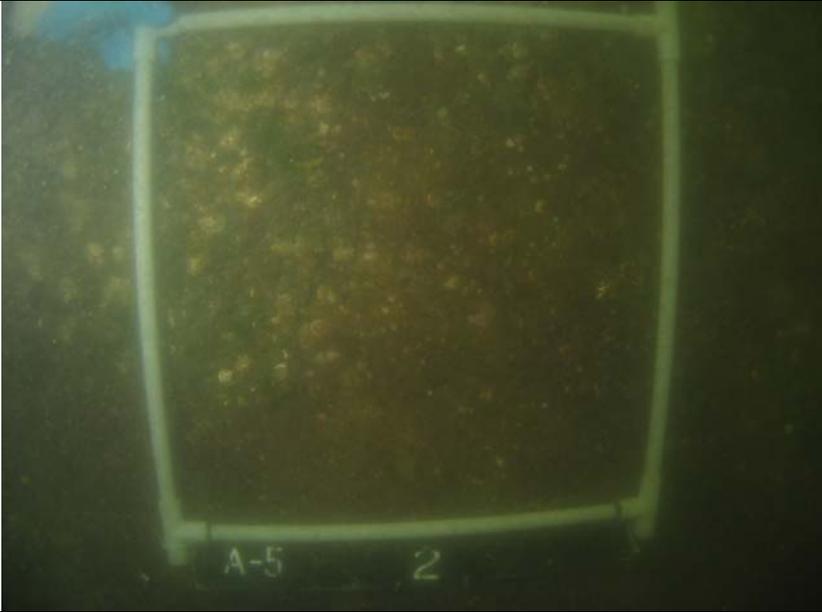
調査日：平成 22 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-4</p> <p>M. W. L. -3.0m 付近</p> <p>シダモク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-4</p> <p>M. W. L. -4.0m 付近</p> <p>ササノハペラ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-4</p> <p>M. W. L. -5.0m 付近</p> <p>ベニスナゴ</p>

調査日：平成 22 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-5</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-5</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-5</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

調査日：平成22年 5月30日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

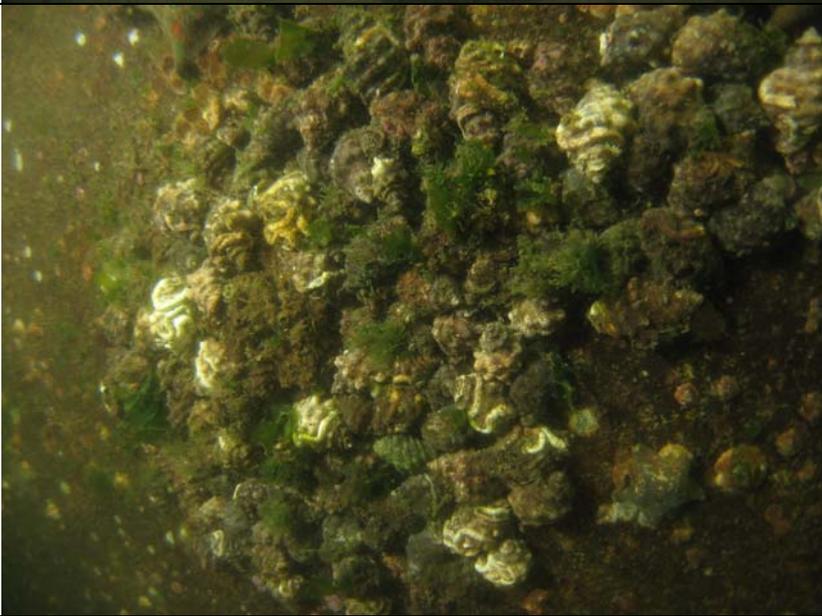
調査日：平成 22 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

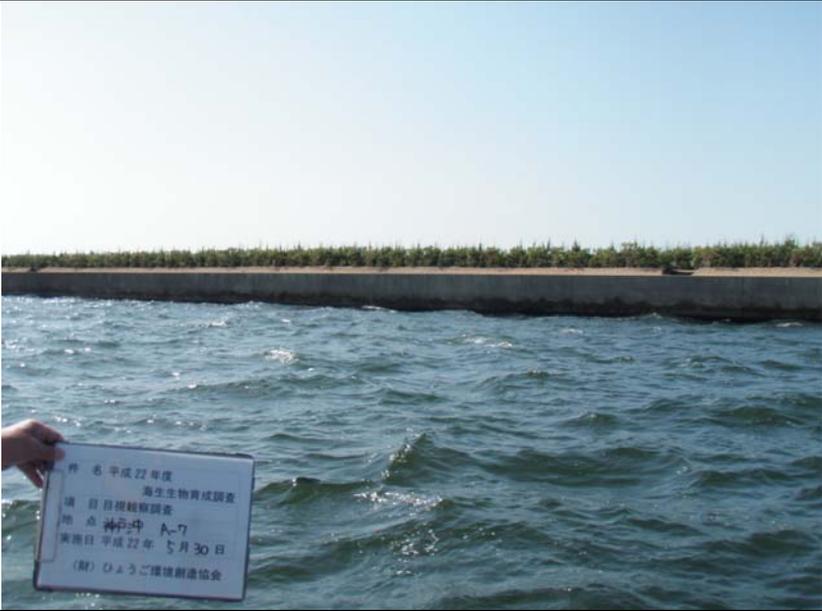
調査日：平成 22 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 5</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>

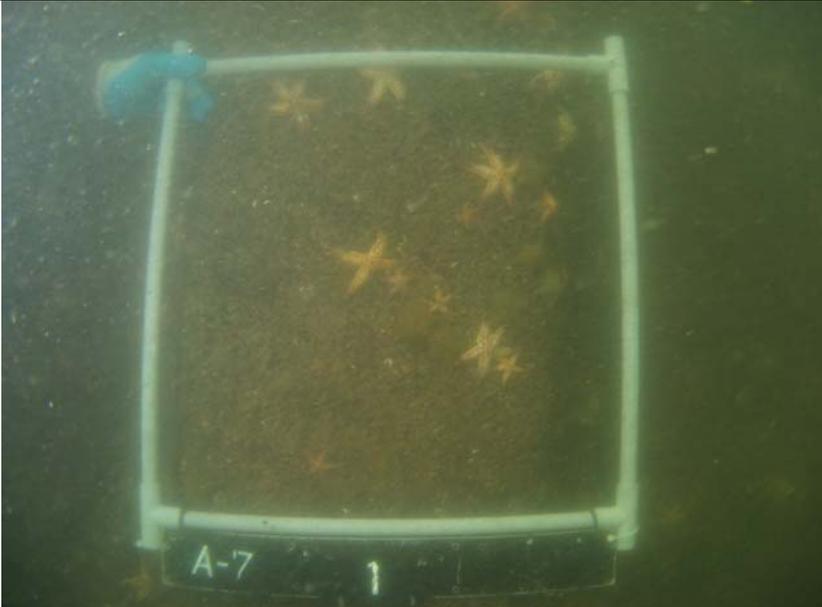
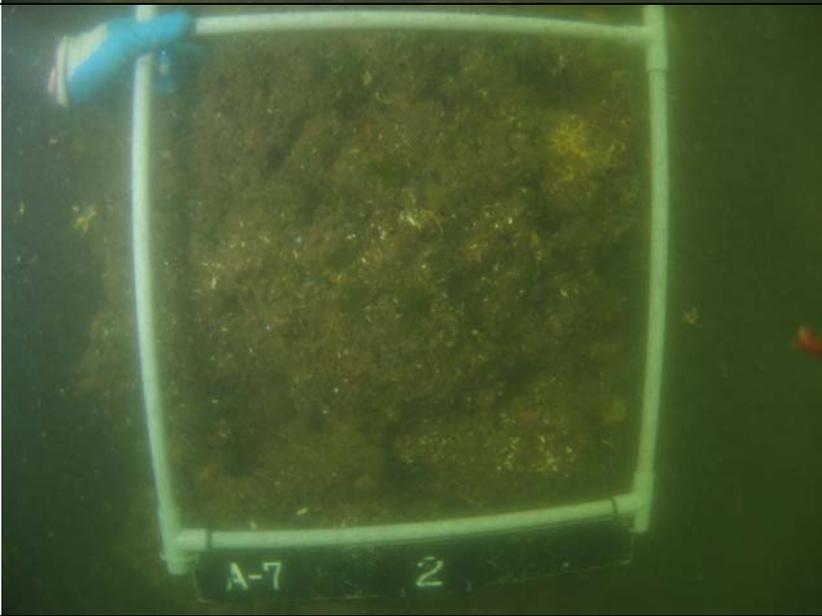
調査日：平成 22 年 5 月 30 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-5</p> <p>M. W. L. -10.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-5</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>レイシガイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-5</p> <p>M. W. L. -3.0m 付近</p> <p>イトマキヒトデ マナマコ</p>

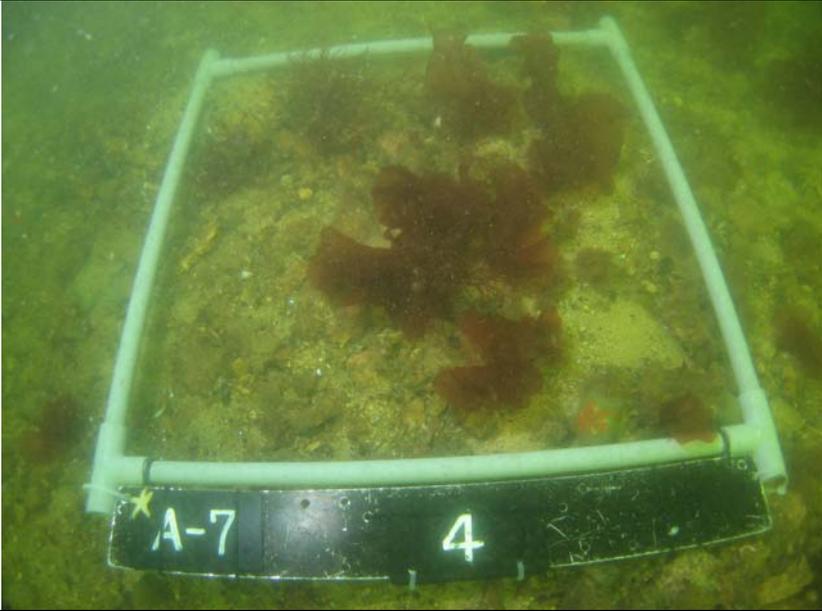
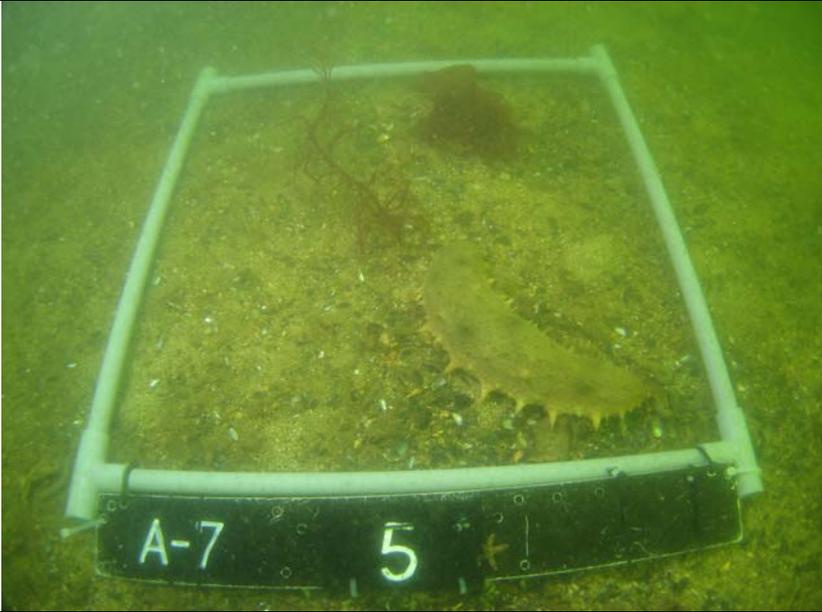
調査日：平成 22 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

調査日：平成22年 5月30日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 30 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 A - 7</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 30 日

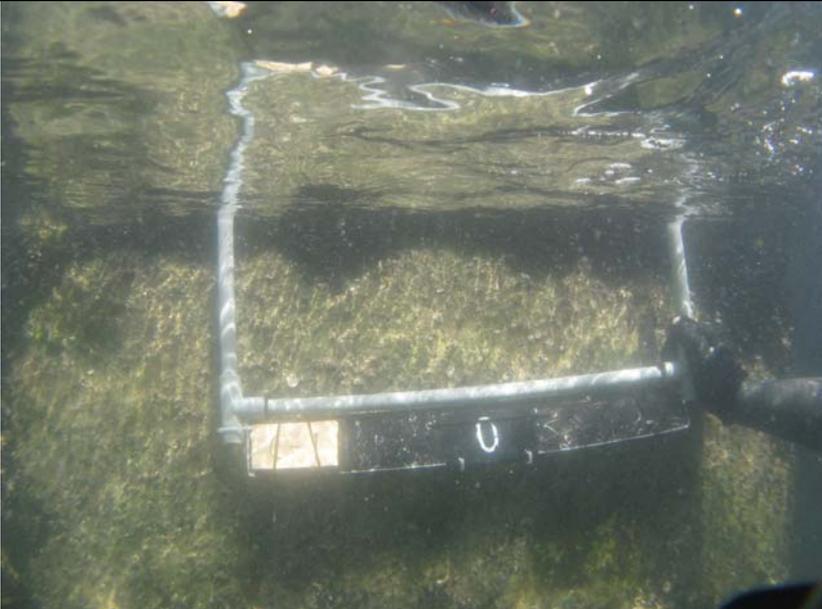
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. ±0.0m 付近</p> <p>ムラサキイガイ</p>

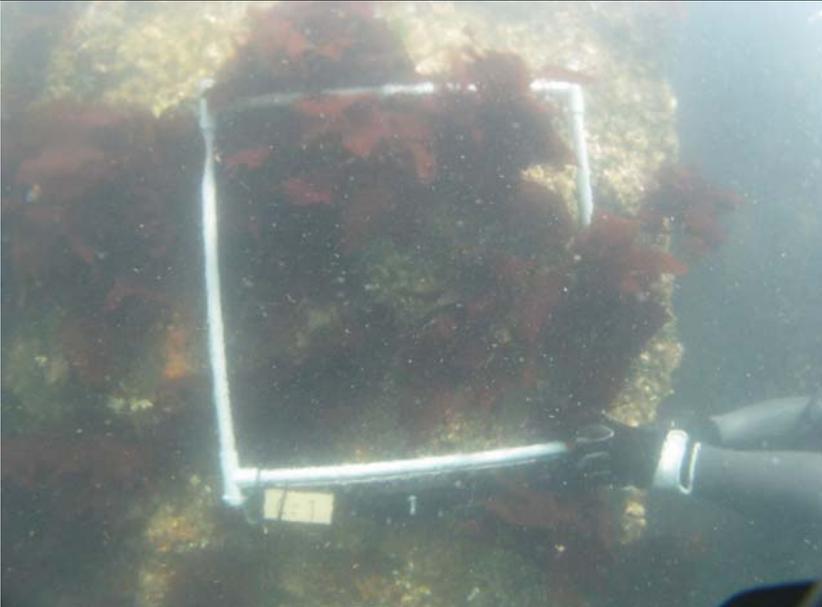
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. -1.0m 付近</p> <p>レイシガイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>アオサ属 カンザシゴカイ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. -3.0m 付近</p> <p>マナマコ キヒトデ</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. -4.0m 付近</p> <p>カバノリ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. -4.0m 付近</p> <p>カレイ科</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 A-7</p> <p>M. W. L. -6.0m 付近</p> <p>タオヤギソウ</p>

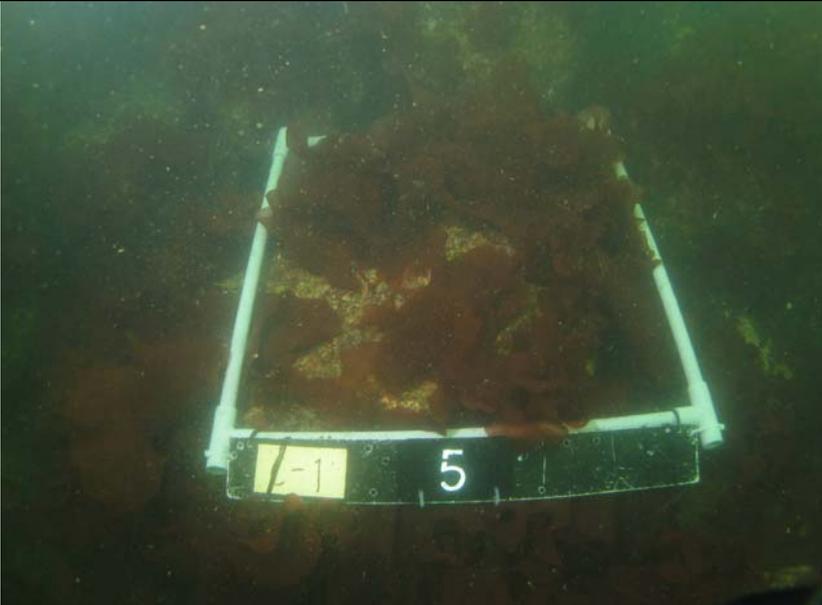
調査日：平成 22 年 5 月 30 日

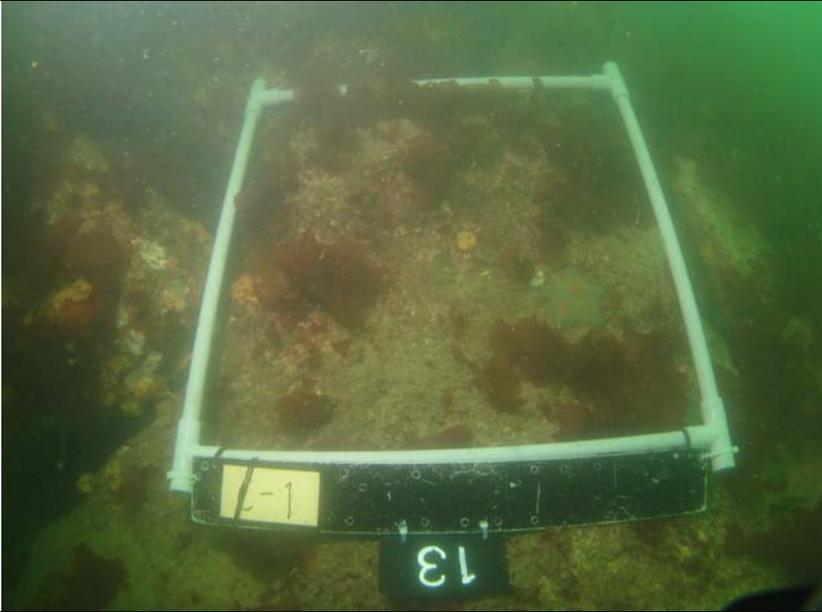
C. 大阪沖処分場

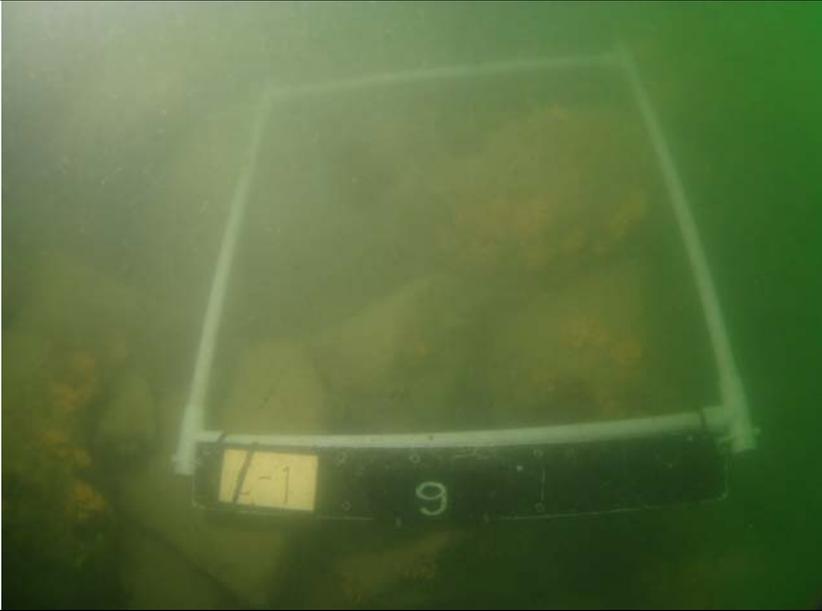
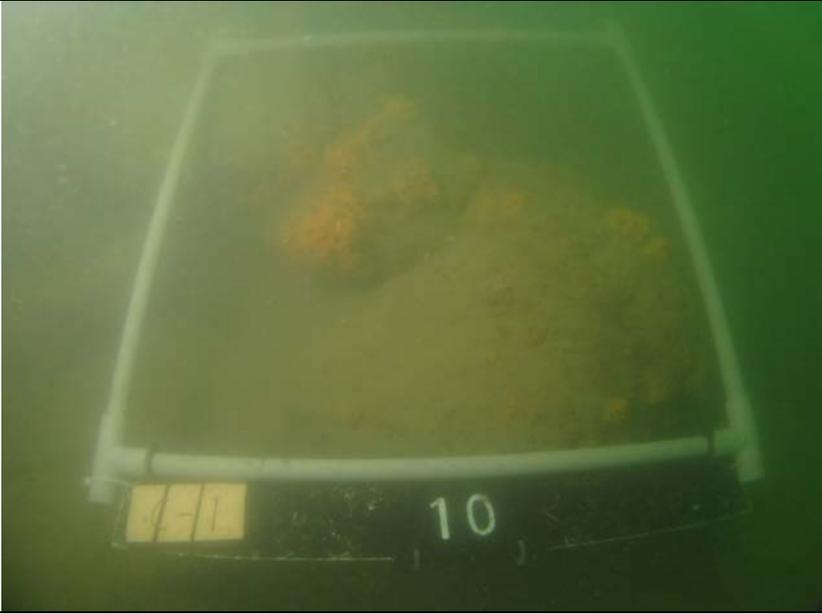
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>測線全景</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 29 日

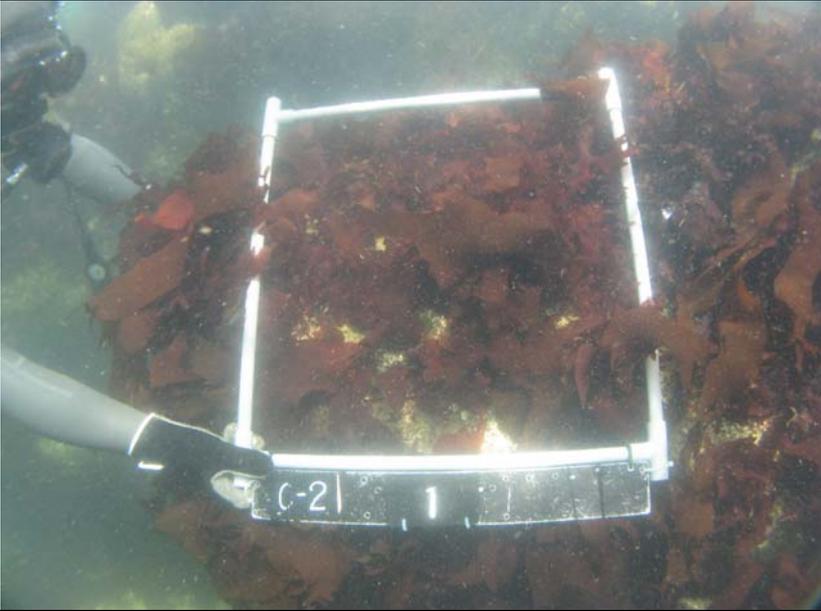
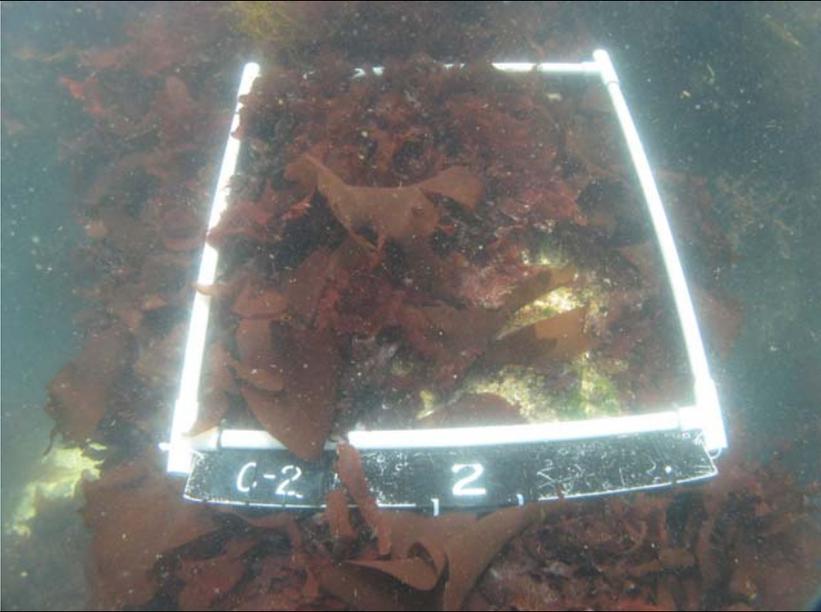
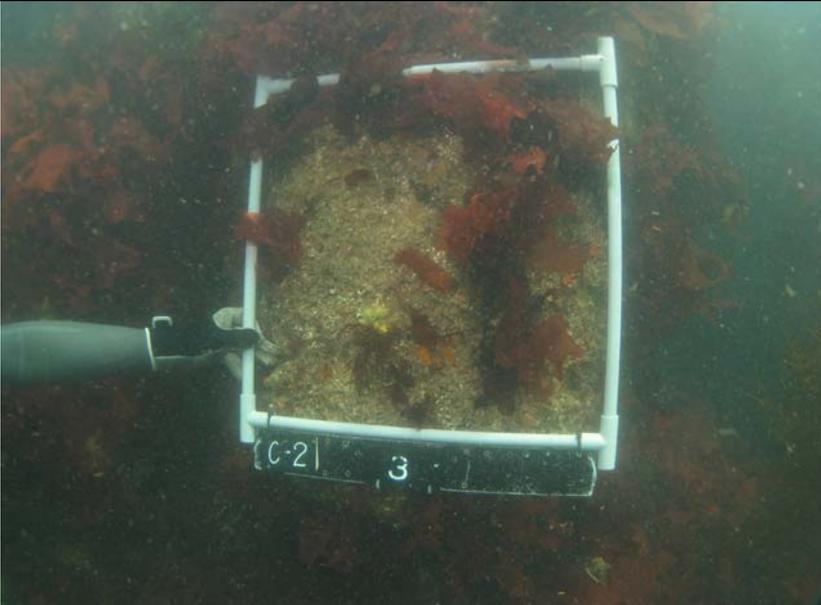
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>

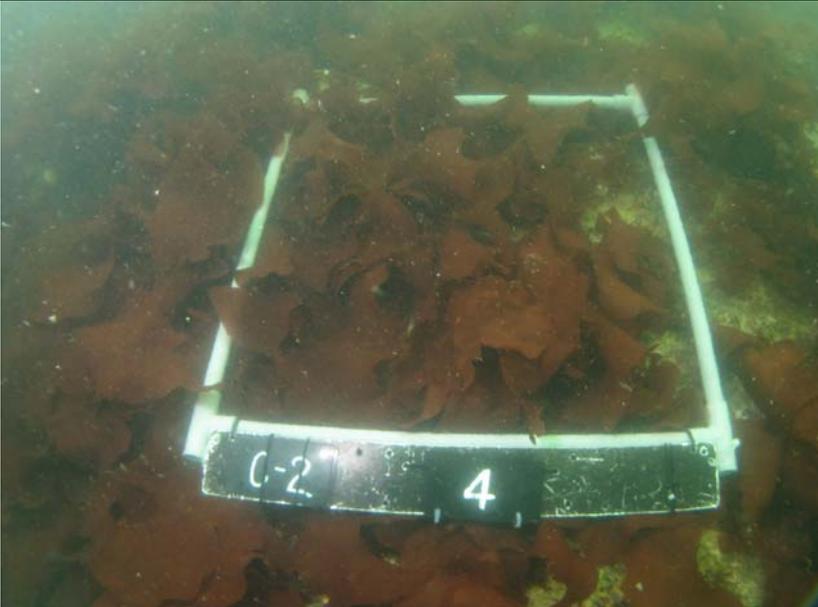
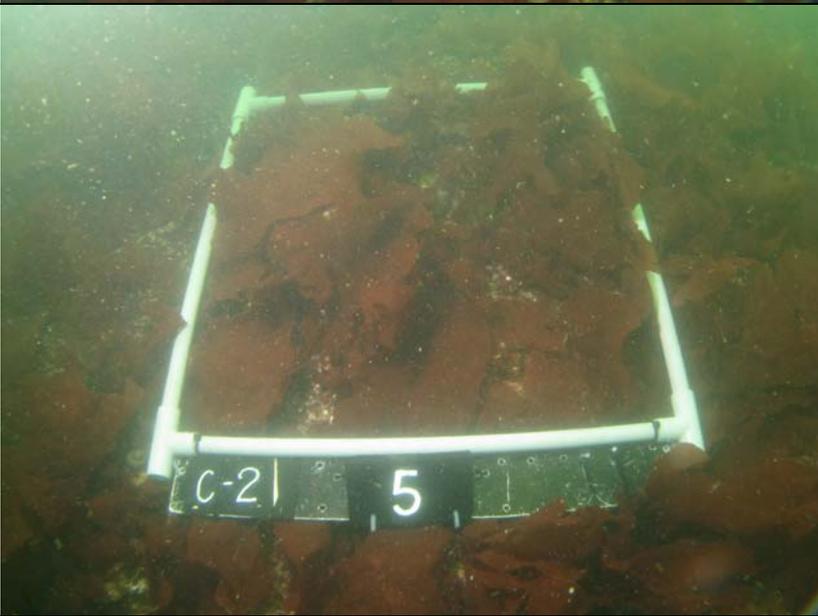
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>

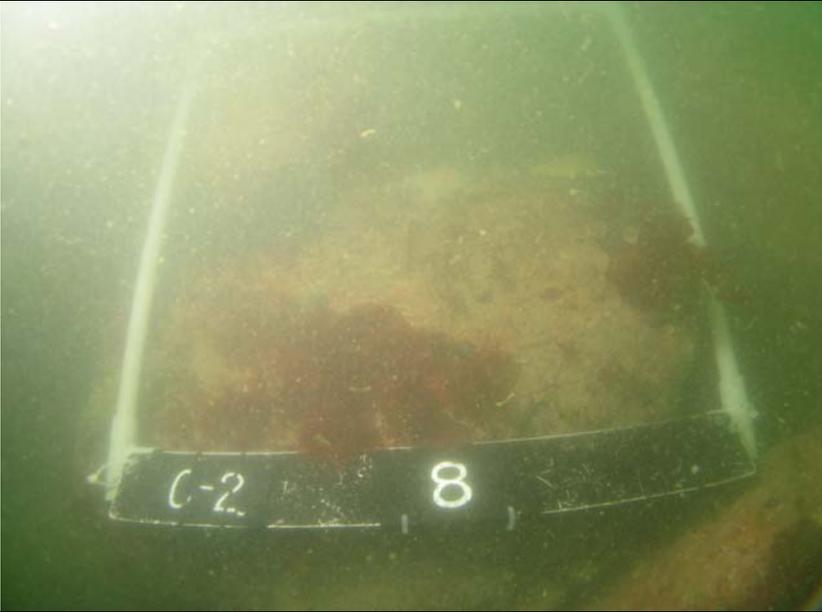
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-1</p> <p>M. W. L. -10.0m</p>

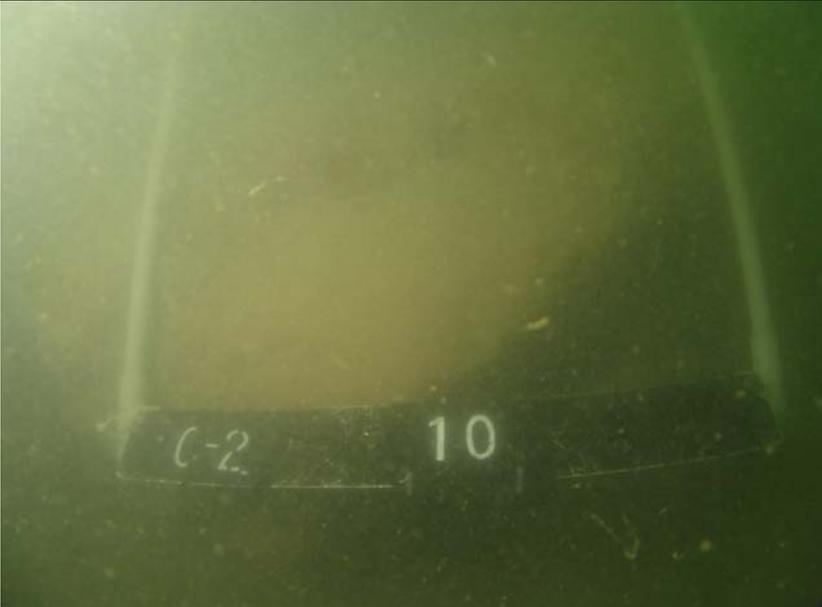
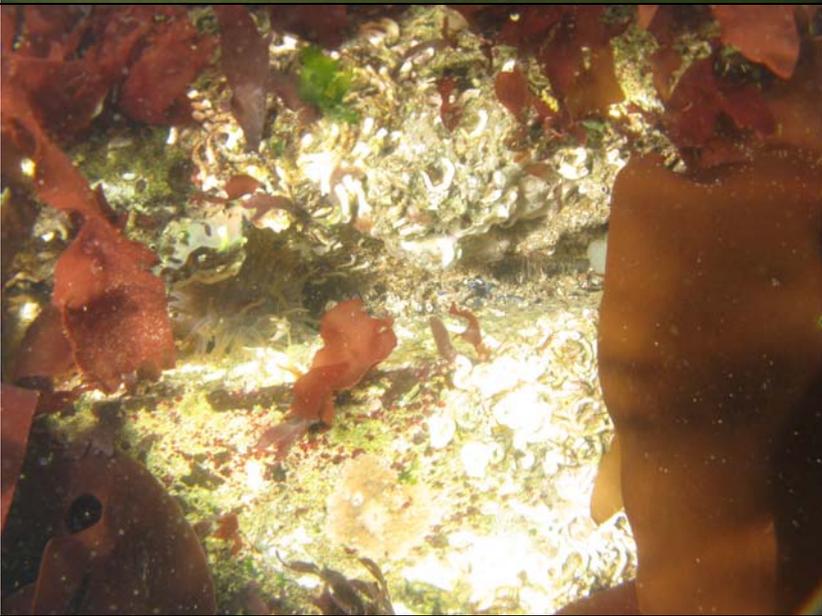
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 29 日

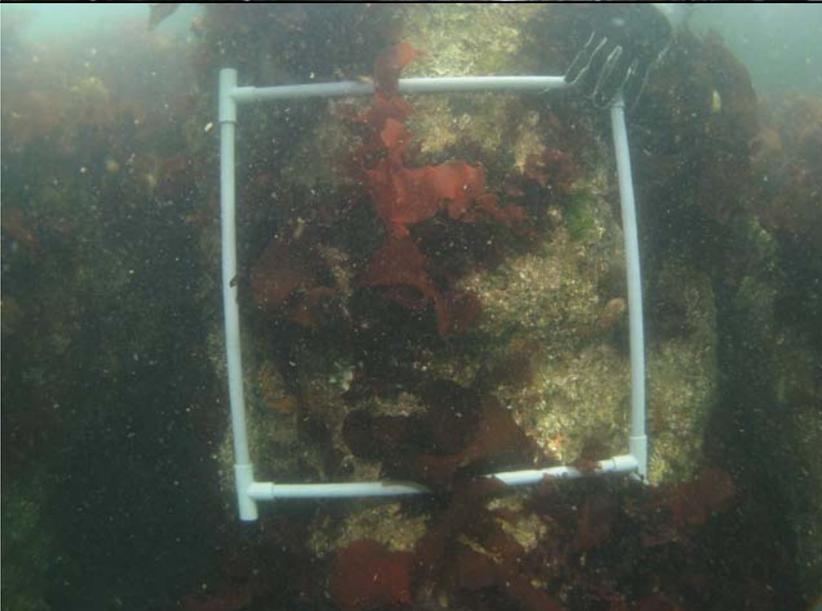
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

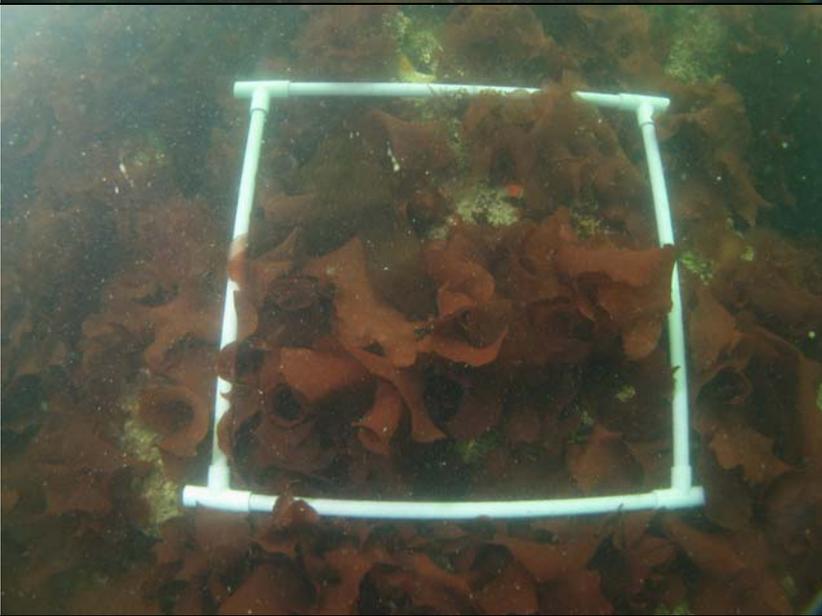
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -10.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L. -1.0m</p> <p>ブロック溝</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2</p> <p>M. W. L ±0.0m</p> <p>溝</p>

調査日：平成 22 年 5 月 29 日

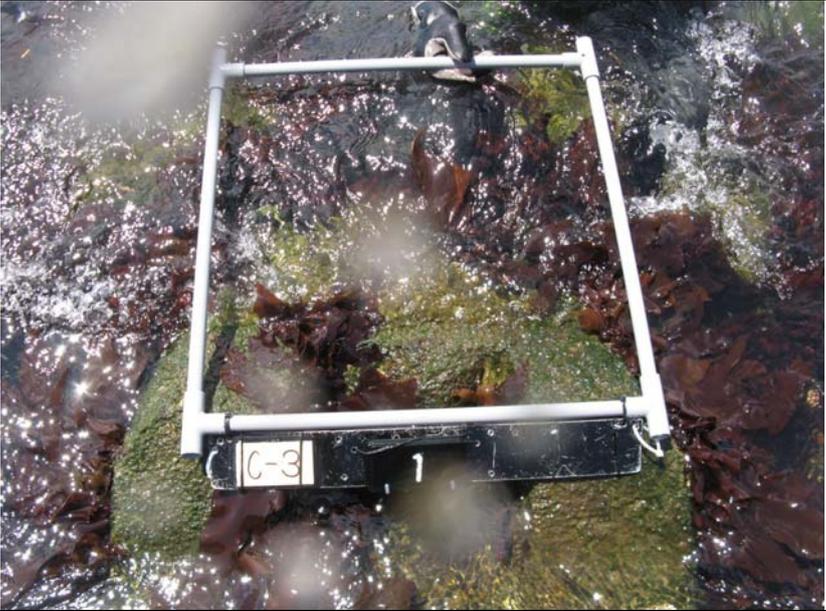
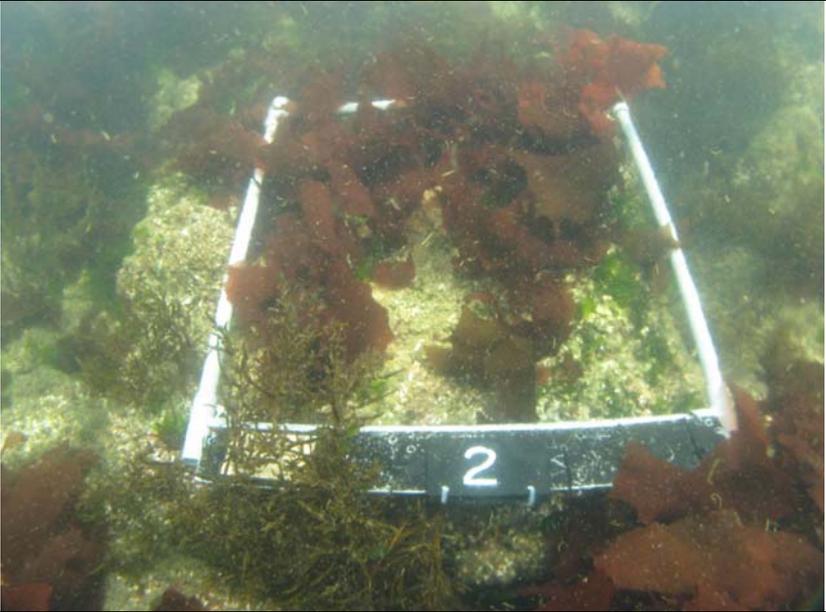
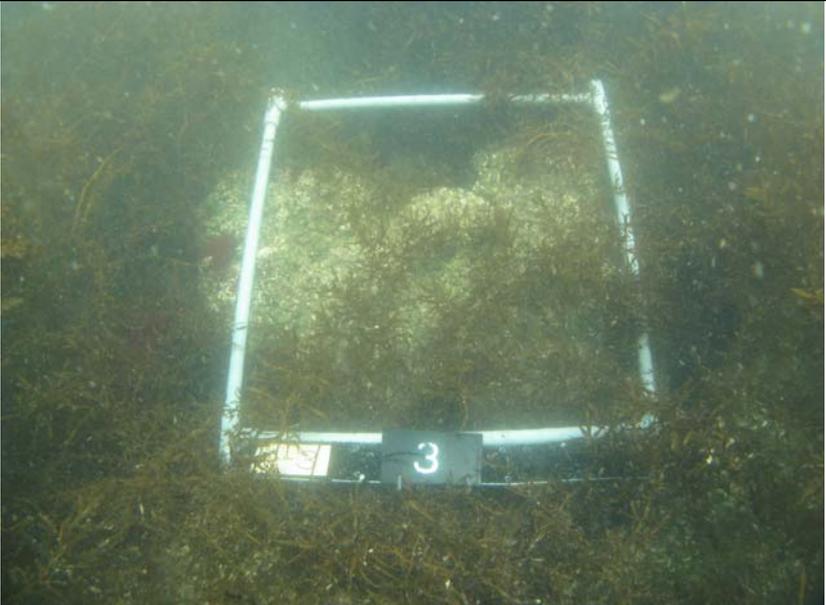
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2 上層</p> <p>採取前 M. W. L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2 上層</p> <p>採取後 M. W. L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2 中層</p> <p>採取前 M. W. L. -2.0m</p>

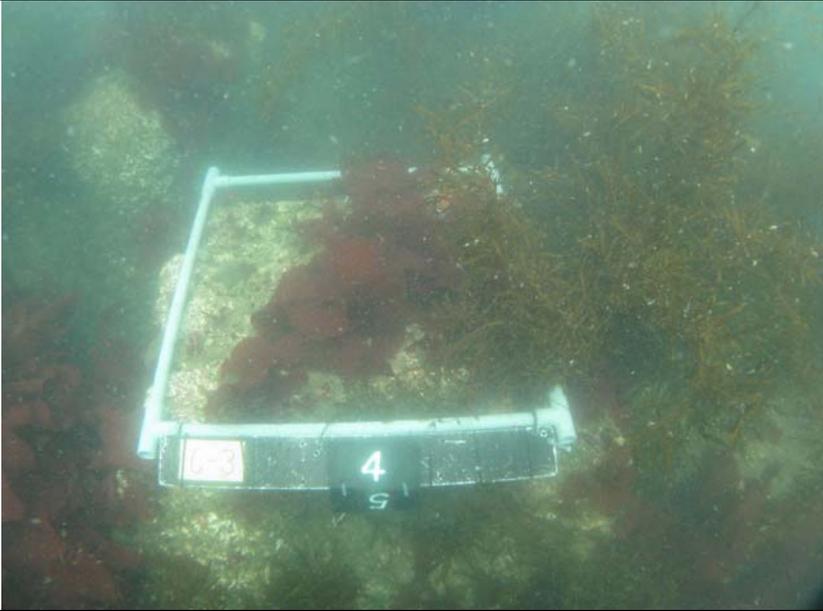
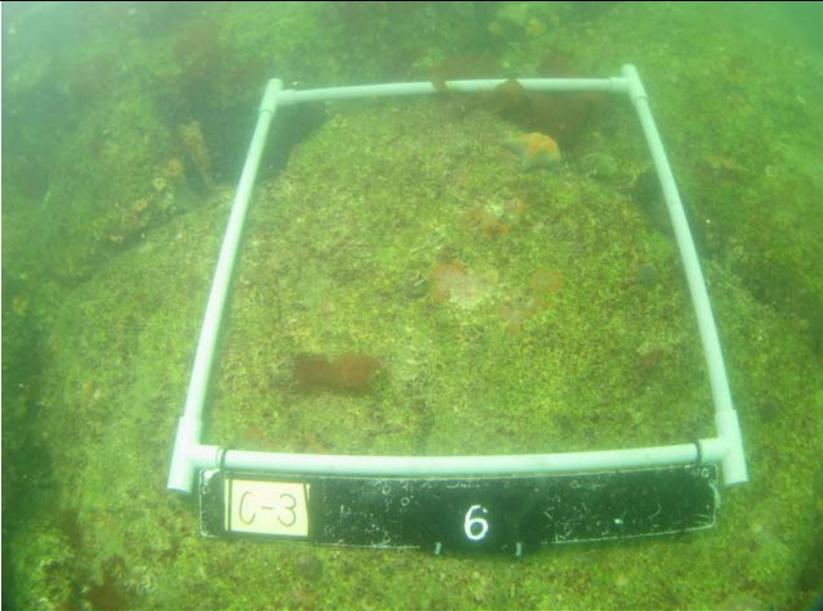
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2 中層</p> <p>採取後 M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2 下層</p> <p>採取前 M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-2 下層</p> <p>採取後 M. W. L. -4.0m</p>

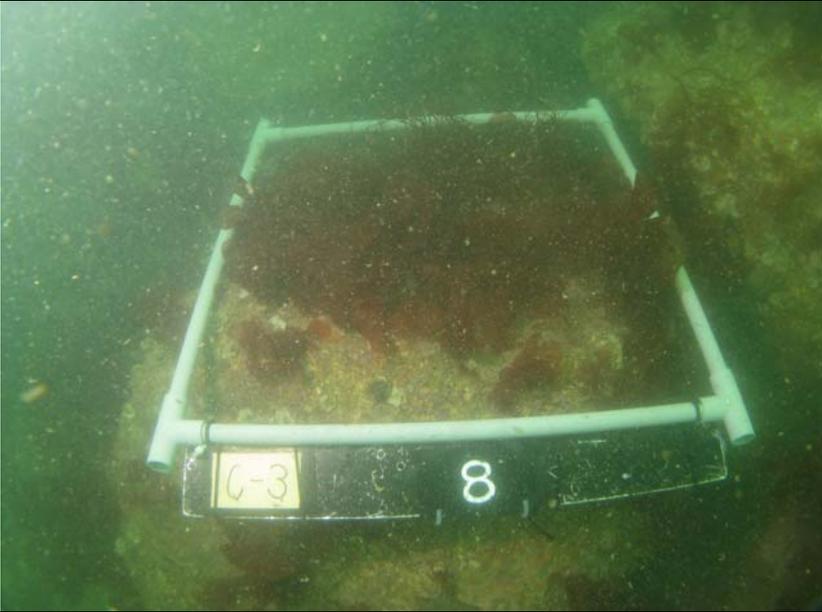
調査日：平成 22 年 5 月 29 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>測線全景</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

調査日：平成22年5月29日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

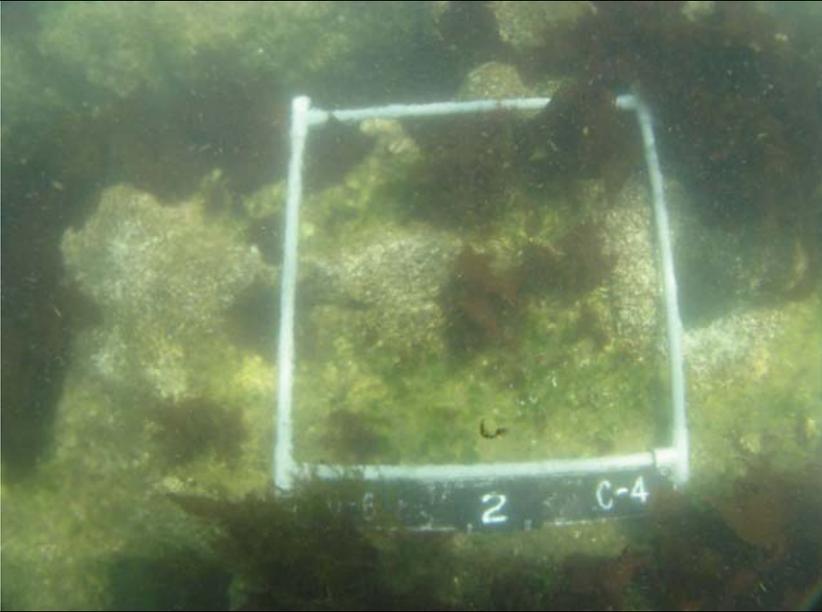
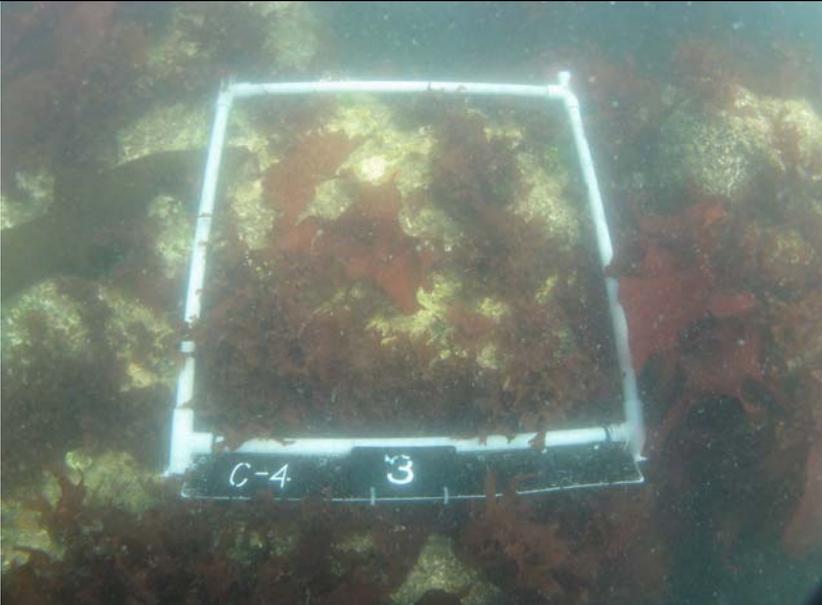
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

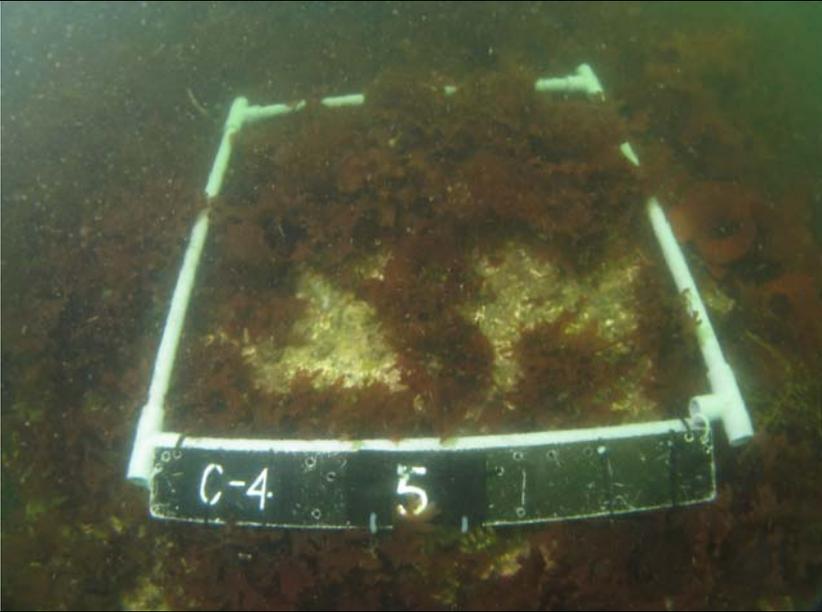
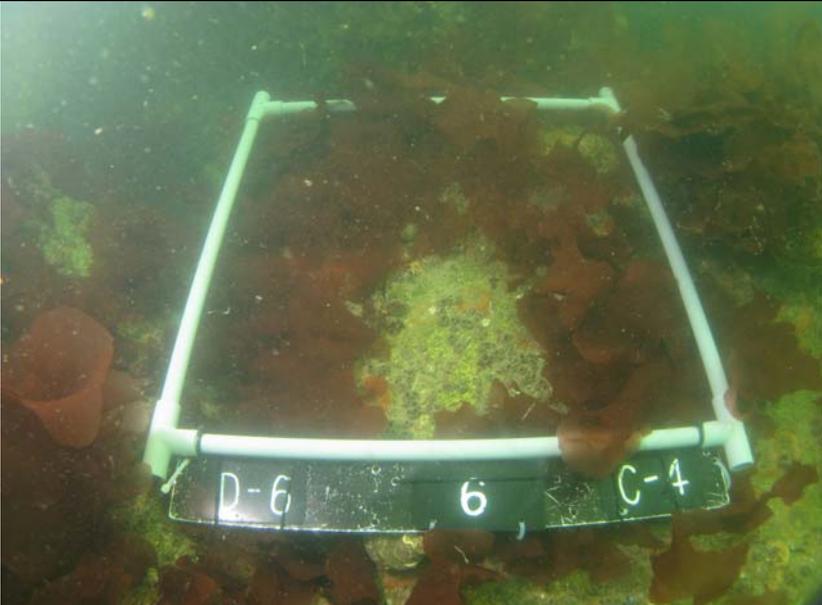
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-3</p> <p>M. W. L. -10.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>作業状況 観察の状況</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>作業状況 ビデオ 撮影 の状況</p>

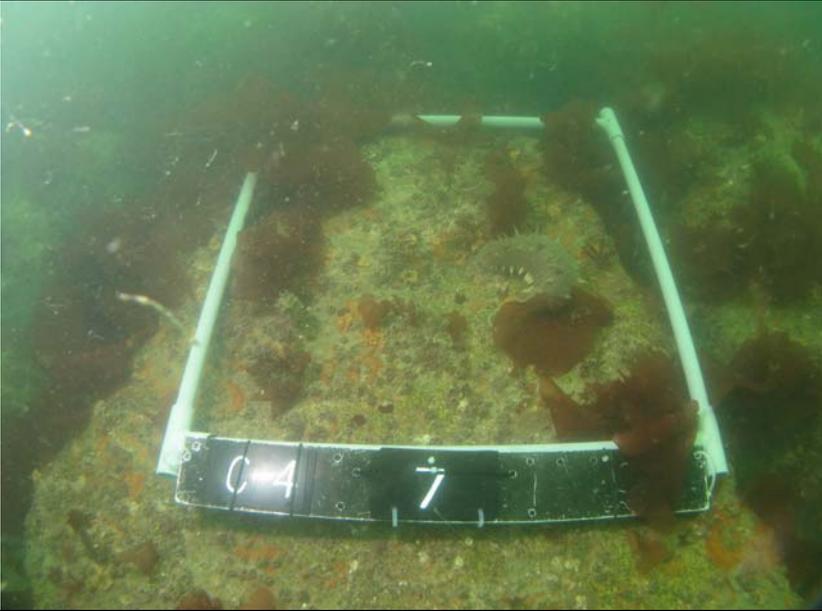
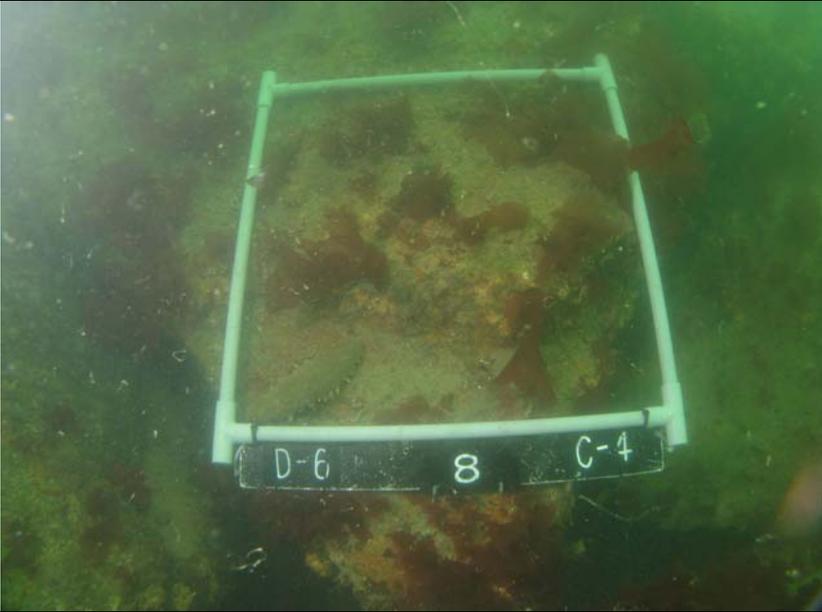
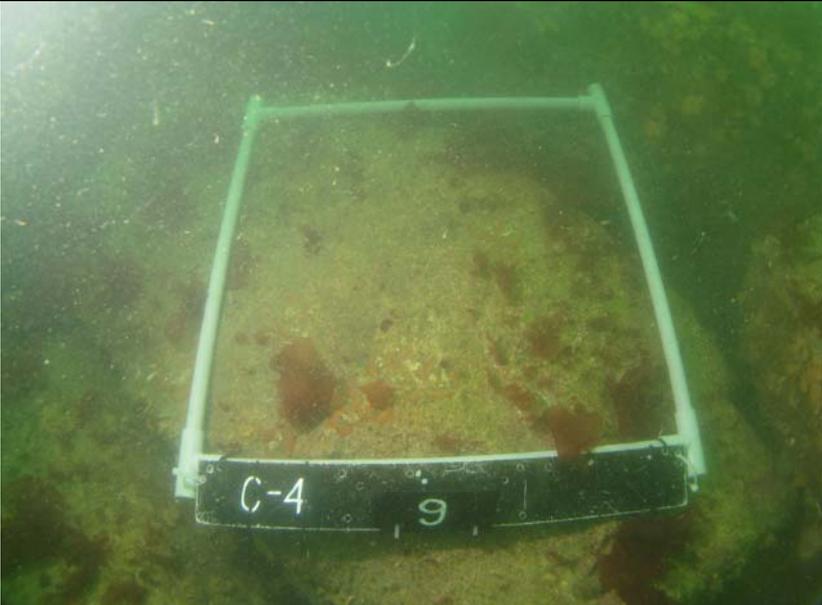
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

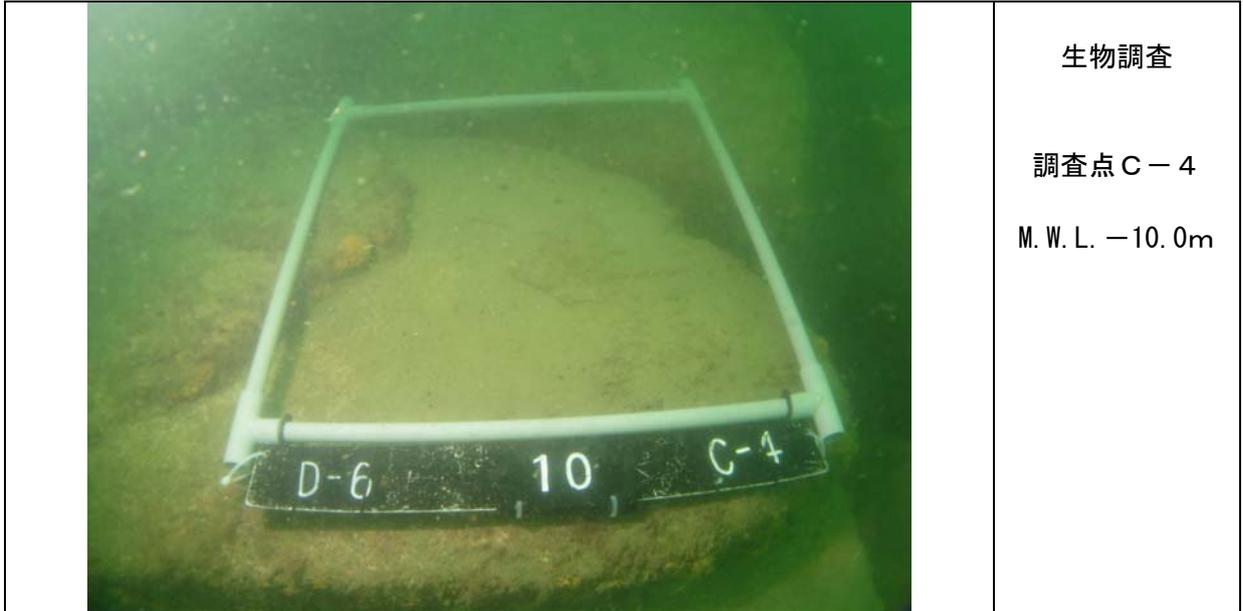
調査日：平成22年 5月29日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 29 日

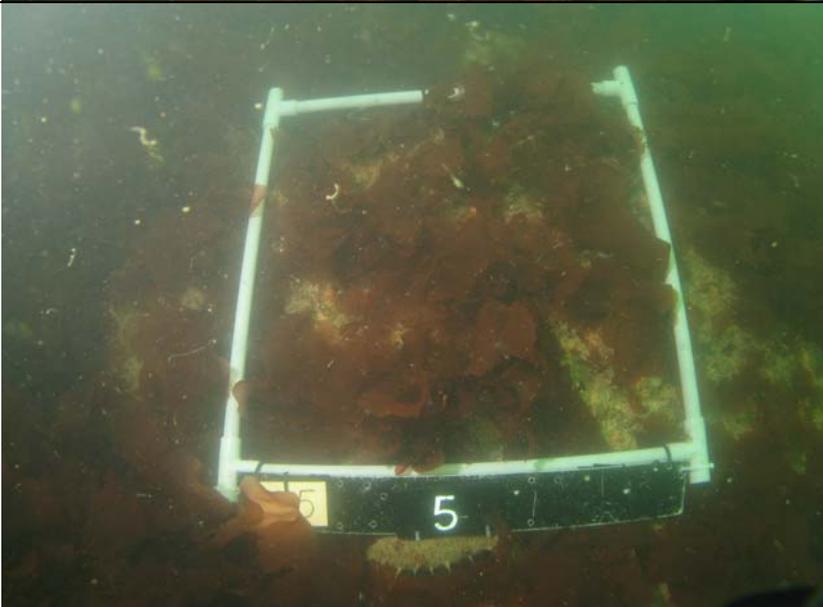
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-4</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>



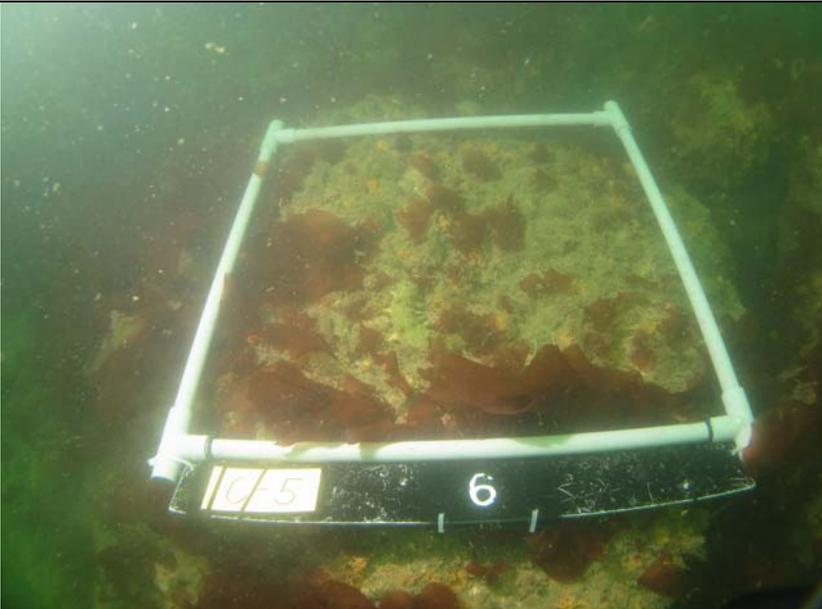
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 29 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>

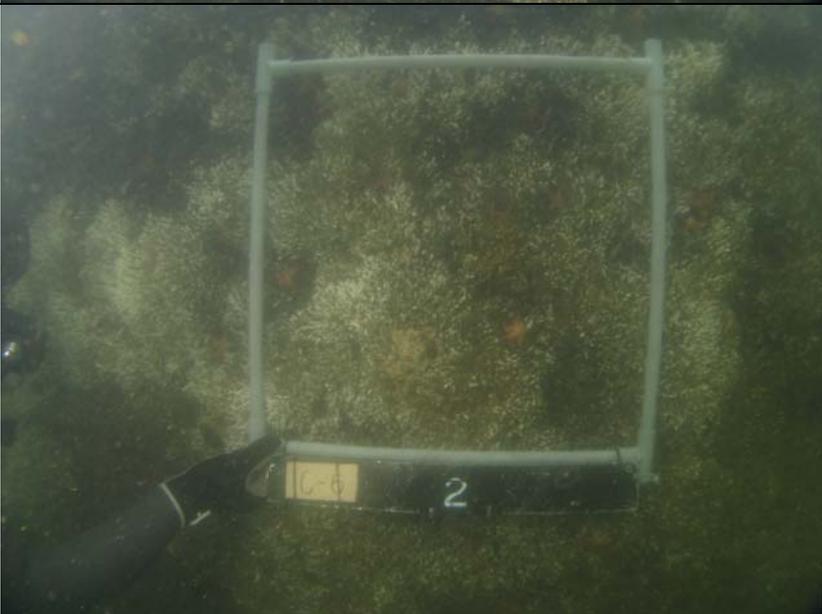
調査日：平成 22 年 5 月 29 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>

	 An underwater photograph showing a square frame structure. A yellow tag with the number '9' is attached to the bottom-left corner of the frame. The water is greenish and slightly turbid.	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-5</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>
--	---	--

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

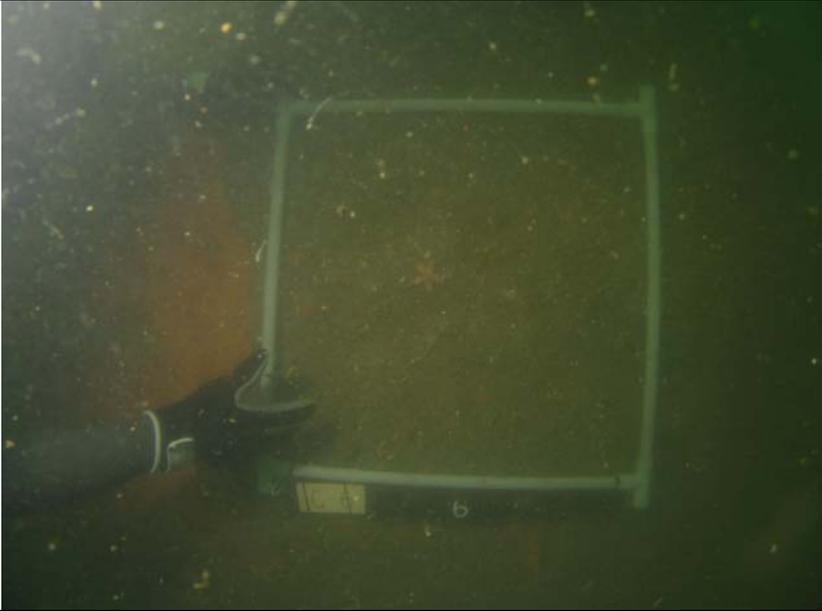
調査日：平成 22 年 5 月 29 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

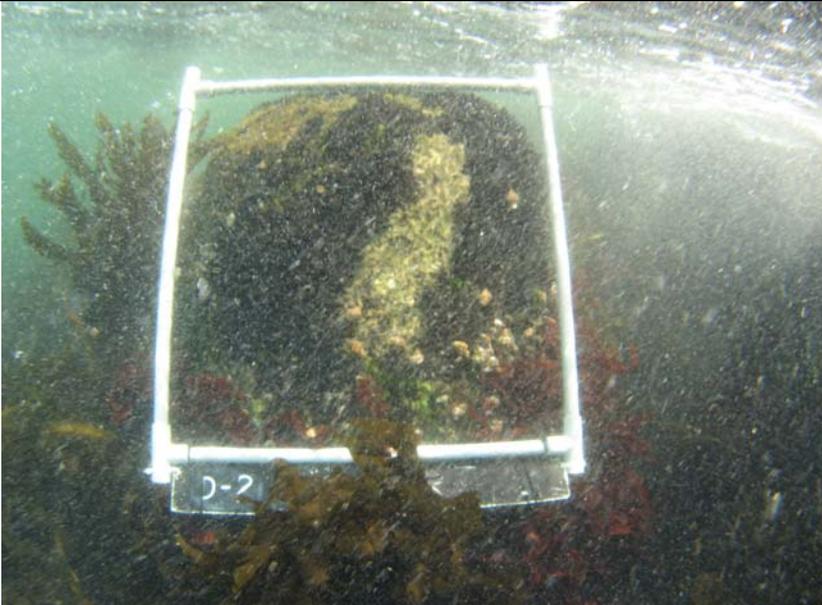
調査日：平成 22 年 5 月 29 日

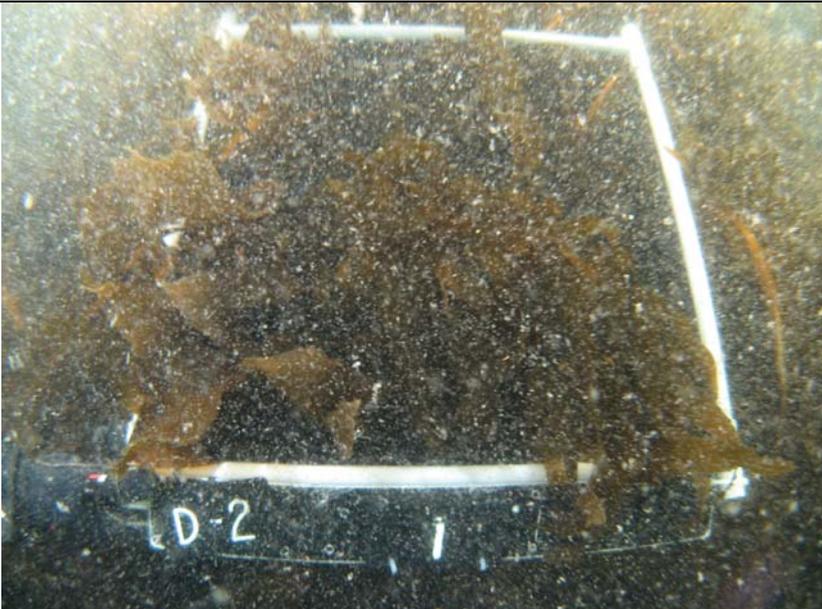
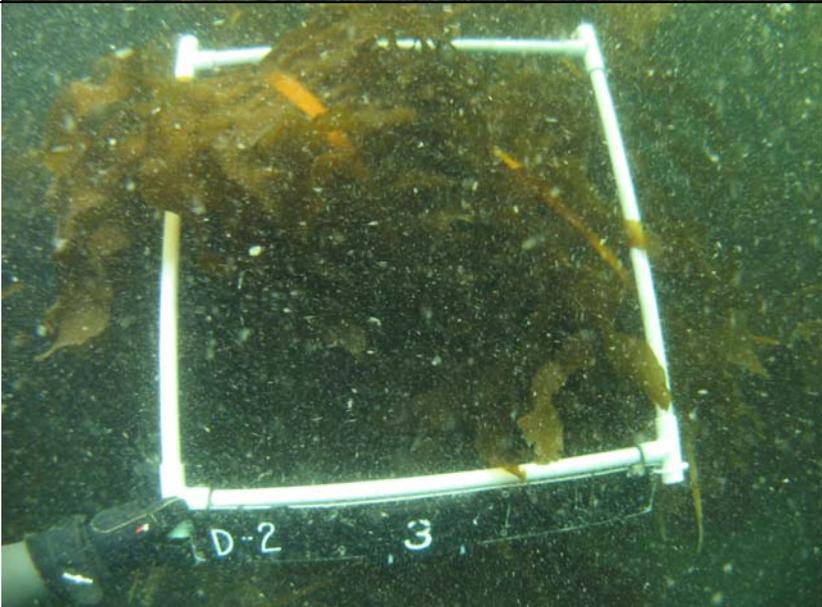
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>

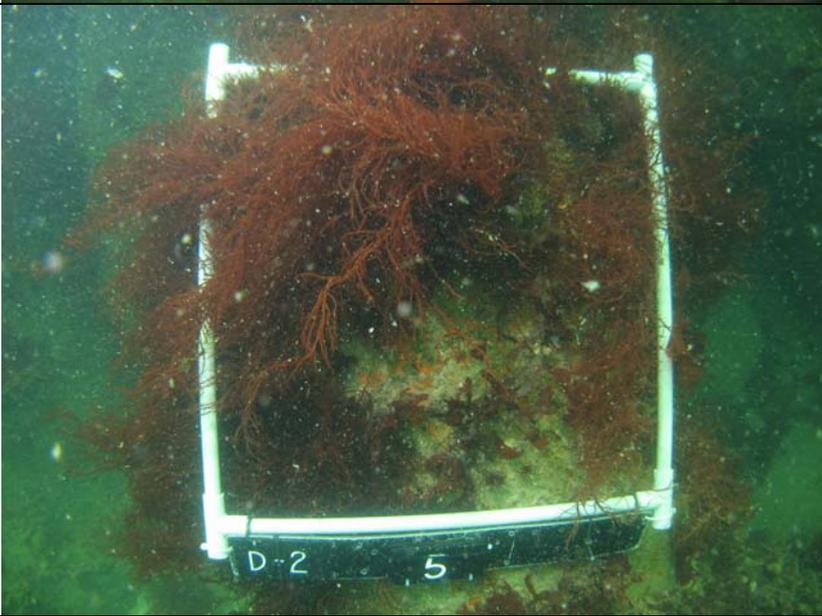
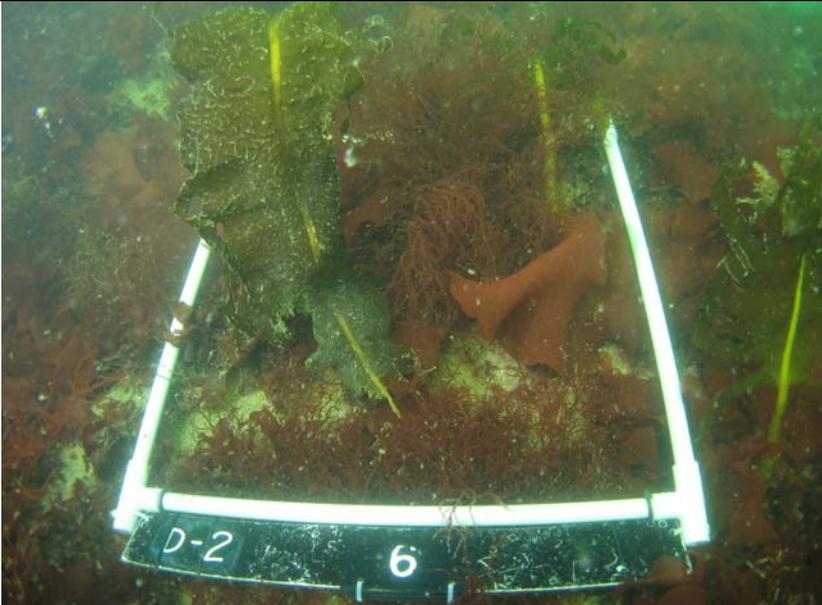
調査日：平成 22 年 5 月 29 日

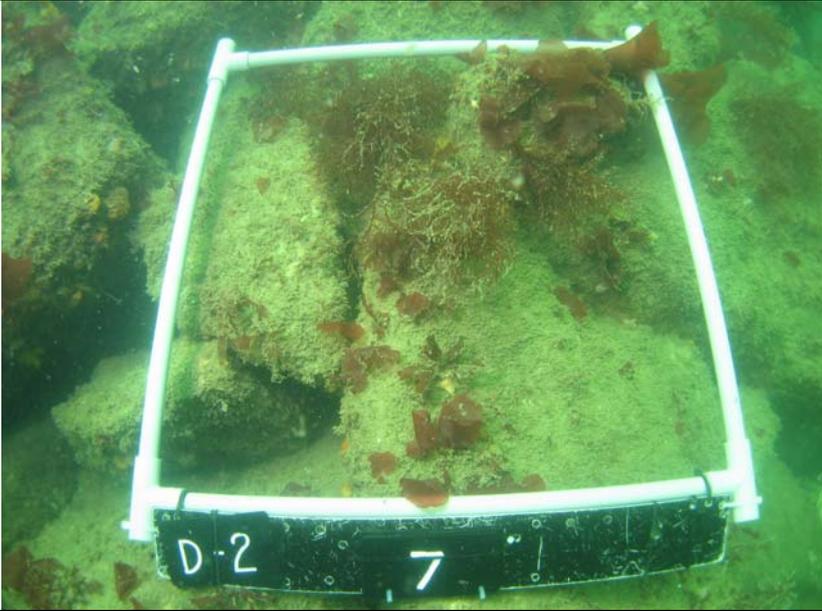
			<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 C-6</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>

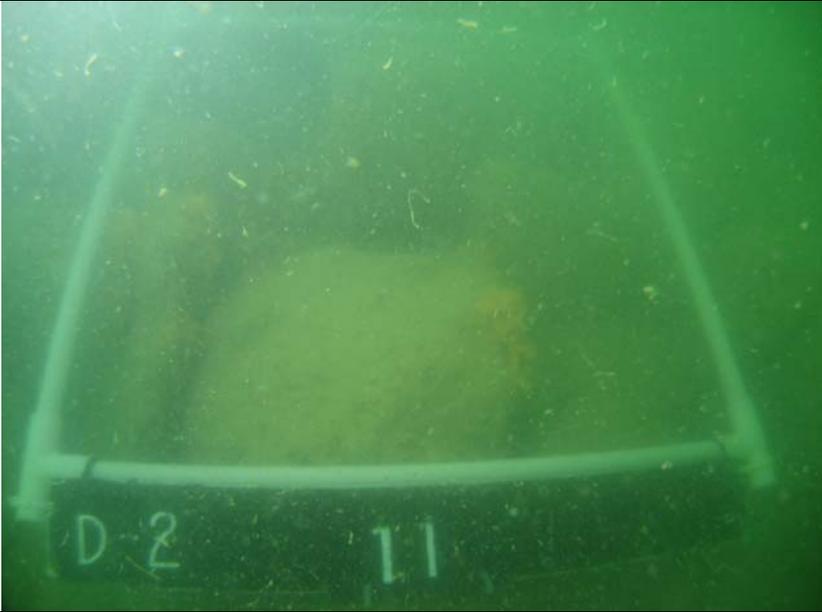
D. 泉大津沖処分場

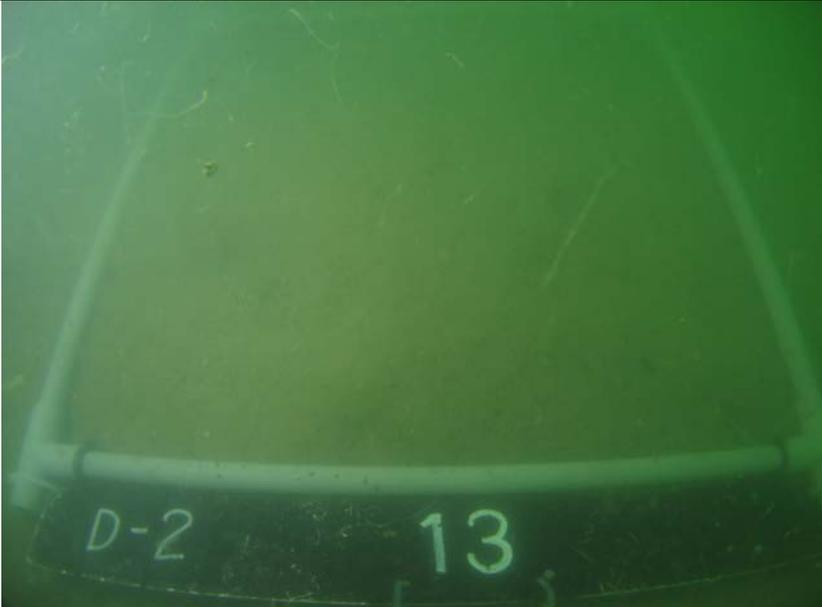
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L ±0.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

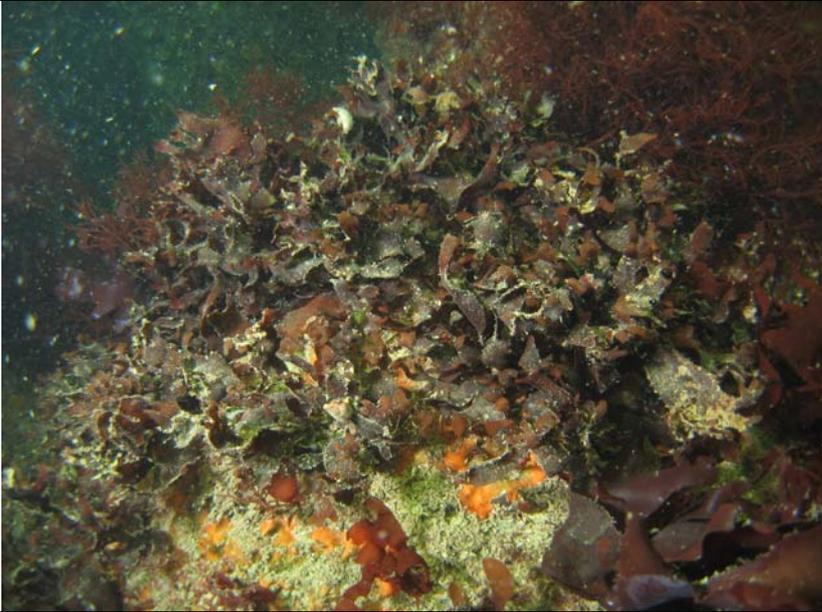
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -10.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -11.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -12.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -13.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. ±0.0m 付近</p> <p>レイシガイ ムラサキガイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>ワカメ</p>

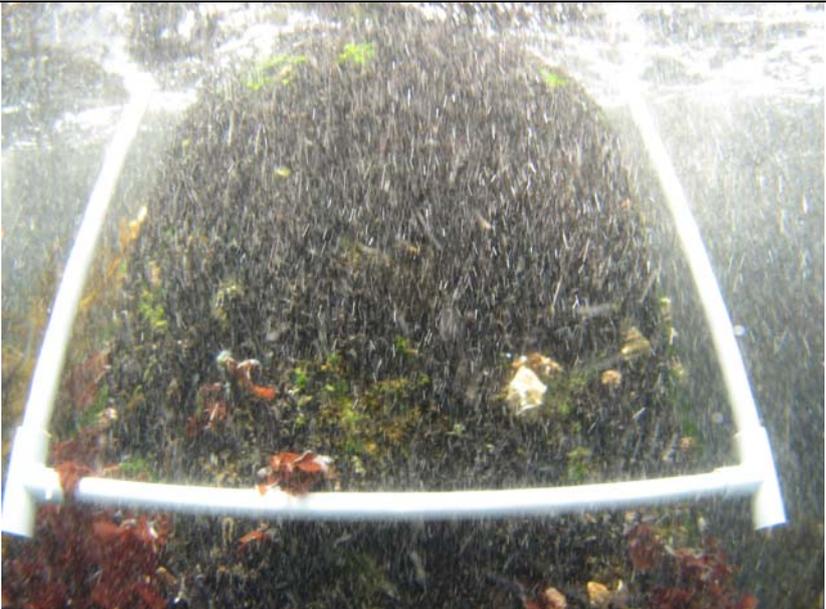
調査日：平成 22 年 5 月 21 日

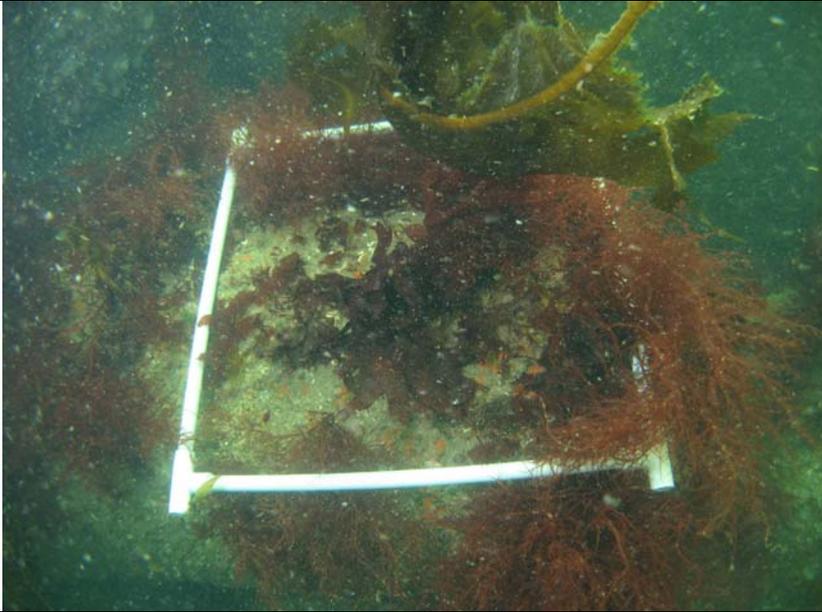
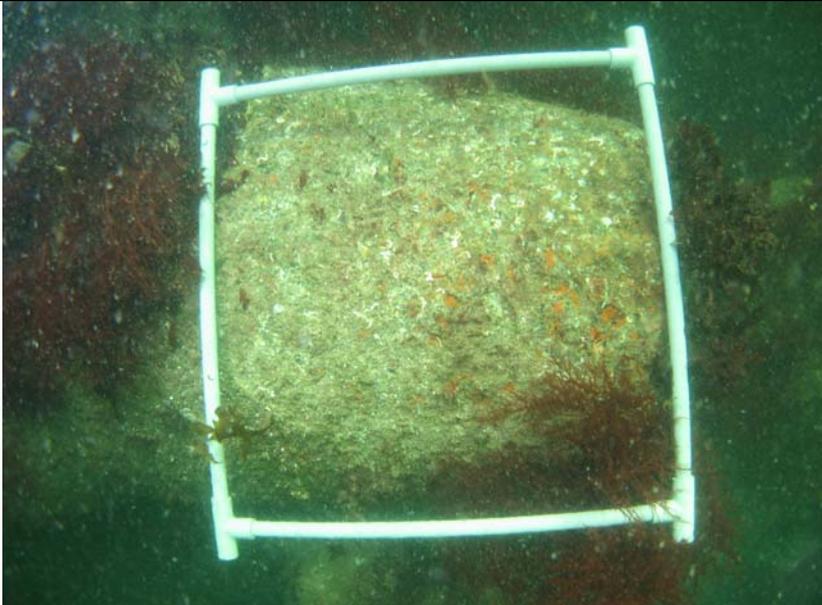
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>ウミタナゴ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -3.0m 付近</p> <p>オオバツノマタ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -6.0m 付近</p> <p>アサヒアナハゼ</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

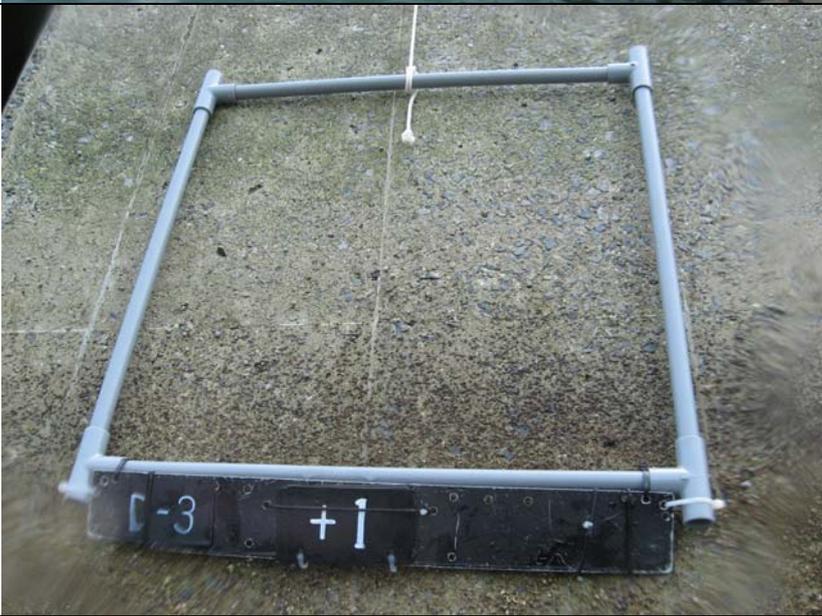
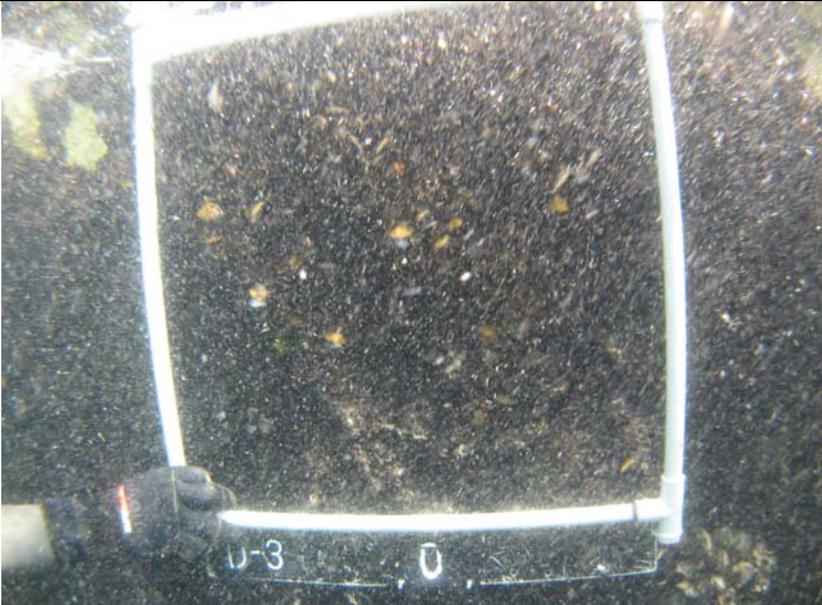
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -6.0m 付近</p> <p>クロダイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -6.0m 付近</p> <p>ススカケベニ タオヤギソウ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>M. W. L. -6.0m 付近</p> <p>メバル</p>

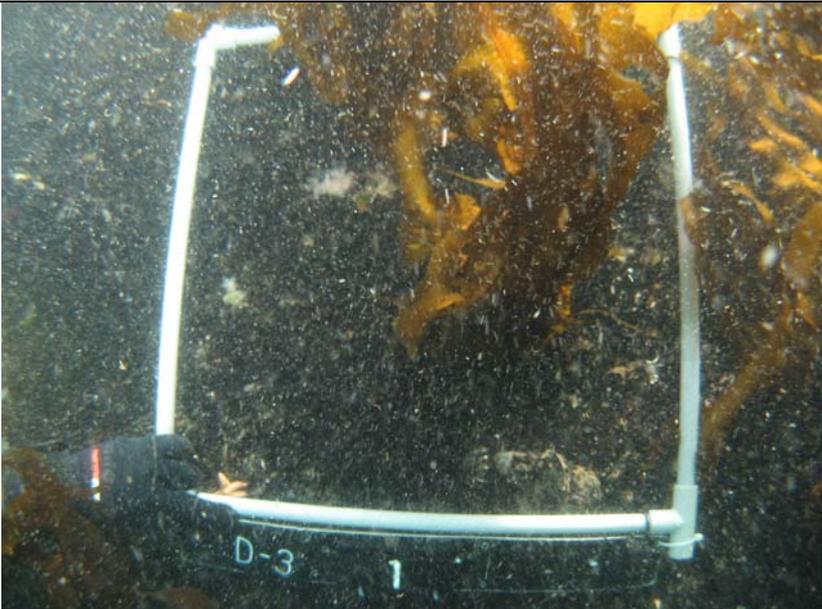
調査日：平成 22 年 5 月 21 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>採取り前 M. W. L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>採取り後 M. W. L. ±0.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>採取り前 M. W. L. -2.0m</p>

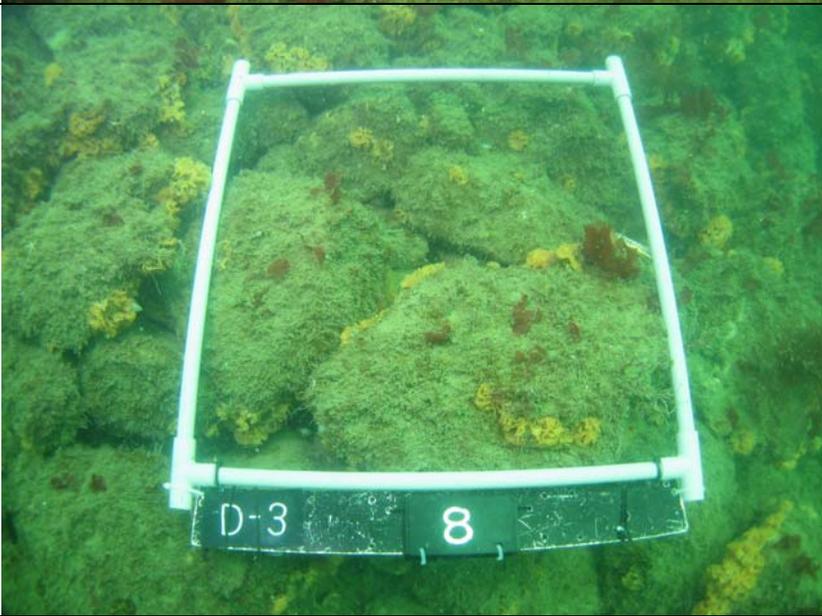
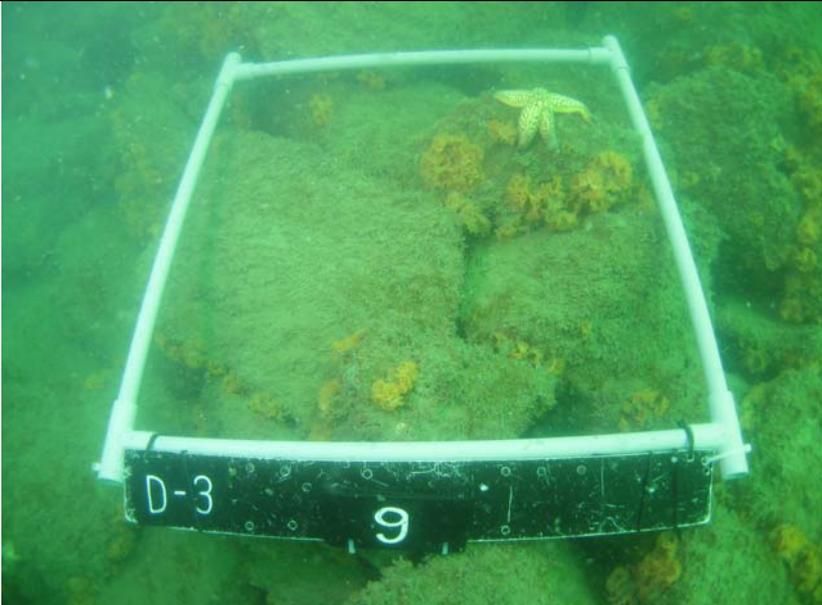
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>粹取り後 M. W. L. -2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>粹取り前 M. W. L. -4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-2</p> <p>粹取り後 M. W. L. -4.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

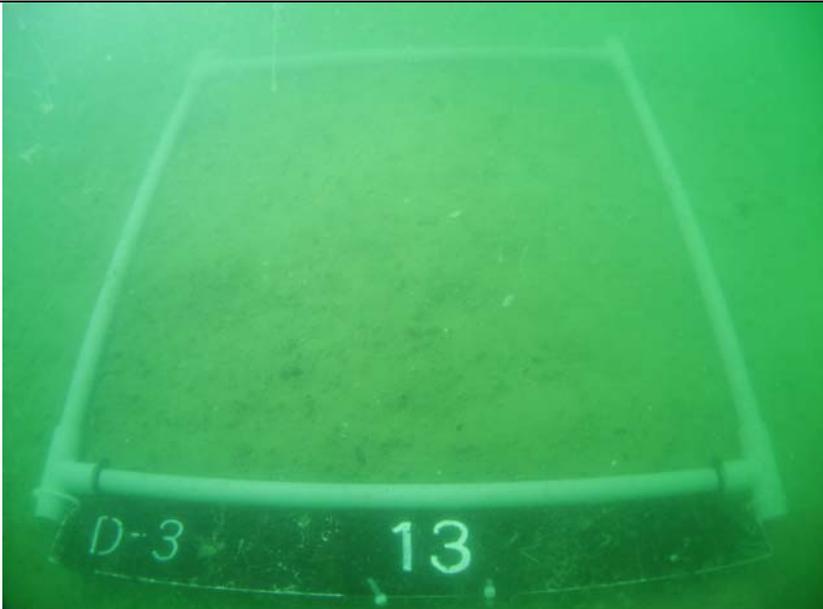
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. ±0.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -3.0m</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -5.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -6.0m</p>

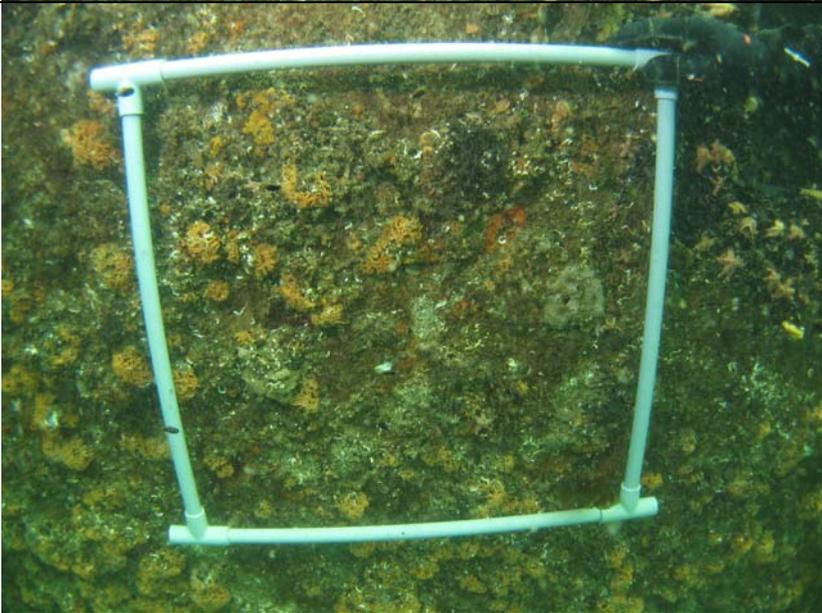
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -7.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -8.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -9.0m</p>

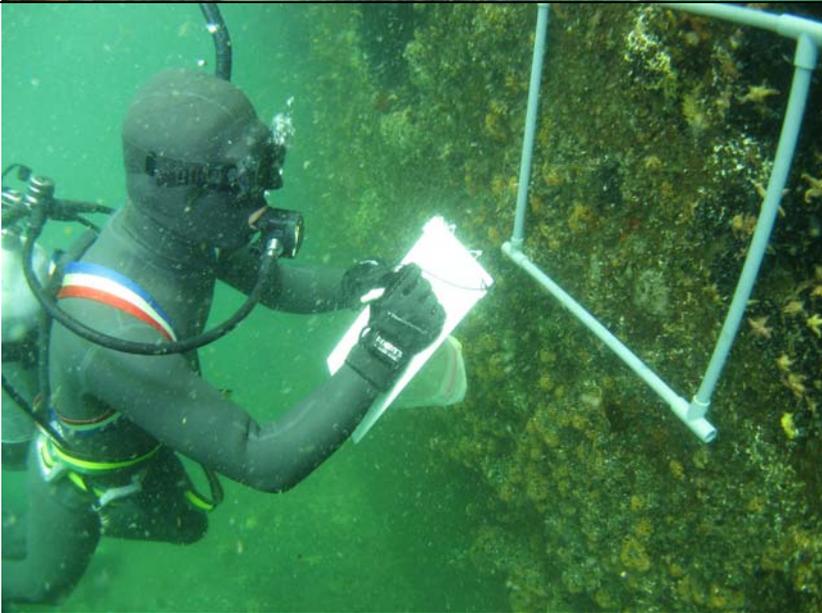
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -10.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -11.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -12.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -13.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>ワカメ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>アイナメ</p>

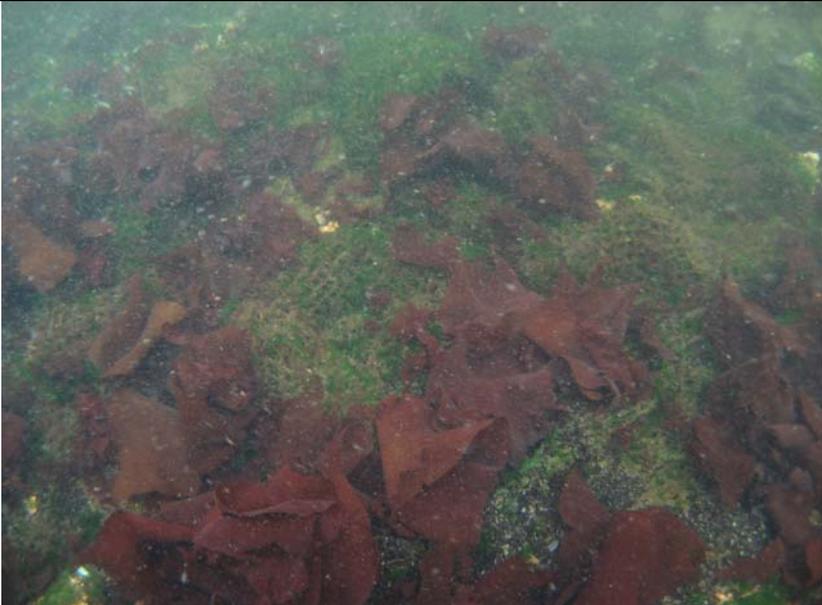
調査日：平成 22 年 5 月 21 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -6.0m 付近</p> <p>キヒトデ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -6.0m 付近</p> <p>ワカメ ススカケベニ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>M. W. L. -7.0m 付近</p> <p>メバル</p>

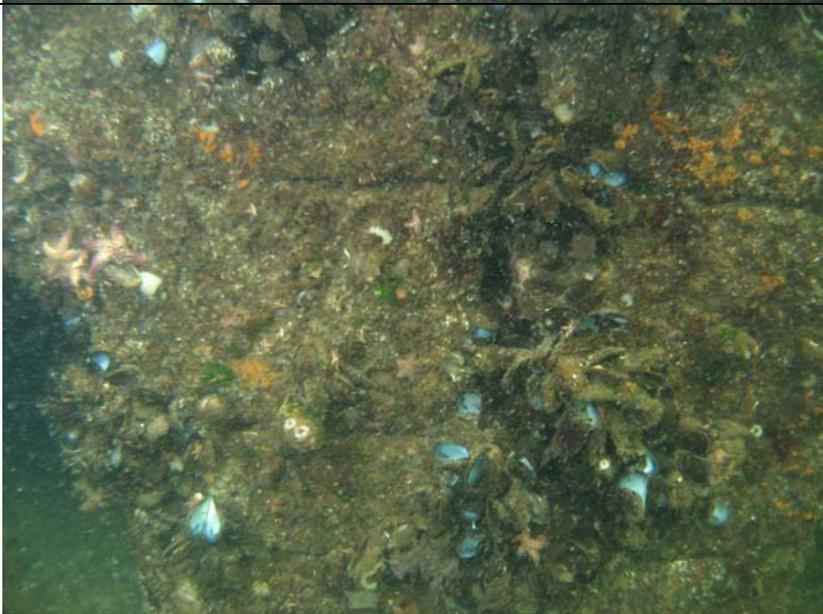
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>枠取り前 M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>枠取り後 M. W. L. -2.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>枠取り前 M. W. L. -4.0m</p>

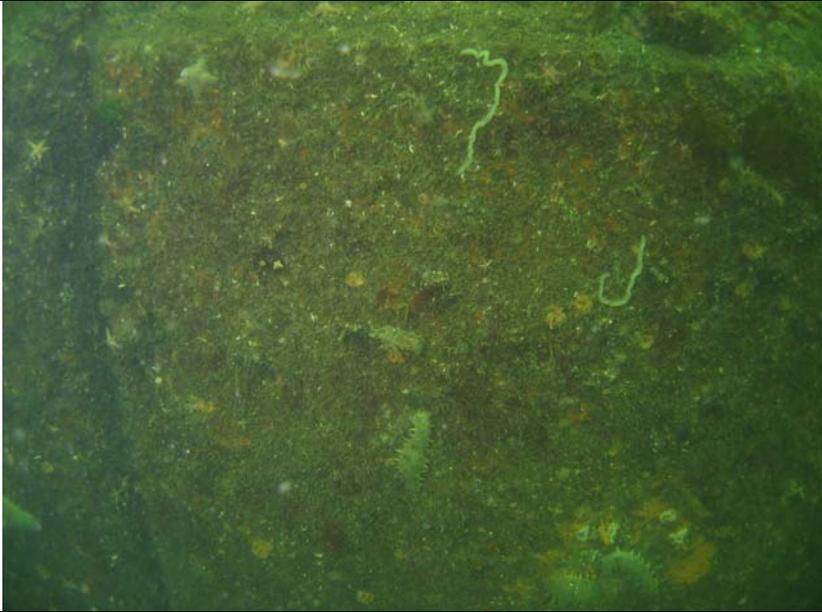
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>枠取り後 M. W. L. -4.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>作業状況 枠取り採取</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-3</p> <p>作業状況 目視観察</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. +1.0~±0.0m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. ±0.0~-1.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -1.0~-2.0m</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -2.0~-3.0m</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -3.0~-4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -4.0~-5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 上室・上面</p>

			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 上室・側面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 上室・下面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 上室</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 上室 人工海藻</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 下室・上面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 下室・側面</p> <p>クロダイ</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 下室・下面</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 下室</p>
			<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室 下室 U字側溝</p>

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>M. W. L. ±0.0m 付近</p> <p>フダラク</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁周辺 スズメダイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁周辺 メバル</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>エコ岸壁周辺 ワカメ タオヤギソウ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室内 クロダイ</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-5</p> <p>遊水室内 マナマコ</p>

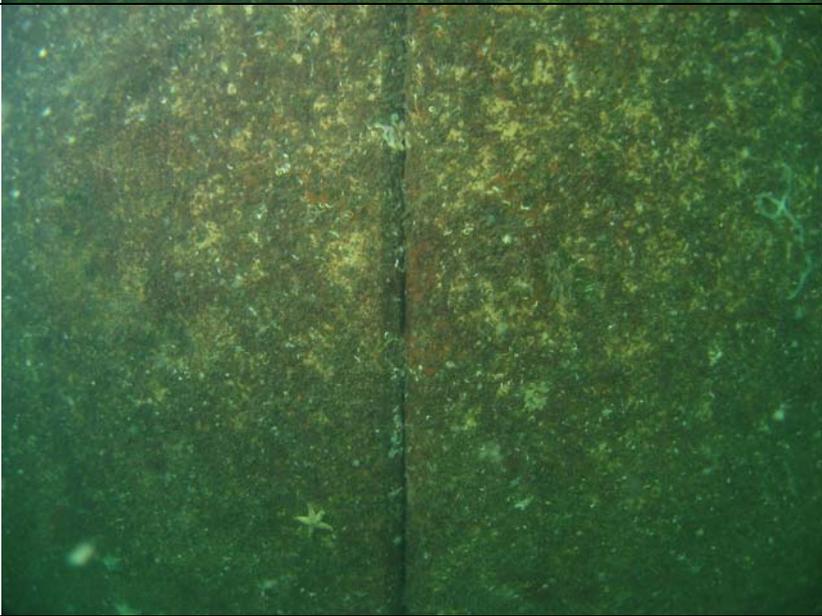
調査日：平成 22 年 5 月 21 日

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>測線全景</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. +1.0m</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. +1.0~±0.0m</p>

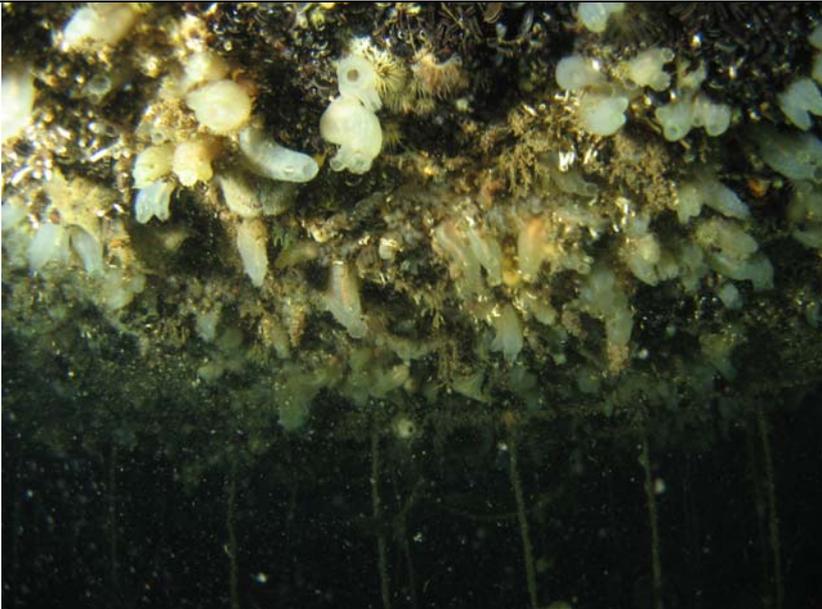
調査日：平成 22 年 5 月 21 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. ±0.0~-1.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -1.0~-2.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -2.0~-3.0m</p>

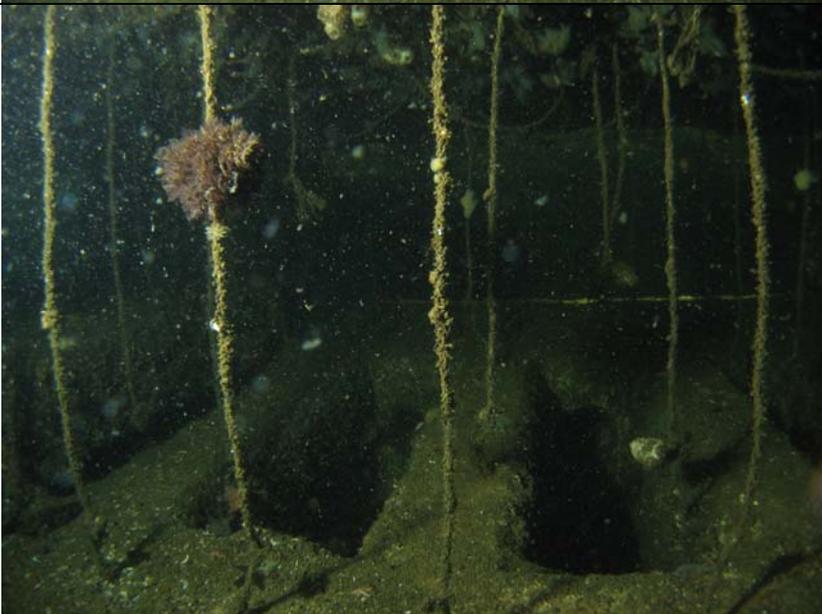
調査日：平成 22 年 5 月 21 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -3.0~-4.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -4.0~-5.0m</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁</p> <p>M. W. L. -5.0~-5.5m</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>遊水室 上室・上面</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>遊水室 上室・側面</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>遊水室 上室・下面</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>遊水室 上室</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>遊水室 上室 人工海藻</p>
		<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>遊水室 下室・下面</p>

	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>遊水室 上室</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁 M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>ワカメ</p>
	<p>生物調査</p> <p>調査点 D-6</p> <p>エコ岸壁 M. W. L. -2.0m 付近</p> <p>ユウレイボヤ属</p>

調査日：平成 22 年 5 月 21 日

